

特集 夫の過労死は他人ごとか?

時事放談「専業主婦論争」

養護学校の生徒たちその1

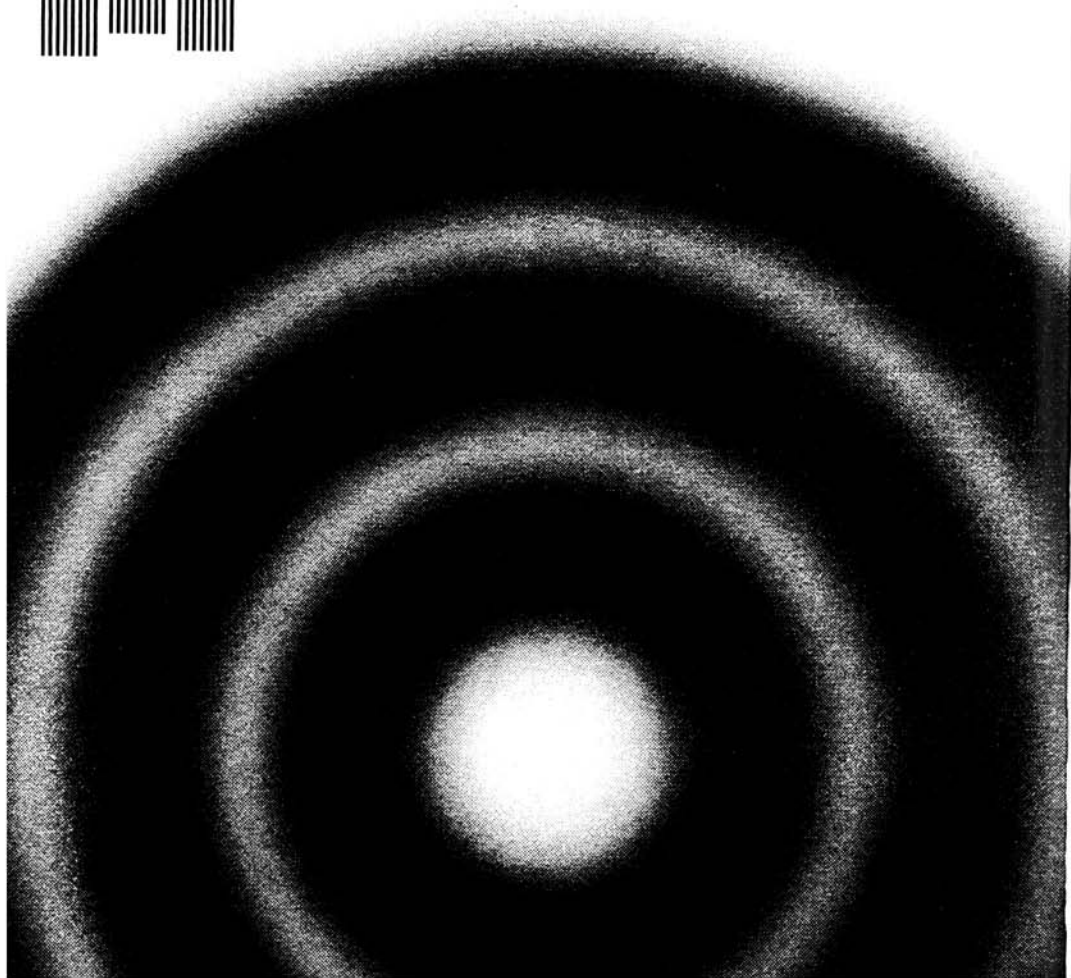


読んで、書いてネットワークキング

257



●—— 読んで、書いて ネットワーキング



読んで、書いてネットワークキング わいふ二五九号

目次

4 ヴァラエティ・ライフ⑦

野生植物画家・エコロジスト
ヴァージン・フォレスト愛宕山を守りたい
写真提供・文ノ藤井恵子さん 藤井恵子さん

特集 夫の過労死は他人ごとか？

- 10 夫は過労死した 増田桂子
- 26 女も過労死？ 大沢陽子

30 エッセイスト・クラブ

原 眞智子・上林愛子

33 おすすめの一冊 小島優子

- 88 時尾松子
- 89 小川由里
- 109 田中喜美子
- 119 木村澄子

34 電柱始末記 中野耀子

私と東京電力のサーフ・レシーブ

40 サーフレシーブ

村上あき子・深田加奈・山本雅子
野口敬子・福田豊子

46 養護学校の生徒たち その1 西尾裕子

61 平成おったまげーション②⑤ 西田淑子

62 家族と私

本庄たよ子

64 戦後50年記念連載 人生愁恨③ 荻田一枝

75 大人になりかかった子供たち

米良恭子・匿名

81 おさない子を育てる

澤潟裕子・宮崎貴子・村瀬智子

87

忘れ得ぬ人々

西谷富士子

90

マイジョブ・マイホビー

三田サキ

92

時事放談④「専業主婦論争」

大川原みち子・河野道子・田中優子
平永早百合・米山眞梨子

101

ズバリ一言

岡田美幸・十文字圭子・堂本暁子

110

アメリカ家族留学記
連載③

平尾桂子

120

コミック●痛快ノ一般人③②

栗田笑

124

ブック情報

127

老人ホーム情報センター発

126

フリースペース

神山寿子・高梨陽子・匿名

136

情報コーナー

138

わいわいがやがや

石井しのぶ・上田はるか・和田まゆみ
匿名

142

私もひとこと

田中優子・緒方洋子・村上悦子
加藤君子・米良恭子・十文字圭子
布施孝子・匿名・荒井照子
倉持和子

144

ファム・ポリテイク編集室より

田中喜美子

投稿規定——146 次号投稿募集
編集室から——151 編集だより——152 148わいふ原稿整理方針——17 バックナンバー——24
お友達にわいふを——39 文章講座のおすすめ——34
自費出版はわいふへどうぞ——140 添削希望の方へ——146■表紙／レイアウト・工房はやし
■AD・林 佳恵イラスト・小沢恵子・カステラネンコ
小林正子・小宅昌枝・佐藤瑞江子
田沼千恵・田村幹代・鳥居禎子
西宮ささ・橋本美智子・山田京子



ヴァラエティ ・ ライフ



野生植物画家・エコロジスト

ヴァージンフォレスト愛宕山を守りたい

藤井恵子さん (39歳)

東京都大島町



志を同じくする仲間も集まり、「大島の自然を守る会」が発足。八一名で始めた会も一八六名になりました。

伊豆大島の愛宕山の自然保護に関わって五年。初めはなぜこんな素晴らしい手つかずの自然を飛行場拡張のため伐りくすしてしまおうのか理解できず、なんとか皆にわかってもらいたいとスケッチブック片手に山に入り、巨木や野の花を描くことからスタートしました。



▲愛宕山とともに拡張で削られる予定の、島の北西にある乳ヶ峰。美しい女神のバストの形をしています。ここにも貴重な植物が……

▼5月の愛宕山



▲胸の羽が7色に光るカラシヤ

個人的には、東京新聞のリポーターとして愛宕山をはじめとする大島の自然についての記事を書いたり、年々二回描きためた植物画を島内外で発表し、保護を訴え続けています。

町や都港湾局は現在飛んでいるY・S・Iがリタイア後にボーイング737を飛ばさなくてはならず、だから拡張なんだと説明します。しかし愛宕山は島内唯一のスタジイ・タブノキのすみわけ分布の見られる極相林（原生林）で、希少種のランをはじめ、天然記念物のカラシヤバトなどを育む、他に類を見ない山です。植物の種類も非常に多く、神様が創った植物園のようで、多くの学識経験者からも反対の声があがっています。気軽に自然に親しめる山。愛宕神社（噴火の神）をまつる信仰の山でもあります。

伊豆大島の野生ランスケッチ展
1995年8月、上野にて





▲「伊豆大島水と緑の国際シンポジウム」記念植樹。
880本を植えました。左からDr.フランク・ゴリー、
アラン・スベル氏

◀ジョージア大環境デザインのアラン・スベル氏が
大島の自然の重要度を示す地図を発表

▼愛宕山を見て歩く日米WWF J合同調査団



◀「田と子のジョージア暮らし」
展。帰国報告を兼ねて、甲府
で米国南部の野草と娘たちの生
活画を発表。左から有花（小4）、
有希（小1）

私たちは、この貴重な山を残して
もらうために、拡張をせずに済
む他の飛行機を要望しましたが、
行政側、飛行機会社は経済性を優
先させ、他に機種があるにもかか
わらず拡張まっしぐらです。現在
は、都の環境アセスメントのため
の調査が終了し、報告書の縦覧に
入ろうとしています。

親子で楽しむ写生の会(乳ヶ崎を
描く)年4～5回企画して行なっ
ています。声高に自然保護を訴え
るよりスケッチを通して美しさ大
切さを学んでもらい、集まった人
の中から保護の芽が生えてきてほ
しいと願っています▼



▲68名の親子、教師が集い、愛宕山をスケッチブックに残した
(1993年5月)



九二年から七カ月間米国ジョー
ジア州で暮らしたとき、ジョージ
ア大の生態学研究室に飛び込み、
Dr. フランク・ゴリーに助けを求め
たのがきっかけで、日米合同調査
ジョージア大のスーパーコンピュー
タを使った大島の自然の重要度
を示す地図の作成がWWFJ
「財」世界自然保護基金日本委員
会」の助成を得てできました。

▶「愛宕山シャランソウコンサート」その・ためえさな
が東京からいらして、ふたりの山「たじろ」
シャランソウを歌ってくれました。
五月の野の花と原生林の緑、青い青い空と海、
最高の会場でした。



昨年十月には町、島内の自然保
護団体による「伊豆大島水と緑の
国際シンポジウム」が開催され、
国際生態学会副会長のDr.ゴリーを
はじめ、内外の学識経験者、自然
保護団体が集い、この島でいかに
自然と共存するかを考えるきつ
かけつくりができました。
時代は着実に変わりつつありま
す。飛行場拡張しか考えられない
行政。計画の見なおしをする英知
をお忘れではないでしょうか。



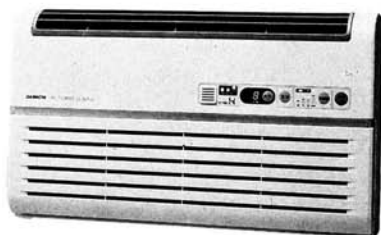
DAINICHI

花粉、タバコの煙から あなたを守る

3大
特長

1. 本格的電気集じん方式と大風量のシロツコファンによるハイパワー清浄。
2. 洗える集じんユニット採用で面倒なフィルター交換も不要。
3. オゾン脱臭でニオイを基^{もと}から分解。

ダイニチ 空気清浄機



ダイニチCL-5002

標準価格/34800円
(税別)

おすすめ量数/8~16畳



ダイニチ工業株式会社

〒950-12 新潟県白根市大字北田中780-6 ☎025(382)1101(代)
東京南営業所/〒101 千代田区外神田2-13-7(ダイニチ神田ビル) ☎03(3258)3841代

21世紀へのヒューマン・セクソロジー

シリーズ 科学・人権

自立・共生の性教育

全8巻 ● B5判 ● 定価各2,400円

“人間と性”教育研究協議会編

編集代表 ● 高柳美知子・村瀬幸
浩・山本直英

①性教育—その考え方・進め方

②小学校の性教育

③中学校の性教育

④高等学校の性教育

⑤障害者・マイノリティの性と性教育

⑥エイズ学習の理論と実践

⑦性的ふれあい・性交をどう教えるか

⑧性教育—その用語と教材

② ③ ④ ⑤好評発売中

①、⑥、⑦、⑧以下続刊

心とからだの主人公に

性と生の教育

Human Sexuality

No.3

編集長 ● 山本直英 編集 ● “人間と性”教育研究協議会
隔月刊 ● B5判・112ページ ● 定価1200円

《特集》性交どう考え、どう学ぶか

座談会 ● 説教っぱく語ると子どもの心にはまったく
響かない 谷森政之/野田朋子/吉田和子/司会高
柳美知子 論文 ● 〈性交〉をめぐる6つの断章 山
本直英 授業の計画と実践 ● 小学校低・高・中学校
養護学校 教材の工夫・授業のヒント ● 北政での〈性
交〉学習の視点 PWA ● 中前康友は行く!編集長対
談 ● 「感じる」教材を使わないなんて何のための教育

● 定期購読者受付中

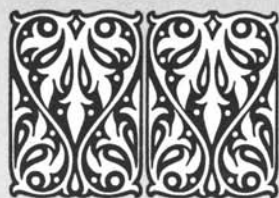
・ 全国どここの書店でもお申し込いただけます。

・ 郵便振替 00180-8-10590 1年間 9,000円

〒112 東京都文京区春日2-17-3

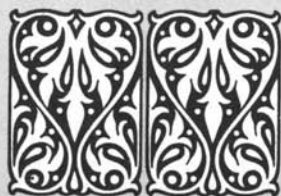
あゆみ出版

☎03(3815)5511 FAX03(3815)3777



特集

夫の過労死は他人ごとか？



特集

夫の過労死は他人ごとか？

夫は過労死した

大阪市東住吉区●増田桂子（38歳）

私の夫は、昨年五月亡くなりました。くも膜下出血によるもので、四十二歳でした。明らかに仕事からの長期にわたる疲労によるものなのですが、私にはそれを過労死と呼ぶことは許されていません。

現在、過労死として労災を申請しており、また夫が亡くなったアメリカインディアナ州でも労災の異議申立てを請求し審判が行なわれているようです

が、結論はどちらも下されていません。ただわかっていていることは、両方において、過労死を認められることはかなり難しいということです。そして、その最大のネックが、夫の会社が、夫の死が仕事との関連に基づくものと認めず、夫の健康管理ミスとしていることです。

結婚当初からの猛烈労働

夫は大学院を卒業した昭和五十二年、東京に本社を置くK社に就職しました。夫が、技術者としてその大阪工場に勤務している昭和五十七年に、私は夫と知り合い結婚したのですが、夫

の猛烈な働きぶりに驚いたものでした。朝は六時すぎには出勤し、帰ってくるのはほとんど毎晩十時を回っていました。工場は二十四時間操業しているためでしょうか、帰宅が深夜になることもありました。

当時私は中学校の教員をしており、民間の会社の人はなんてよく働くんだろうと感心したものです。長男が生まれてからも、それは変わらず、家族そろって夕食がたべられるのは、週に一回程度でした。

そうした働きぶりは、夫が倒れるその日まで続くのですが、当時は中堅企業の一工場とはいえ、ある程度の規模の組織のなかでの一員として働いてい



たため、責任の大きさという点では、亡くなる前の七年間のそれとは比べ物にならないほど、小さかったように思えます。

昭和六十二年四月のある日、降って湧いたように夫のアメリカ転勤の話がもちあがりました。当時は円高による影響で、多くの企業が現地生産のため海外に進出しており、その波がK社のような中堅企業にまで及んできたのでした。

わずか一カ月の準備期間で、夫は同じく赴任する三人と共に旅立っていきしました。K社の初めてのアメリカ進出だからでしょうか、ビザは観光ビザでとりあえず、語学研修などもちろんなく、住むところもわからず、という出発でした。語学研修や家族や子供の教育に至るまで、準備万端ととのえた世間一般の海外赴任の様子とは、ずいぶん違っていました。そして、それは現地に行ってから同じで、当初二、三年と言われていた赴任期間も八年に及んでしまいました。

夫は決して駐在が長期になることを希望していたわけではなく、機会ある毎に、日本への帰国を希望していたようですが、叶いませんでした。

アメリカでの仕事

赴任直後の夫たち四人の仕事は、買収した古い工場を使って、現地子会社Kワイヤーを一日も早く操業させることのでした。買収した建物は築七十五年の相当古い物で、同業種であるスチールワイヤー製造工場として最近まで使われていたものの、機械などかなり古いようでした。

四人の内訳は、社長と総務の人、夫ともうひとり技術者です。そのうち夫が一番年下で社内での役職でも一番下でした。

約三カ月後、夫の工場は四人の日本人と現地従業員数百人程度でスタートしましたが、インディアナ州サウスベンド市という地方小都市では、当初初めての日系企業ということで結構話題

にもなったようでした。しかし、内情は厳しいものでした。

夫に遅れること約一年、私と子供たちは夫と暮らすために渡米しました。

私は仕事を持っていたので、退職しなければならぬことは厳しい選択でしたが、家族と一緒に暮らすことが基本であり、また私達の海外生活がきつと将来よい結果をもたらすと信じての結論でした。

夫のアメリカでの勤務は過酷なものでした。会社は車で十五分程度の所に行きましたが、毎朝、七時すぎには出勤し、いつも帰宅は十時を過ぎていました。土曜日にもいつも出勤していました。工場は二十四時間操業であったため、技術者であった夫はトラブルに対して責任があるらしく毎晩遅く、また何かあると休日、夜間も出勤していきましました。

初めのころは、子供たちが幼かったため、夫がそのような調子で全く家事への参加が望めず、私は慣れない土地での子育てにずいぶん心細い思いをし

たものでした。ただ、こんな状態も工場が軌道に乗るまでの一時的なもので、いつかはもう少しゆったりとした生活ができると信じ頑張っていました。しかし、実際には夫の勤務はどんどん厳しくなっていたのです。



mic.

人が減っても補充せず

約二年後、K社がアメリカに第二工場を建設することになり、夫の上司であり、技術者であった方が、そちらの

ほうへ転動していかれました。当然代わりの方が来られるものと、私など

たったひとりの日本人技術者として、倒れるその日まで、黙々と働き続けま



思っていたのにそれもなく、これまで
も過酷だった夫の仕事はどうなってし
まうのだろうかとの心配どおり、夫は

した。

アメリカ人の技術者の人は何人かい
ましたが、その誰も定着せず次々辞め

特集 夫の過労死は他人ごとか？

ていき、夫の力になってくれる人はい
なかったようです。また働きぶりに関
しても、夫達日本人とアメリカ人とは
随分違い、たまに用事で夕方夫の会
社に行くことがあるときでも、勤務時
間を過ぎるとアメリカ人マネージャー
は誰ひとりおらず、仕事をしているの
は日本人だけでした。私には会社の経
営などわかりませんが、日本の会社の
古い考えやしきたりをアメリカという
ドライな環境に持ち込み、そのしわ寄
せは夫など日本人従業員にきていたの
だと思います。

工場の建物や機械が古いため、
しょっちゅう故障やトラブルが発生
し、夜間でも連絡がはいると駆けつけ
て行きました。明け方になってやっと
帰宅することもありました。もちろ
ん、どんなに遅くなっても翌日は普段
どおり出勤して行きます。

年に二回の工場閉鎖時、つまり従業
員の休暇時でさえ、機械の点検や修理
にと、技術者である夫は駆り出され、
休暇も満足に取れない状態でした。同

様に休暇を返上するアメリカ人技術者には代休が与えられても、夫にはありませんでした。それらのことに對して、夫は不満を言うわけでもなく、会社に對する忠誠心と元々の責任感の強さから、黙々と働いていました。

ひどい労働条件

働きぶりについては私は、海外で仕事をすることってこんなたいへんだんだと感心するだけでしたが、だんだん夫の会社の勤務条件が特に悪いのだと気がついてきました。当初は、Kワイヤーが唯一の日本企業でしたが、その後も続く日本企業の海外進出ブームで、大企業数社がサウスベンド市近郊にも移転し、いろいろな会社の駐在員を知るようになったからです。

夫も分かっていましたが、「よそはよそ」と愚痴や弱音をこぼすことは決してありませんでした。そういう真面目なところが夫なのであり、夫が会社を愛し仕事にやりがいを感じて満足し

ているならいいか、と私も思ったものでした。ただ、夫の死後夫があれほど愛し尽くしてきた会社が、手のひらを返したように夫を切り捨てるのを見てしまった私は、夫があまりにも気の毒でなりません。このように夫の勤務は過酷で休むときもなく、肉体的な疲労が約八年の間、蓄積していました。夫は精神的にも疲労していました。特にここ二、三年従業員が定着しないことは、夫の悩みの種でした。

倒れる三日前両親へ送ったファクスでこんなふうに書いています。「皆さんお変わりありませんか。このところ仕事で問題が多く、頭を抱える毎日です。注文は多いのですがそれをつくる人が確保できず、本職の技術、生産よりも如何に人をいれ、如何に人を定着させるかに力をいれなければならぬ状態が続いています。このままではとても日本に帰れないので、何とか安定させようと頑張っています。以下省略」

アメリカでは、日本のように終身雇

用制など存在せず、もちろん会社への忠誠心などあるはずなく、少しでもよい条件があればどんな職を変えていきます。特に、アメリカが不況を脱し、雇用機会が拡大されてきたこの二、三年は顕著でした。

夫は、あまり仕事のことを家では話さないが、悩んでいることは私にもわかりました。また、人を引きつけておくには人間関係からと、仕事のできるマネージャーや工員の人達を自宅に食事招いたりもしていました。

副社長にはなったものの

夫を特に精神的に疲労させるもう一つの要因は、責任の重圧だったように思います。もちろん、夫がそのことを口にしたことはありませんでしたが。たったひとりの日本人技術者だった夫の肩書は、亡くなる二カ月前までは「技術生産のアドバイザー」のようなものだったと思います。それが、亡くなる二カ月ほど前から、「副社長」に

なつたのです。

その一カ月前、夫と同時に日本から現地K社の社長として赴任していた人が帰国されることになったのです。それも、本社の社長として。素晴らしいご栄転でした。

仕事上では、夫は部下として忠実に働き、その人も夫の力を大きく買ってくれていたと思います。力のある人が引っ張ってくれて、夫の帰国も近そうと喜んでいました。

ただ、私達をいちばんびっくりさせたのは、またもや代わりの人は送らな



いということでした。社長なしで、どうなるのやらと思っていたところ、夫の「副社長」でした。実際には、もうひとり残った上司である総務のひとの二人副社長でした。肩書だけのことで、夫は気に止めてはいないようでしたし、私はこれまで何度となく感じてきた、会社の安上がりな間に合わせ人事にあきれたものでした。

夫の健康に変化が現れたのは、このころからだったように思います。夫は喫煙の習慣がありました。ヘビースモーカーではなく、疲れた時吸うとい

う程度のものでした。会社では禁煙、車の中も禁煙と自分で決めていましたから、家で食後などに数本吸うくらいでした。それが、灰皿の吸殻の数が急に増え、側によっても煙草のにおいがするほどになったので、何度か心配で注意したほどです。また、大量に吸えを買ひ込み、食べだしました。きつと、疲れた時、頭痛の時など癒してくれたのでしよう。亡くなった後、夫の車や、かばんの中からも吸殻がいっぱい出てきました。

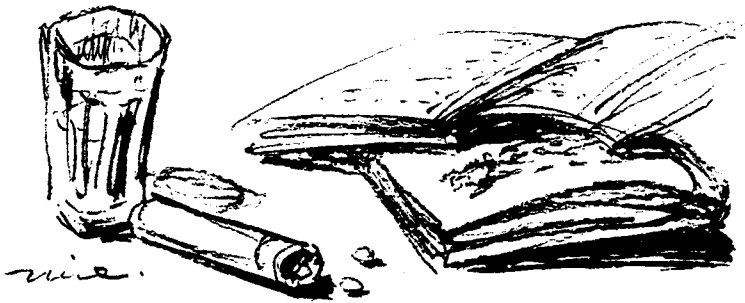
それからひどい頭痛が続いていたよ

うでした。私には、倒れる前日に「おかしいなあ。最近体調が悪いんや」と二、三日前に「最近よく頭が痛くなって、頭痛薬ちょうだい」と言ったことぐらいでしたが。

会社でも、同じようなころから何人かの方が、夫の異変を感じていらしたようでした。

「よく頭が痛いと言っていた」「頭痛薬を飲んでいるのをよく見た」とか、同じような病気でお兄さんを最近亡くされた人は、夫の側に近寄ると、オレんジのようなすっぱい臭いがして、それはお兄さんが倒れられる前と同じだったので心配になり、夫に医者に行くように勧めたとか。そんな話を夫が亡くなった後聞きました。

実際、会社の机の引出しや、通勤かばんからいろいろな頭痛薬が出てきました。市販のものから、以前親知らずを抜歯したときの残りの、医師の処方箋のいる強いものまでいろいろ飲んでいました。きつと何度も飲み続けるうちにだんだん強いものが必要に



なっていたのでしょうか。

夫は本当に我慢強い人でした。私に言うまでどれほどひとりで頭痛を我慢してきたのでしょうか。夫がそれをどれほど深刻に考えていたかどうかは今となってはわかりませんが、日々の生活があまりにも忙しすぎたため、自分の健康を省みる暇や余裕さえなかったことは事実です。

私としては、気づいていた変調を、そして我慢強い夫が頭が痛いと言ったことを、どうしてもっと深刻にとらえてあげなかったのか、後悔するばかりです。その時は私もしておそらく夫自身も、まさかそれが夫の頭のなかで起ころうとしている恐ろしいことの前兆だとは、夢にも思っていないませんでした。

夢のようなできごと

五月二十二日月曜日午後二時ごろ、夫は会社で会議に出席している時突然倒れました。すぐ救急車が呼ばれ、病

院へ運ばれました。救急車のなかでは、一旦は意識を取戻し、救急隊員には「しっかりと「頭が痛い」と言ったそうです。

会社から「心臓のトラブルらしい」と連絡を受け、私が子供たちと病院に駆けつけたのは三時ごろだったと思います。びっくりはしたものの、まさかこんなことになっていようとは思いません。元氣な夫がびっくりさせたねといったもの笑顔で迎えてくれるものと思っていました。

しかし、迎えてくれたのは夫ではなく、上司の総務の人とケースワーカーでした。担当医から脳出血を起しているらしいので検査をしていると説明を受けました。

やっと面会できた夫は救急病棟のベッドで横たわっていました。看護婦がゴム風船のような手動のポンプで夫の口に空気を送っていました。意識は全くありません。

看護婦が私に、「患者さんは話して返すことはできなくてもちゃんと聞こ

えてるから話しかけてあげて」と言いました。私は夫の耳元で夫の名前や私が出来たことを話しかけながらも、これっていつか本で読んだことがある植物状態や、脳死になった人について書いてあったことじゃなかったかしらといやな予感がしました。

事実はそのとおりになり、夫の場合、出血が大量で、出血を抜くため脳管を通す手術をしたものの、出血を取り去ることはできず、その日の内に医師から命に関わる重症であること、そしてその夜には脳死状態で生存の可能性なしと告げられ、臓器提供の意思を打診されたのでした。

朝いつものように元氣に家を出た夫が、同じ日に死の淵をさまよっているなんてどうしても信じられませんでした。実際、夫が息を引き取るまでの三日間は、目の前で起こっている信じられない現実を事実として認識していくうえで、つらく、しかし大切な時間でした。八歳と十一歳というまだまだ幼い子供たちも初めから私と一緒に医師

わいふ原稿整理方針

◆投稿誌であるので、「原稿尊重」の方針で整理しています。

◆常用漢字表にない漢字または読みであっても、間違いない限り、原則としてそのまま載せています。ただし次のような語はかな書きに直しています。

又↓また 程↓ほど 位↓くらい 為↓ため 頃↓ころ 丈↓だけ 方↓ほう 様↓よう 御↓ご 迄↓まで 良い↓よい

い 沢山↓たくさん 中々↓なかなか 筈↓はず 更に↓さらに 但し↓ただし 何故↓なぜ e t c.

◆送りがなについては、一応次のような方向で統一しています。

例 変る↓変わる 浮ぶ↓浮かぶ 話合う↓話し合う 氣持↓氣持ち 行う↓行なう 表す↓表わす

◆用字用語の原則は三省堂発行「用字用語辞典」に準拠しています。

の説明を聞き、さぞつらかったと思いますが、よく耐えてくれました。幼くても子供たちが一緒にいてくれたことがどんなに私の支えになったことでしょう。現実を事実として認めることは決して簡単ではなく、夢なのでは、夢であってほしい、心のどこかでいつもそう思っていました。

九カ月たった今ですら、時々目が覚めると元の家で、元のように四人で楽しい生活をしているんじゃないかと思うこともあるのです。そして、病院で亡くなるまでの三日間考え続けた、「どうして、夫がこんなめに遭わなくてはならないのか。どうして夫なのか」という問いの答えもまだ出ません。ただ、言えるのは運命は非情で人生は不公平だということです。

五月二十五日、夫は静かに息を引き取りました。

現地でお通夜、お葬式をすませ、やはり日本でもお葬式をという夫の両親の希望で、夫の遺骨を持って一旦帰国することに決めました。

会社の冷酷さ

そのころから、私はもう一つの現実
に直面することになっていたのです。
それまでは、ただひとり残った日本人
である会社の上司が、病院での付添い

から、本社との連絡、お通夜、お葬式の段取りなど本当によくやって下さいました。しかし、夫の死後二、三日たったころから、態度が変わってききました。

アメリカでは、労災は公的ではなく保険会社にそれぞれ会社が加入するとい



う性質のもので、幸い夫の会社も加入していたのですが、会社から夫の主治医の診断書を請求したところ、「先天性のものと思われる脈瘤が破裂したことによるくも膜下出血」が死因であるため、労災保険は下りないということでした。

勤務中に倒れたのに、と私は腑に落ちませんでした。州の法律で労災はけがに対してのもので病気にに対しては下りないのだと説明されると、仕方ありませんでした。解剖したわけでもないのに先天的という医者にも憤慨しましたが、会社の手回しのよさと、「倒れたとき、どこかに頭をぶつけておればよかった」というその人の言葉にも驚いたものでした。そのころは、まだ夫の死だけで、頭の中はいっぱいで、保障とかそういうものはなにも考えていませんでした。

ただ、勤務中に倒れたのだから、そしてなによりも、夫がこれまで会社のためにどれだけ働いてきたかを会社が知っているから、何らかの形で会社が

私たち家族に保障してくれるはずと漠然と信じていました。特にアメリカに来てからの過酷な仕事ぶりは、上司もわかっているはずだし、誰よりも数カ月前、本社の社長として帰国されたばかりの元現地会社の社長がわかっているはずなのです。



ところが、日本で会った社長の態度は私の甘い期待を裏切るものでした。何度か頼んでもらってやっと面会できたその人の口からでたのは、「世の中にはもっと不幸な人がいるから」という言葉だけでした。そしてつぎの「仕事」へと去っていきました。

後に残られた本社の総務の方から提示された会社の書類には、「厚生年金から遺族年金、健康保険組合から弔慰金、厚生年金基金から一時金、海外旅行保険からの保険金と退職金三百数十万」と書かれているのです。私は自分の目を疑いました。

遺族年金などは夫が掛け金を払っていて当然のもの、また勤続十七年間の夫に僅か三百数十万の退職金とは？

それ以外には何もないのです。「会社のために、あれだけ尽くして来た結果がこれですか」という私の問いに、「厚生年金や健康保険には、会社からも掛け金を払っていました」という答えが返ってきただけ。

ただ、日本の労災申請については、会社のほうでも全力で取組み協力するという話でした。

一週間後、大阪で告別式をし、本社社長も出席して下さいました。夫の両親がお願いし、弔辞を読んでも下さることになっていました。その弔辞の冒頭はこうでした。



「常々私は、生産工場にあっては、安全第一を従業員の方々に訴えてきました。勿論この安全意識は現場にとどまるまでもなく、皆さんそれぞれの健康管理をもふくむのだと説いてきました……」

何ということでしょう、社員の健康管理に気を遣うどころか、働け働けと夫がそこまで働かなければならない体制を作ったその人が言うことは。明らかに自分への責任回避、私はそう受け取りました。後に続く生前の夫の仕事ぶりや、ひととなりについての賛辞は虚しく響くだけでした。

お葬式や諸々の手続きを終え、二週間後もう一度アメリカに戻る数日前でした。お葬式のためにとりあえず帰国しましたが、私が本当に帰国するためには、家や車の処分や引っ越し、諸手続きなどしなければならず、もう一度渡米する必要があったからです。

そのころになると会社の考えがほとんど読めてきました。余計なお金は一切使いたくないということのようでした。





mie

た。そしてそれは、夫の七年間の上司であり、夫の仕事ぶりを一番知っており評価していたはずの現本社社長の方針のようでした。私達の本社への窓口である本社の総務の人の口癖に「きまりの中で前向きにやります」というのがあって、心情的にはしてあげたいことですがと前置きしながらも、そのきまりとやらのため、私が会社に要求したことはいくつもが却下されていきました。夫のように海外駐在中亡くなった人など過去になく、こういう場合のきまりなど準備しているはずもなく、仮にあったとしても会社の考えでどうにでもなることだと思いました。

事実、家の処分を手伝ってほしいとか、車を処分した後困っている私への車の手配など、私が会社に頼んだことは海外に工場を建てることができるくらいの会社なら、簡単にできることばかりでした。まして、夫の会社は規模の小さな会社です。社長の裁量でどうにでもなりそうで、結局社長がそういう考えだったわけです。直接自宅に電

話もしましたが電話に出て下さることはありませんでした。また総務の方には何度も「会社が少しは責任を感じているのか」と問いましたが、はっきりした答えは聞けませんでした。でも会社には責任がないとしたいのだということは聞き取れました。ただ、会社が唯一約束してくれた「労災には協力する」という言葉を信じ引き下がりました。友人などから労災認定のためには会社の協力は不可欠というのを聞いていたからです。

私はたたかう

私のアメリカ渡航の目的は家の処分と引っ越しでしたが、実際は、日本の労災申請の資料集めました。それまで夫の仕事や会社のことは、ほとんど知らなかったもので、たいへんでした。

労災申請書類は数十ページからなっており、死亡前数カ月にさかのぼって夫の勤務状態や勤務環境などを書き込んだり、その他細かな情報が必要となっ

ていました。

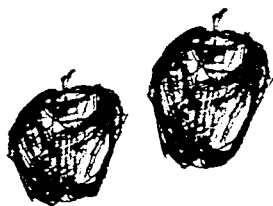
特に日本の労災の判定基準は、死亡前十日から一週間の勤務がいかに過酷であったかということのようでした。

また事実を実証するための証拠になるものを添付する必要もありました。同時に会社の上司からも、夫の勤務について同じように報告するようになっており、申請者である私と内容の開きがあまりに大きいと、事実かどうか疑われかねなかったので、その方の協力を得ることが、一番の鍵でした。

ただ、夫と共に八年間苦勞をしてこられ、夫の仕事ぶりを目の当たりに見てこられた上司です。協力を得られないはずがないと思っていました。

夫の倒れる前二週間の勤務状態を振り返ってみると、平日は連日八時ごろまで勤務、二回の週末の全ての土日も工場に行きました。その間、夜間連絡が入ることが数回あり電話で指示を与えたり、またそのうち二回は出掛けていきました。二回とも夜十時くらいに連絡が入り、すぐ駆けつけ、深夜二、

三時に帰ってきました。翌日は勿論普通に出勤しました。ただ、労災認定のための一番の障害は、夫が倒れたのが月曜日で、前日の日曜日は朝から会社に出ていたものの、午後は子供達の通う日本人補習校のピクニックがあつて、それに参加した夫は午後は「休んでいた」ことになるのでした。後日、労災申請のため監督局に行ったときも「マニアルどおりに判定しますから」と言われましたが、夫の場合、海外という著しく環境の違う所での勤務であり、夫のように八年という長期にわ



たって積もっていった肉体的、精神的ストレスなどを考慮することはできないものでしょうか。

渡米数日後、労災に協力を得に上司の家を訪ねましたが、その言葉は「何を根拠にして過勞って言いたいのか」「彼より、私のほうがもっとたいへん」「医師が先天的と言ってるでしょ」そして、「知ってることしか書けないからね」と、信じられないことばかりでした。これが、夫が苦勞を分かち合った人が言う言葉かと情けない、涙もでませんでした。

翌日から、私のもう一つの仕事が始まりました。弁護士探しです。夫がこんなふうになられてなるものか、夫の無念をはらす何か方法があるはずだと思いました。ただ、おおっぴらにすることはできませんでした。多くは期待できないと悟ったものの、やはりその人に労災資料を書いてもらうしかないからです。

弁護士探しは思ったよりずっとたいへんでした。日本の終身雇用制度や労

働者と会社の関係などを理解してもらうことが必要、と日系弁護士を探しましたが、外国の中の狭い日本人社会です。私の話を興味深く聞きながらも、事件として取り上げてくれる人はいませんでした。

そのうち私もアメリカのそういった仕組みや法律のことも少しわかってくるようになり、夫の場合は「WRONGFUL DEATH：不正な死」というのに当てはまるのではないかと思いつきました。日系弁護士はあきらめ、地元の WRONGFUL DEATH 専門の弁護士を探し始めましたが、まず、日本の雇用制度など理解して貰うのがたいへんでした。また私と会社の関係、元従業員の妻という立場では、WRONGFUL DEATH として訴訟することはできず、労災を申請するしかないということでしたが、その際ネックとなるのが医師が先天的らしいと診断していることで、何人もの弁護士から気の毒ですがと断られました。弁護士探しを始めて一カ月以上も過ぎてい

ました。

家もようやく買い手がつき、引っ越しの準備を始めなければならぬころでした。あせり、絶望的にもなりました。しかし、少なくとも、死因が病気だから労災に当てはまらないという法律があると言った上司の言葉は間違いで、医師の診断が先天的としていることはかなり不利であるものの、労災認定の可能性はあることがわかりました。

私は必死で、電話帳、新聞広告、信頼のおける知人など片っ端から弁護士の情報を集めました。そして非常に難しいケースだけれど今後アメリカでも過労死ということが問題になってくるだろうし、チャレンジのつもりでやってあげようという弁護士がついに見つかったのです。帰国一週間前のことでした。

私は急ぎ夫の同僚と、個人的な友人で夫の過酷な勤務を弁護士に証明してくれそうなアメリカ人数人に協力をお願いしたところ、皆引き受けてくれま

★わいふバックナンバー

- 245号 病気とのつきあい
- 247号 三十五歳はトシなのか？
- 248号 ウマイ話にだまされた
- 249号 夫の職業と妻の生活
- 250号 女の友情
- 251号 集合住宅での子育て
- 252号 うちの子のおばあさん・おじいさん
- 253号 阪神大震災
- 255号 家事サービスを利用してみたら
- 256号 私が離婚を考える理由^{わけ}
- 257号 ああ、マンション暮らし！
- 258号 時事放談「私たちのゴミ問題」

シリーズ老後の暮らし
老人ホーム／お金と介護

一〇〇〇円

お年寄りが安全に暮らすために

一五〇〇円

ハイスクールレポート96

私立高校ガイド・関東版

一八五〇円

変わる主婦・変わらない主婦

一五〇〇円

お申し込みは電話でどうぞ。

☎〇三ー三二六〇ー四七七ー

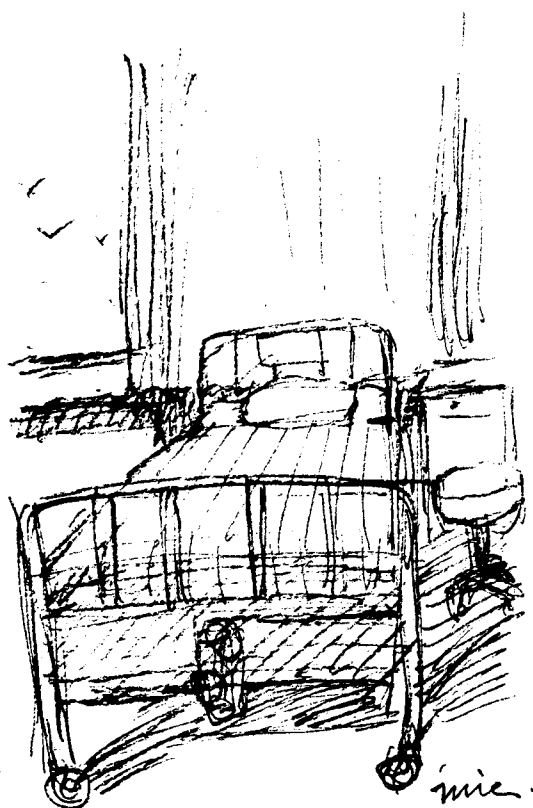
した。

私は結果よりも、やっと会社に対して行動をおこせることを本当に嬉しく思ったのです。

帰国前日、夫の上司から受け取った

労災書類は予想どおりのものでした。

特に、労災認定の鍵である、死亡前十日の夫の勤務状態については、ご自分



が直接関係のないこと、例えば夫が休日、夜間、事故やトラブルで出勤したことなどは夫がしていないことになっていました。また、出勤簿、工場日誌

などの夫の勤務状態を示すものは一切「ない」として出してもらえませんでした。帰国後三週間ほどたった昨年九月末、日本で労災を申請しました。

ひとり、できるだけのことはやっ
たつもりです。協力すると言っていた日本の本社からは、やはり有効な資料は出してもらえませんでした。

労災書類を提出した際、監督局職員に、こういう事例が多いので判定に時間がかかると言われ、半年たった今も連絡はありません。

アメリカの労災のほうは、時々弁護士が経過を知らせてくれますが、私の手から離れてしまった感があり、ただうまいくように祈るだけです。

華やかに見える海外駐在員。その中に夫のように仕事に命を捧げ、二度と帰国しなかった人もいることを知ってほしいと思います。

女も過労死？

東京都武蔵村山市●大沢陽子（57歳）

二月七日、夜、Fさんから電話があった。検査の結果が悪いのですぐに来てくださいと言われ、かかりつけの診療所に行ってきたと。

二月一日の検査の結果が、GOT二三〇、GPT三四〇だったそうだ。一カ月前は一四一と二六五だったのに。こんなふうにごんごん増えていったら大変だ。「家に居ると女性には休めないから、入院を考えたらどうでしょう」と先生はおっしゃったそうだ。

四人のお嬢さんたちはみんな独立して、ご主人と二人暮らしのFさんは六十五歳。C型肝炎と分ったのは五年ほど前だ。その三十年ほど前の出産のときの輸血が原因らしい。

Fさんとはここへ越してきたばかり

のころママさんコーラスで出会った。十数年一緒に歌を歌っていた。

忙しいボランティア活動

八年前に、動物たちが穏やかに生きられるようお願い、会を作って「犬や猫を捨てないで！」と訴えようと思いたったときもまずFさんを誘った。めいっぱい忙しかったFさんに動物たちのためにさく時間はなかったけど、いつでも相談に乗ってくれて心強かった。

Fさんは忙しい。大変な介護が二十年も必要だったご主人のお母さんが亡くなってからは、毎週火曜日、飯田橋の東京都社会福祉総合センターでぼけ老人てれほん相談員として相談を受け、第一、第三の月曜日も相談を受ける。水曜日は市のシルバートレホンのボランティアとして三十人ほどのお年寄りに安否を問う電話をかけ、地元のボランティアグループの代表として車で動き回り、ボランティア連絡会の代

表もしている。

このあたりは整理して体を休めたほうがいいと前にすすめたけど、代わってくれる人がいない。てれほん相談は人手不足で今でも大変なのに、わたしがやめたらなおみんなの負担が増えてしまう。ボランティア連絡会のほうもせつかくこれまでになったのに潰したくない。代わってくださる方があればお願いしたい。でも、ないから仕方ないのよと言っていた。

昨年、Fさんはとりわけ忙しかった。結婚したばかりの一番下のお嬢さんたちの住いが阪神大震災で潰れ、その伴侶の方の職場も潰れた。被害にあった障害者の自立を助ける、メインストリーム協会の再興のために街頭で募金活動をしたり、窮状を訴えたりしている姿をテレビで見て、Fさんの友人たちはカンパを呼びかけた。直接お嬢さんたちを支援した方も多く、協会へのカンパはそう集まらなかった。春には一番上のお嬢さんのリンパ腺

がはれ病状が悪化するのに原因が分らなかった。

このお嬢さんが高校二年のとき、痴呆の始まっていたおばあさんを旅行に連れていってくれた。それがどんなにありがたかったかとFさんは感謝をこめて話していたことがあった。やさしいお嬢さんなのだ。

だいぶたってお嬢さんは甲状腺癌ということで手術することになった。長くて一年の命と言われた。甲状腺ならその専門の所で手術を受けさせたいとそちらへ行くと、甲状腺ではないから、うちでは手術できないと言われ、Fさんの知り合いの病院へ行った。そこでようやくリンパ腫と分った。十月になっていた。お嬢さんの抗癌剤の治療が始まり、その日Fさんは幼稚園のお孫さんたちの面倒をみに行き、別の日、入院中の実母も見舞う。遠慮深いお母さんもFさんを頼りにしている。

一番大変なのは足の不自由なご主人の世話。気むずかしくて、長女の方に赤ちゃんが生まれたときも、自分たち



のことは自分たちでするようにと産後の里帰りもさせなかった。必要なときはFさんがお嬢さんの所に行って手伝った。家のこと子どものこと孫たちのこと、何もかもFさんがして、ご主



人の世話もFさんがしてきた。

責任感と我慢強さ

FさんのGOT、GPTの数値は昨

年の九月急に悪くなった。夏がひどく暑かったこと、長女の方の病名が分らず心配でストレスがたまっていたせいだろうと、Fさんは言った。病名が分りほっとしたせいも、十一月初めの検査の結果はよかった。このままよくなっていくと思っていた。がそうではなかった。忙しすぎたせいかも知れない。

九月には大きなバザーがあった。今年二月三日にはボランティアのつどいがあった。Fさんはその責任者だった。さまざまなグループがロビーに自分たちの活動をアピールする表や写真や作品を展示し、ホールでは十時半と午後一時から一時間ほどの映画があつて、その後二時から「ボランティアをしている人、してみたいと思う人のための学習会」があった。初めは講師の先生のお話を聞き、後半は受け付けのときにいただいたリボンの色別に、十二、三人ずつ五つのグループに分れて話しかつた。この話し合いが楽しかった。Fさんの人柄のように温かいつどい

だった。会の準備、当日の挨拶、気配りなど大変だったと思う。

四日はてれほん相談のほうの講演会。五日は毎日新聞に依頼されている隔週月曜のテレホン相談。六日は火曜日でいつものてれほん相談と連日四日外に出ていた。

七日の検査の結果はまたいっそう悪くなっていた。

Fさんの九月以降のGOT、GPTの数値は上がるばかりであった。二月にはGOT二八五、GPT四一一に達した。

先生のおっしゃるように、入院したほうがいいのかも知れない。いったんいろんなことから解放されるために、片道二時間もかかるてれほん相談は、九月の時点でやめていけばよかった。

「相談を受けるのはいいの。その相談を報告書にまとめるのが大変。座ると眠くなって、いつまでもまとめられなくて、ストレスがたまると言っていた。眠くって眠くってたまらないのに、まとめようと努力するのは大変だ。F

さんは責任感が強く我慢強いからつい無理をしてしまう。いつもにこやかだから人はFさんが疲れていることに気づかない。

私は三年前の夏にC型肝炎といわれから体にいいものばかりを食べるようになっていいるせいか、GOT、GPTの値は正常範囲をちょっと越えたあたりで安定している。昨年九月まではFさんの値もそのくらいだったのだ。それが突然増え出して、半年で二八五と四一一になってしまった。この数をなんとか小さくしたい。

入院をすすめられたからとテレホン相談をやめ、ボランティア連絡会の代表もおりて、Fさんは今、なるべく家で横になっていようと努めるようになった。

Fさんにとって一番大変なところはご主人の世話だと思う。この負担を軽くするてだてはないだろうか。ご主人が少しの間でもどこかに行ってくれたら、その間Fさんは身も心も休めるんだけど……。それが無理ならせめて日

に二時間でも、お手伝いの人に来てもらってほしい。私たちもできることはしたいと思う。Fさんは人に来てもらうと気を遣うという。お嬢さんなら気を遣わないだろうけど、それぞれの所で仕事に励んでいるんだからと、Fさんは家事もご主人の世話もひとりで行っている。

ひまになったらお茶を飲みましょう。おしゃべりもしましょうと言いついてきたのに、このまま悪くなってしまうたら嫌だ。

今、Fさんは日曜、祭日をのぞいて毎日、強力ミノファージンCを四〇ミリリットルずつ注射している。これをずっと続けていけばよくなっていくだろうか。闘病中のお嬢さんのためにも、Fさんは絶対によくなければならない。

お嬢さんもよくなってほしい。幼いお子さんたちのため、ご自身のために。よくなったら、Fさんはどんなに喜ぶだろう。

(エ・佐藤瑞江子)

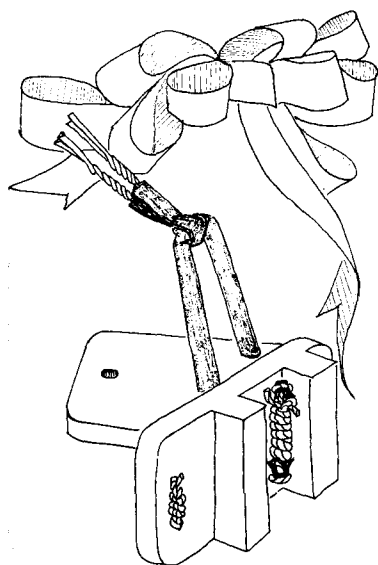
ある下駄の話

横浜市泉区

原 眞智子（60歳）

「それじゃ彼に下駄を預けておけばいいわ」と口にして、私はふと一足の下駄のことを思い出した。

五十年も前のことになるのだ。私は疎開先の小さな町で四年生になっていた。前年の夏から私一人で叔母の家にやられ（縁故疎開といった）、その春に



は母と妹二人も合流していた。「家主」のほうは叔母と幼女だからまったくの女世帯。食糧事情も悪くなっている、母と叔母は虫のついた新粉を篩（ふるい）かけ、よもぎで香りをつけた団子を代用食として出してくれたものだ。

素足で履いた覚えがあるから暖かくなってからだろう。私は一足の下駄の台をもらった。それは同じ町にいる伯父からの贈物だった。伯父は下駄屋だったわけではない。その家は大工で、私の父には本家に当る。立派な格子戸を開けると長火鉢が据えてあり、広い中庭とタイル張りの風呂場である家だった。伯父手ずからか、職人の手か、お手のものの木から下駄の台を刻んで成長期の私にくれたのだろう。

日用品は何もかも払底していて、新しい下駄など店に出てはいなかったから、これは有難い戴き物だった。

鼻緒は母が作ってくれた。麻緒（麻の繊維）を芯にして、少量の綿と和紙の反故などで適当な太さにしたもの、筒に縫った表布をかぶせる。前緒をつけて下駄に上げる。

私は勇んでそれを履いた。ところが私の足には少し大きすぎ、どことなく履き心地が悪かったのだ。いくら歯が二枚、目が三つでも大工と下駄屋の仕事は微妙に違っていたのだろうか。歩くときコツコツ当るような感じで足もとを意識してしまうのだった。

そのことを私は誰にも言わなかった。妹たちは新しいということだけで羨ましがり、近所の友だちもほめてくれたのだから。だが、みんなでゴムとびやまりつきをするときこの下駄はよく脱げて私を困らせた。

そして、まだあまり減りもしないうちに、履いていた銭湯で盗まれてしまった。大きな鍵のかかる下駄箱に入れたはずだったが。ま新しいというだけで目をつけられたのだろうか。大人たちに叱られながら私も済まないと思った。でもどこかにほっとした気持ちもあつたようである。

その町でも毎日のように空襲警報のサイレンが響くようになっていた。

新緑の薫り

東京都豊島区

上林愛子

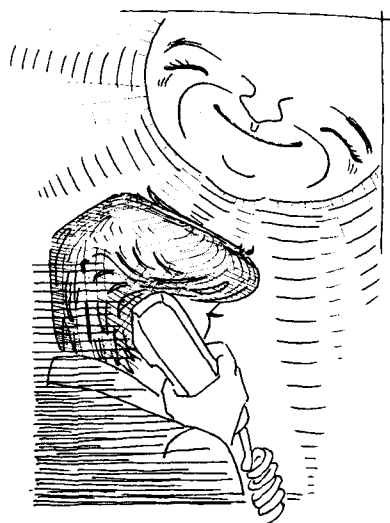
ゴールデンウィークの真っ只中だから、秩父へ行く臨時急行も多いのだろう。なかなか開かない西武線石神井公園の踏切で、電車が何台も通り過ぎるのを目で追いながら、私の心は、去年のゴールデンウィークに、車で通った日光街道に飛んでいた。

あの街道沿いの山桜の美しかったこと。

若葉の淡い緑と、ほのかなピンクの花の調和が、洪滞で苛立つ心をやさしく包んでくれたわ。——と、回想に浸っているとき、

「奥さん！ 大変ですねえ」ふいに声かけられてふりむくと、自分と同世代らしき女性が、自転車止め、にっこり微笑んだ。

「こんな日でも散歩に出たがんですか？」霧雨の



中、雨合羽をすっぱりかぶり車椅子に乗った義母を見ながら、呆れ顔で言った。

「今日は、病院ゆきなんですよ」

「私の親も長生きでね。父は八十八歳の時、炬燵で眠ったまま終わりだったの。母もその七日後に同じように逝ったんよ」

耳が遠いとはいえ、義母を目前にして、返答に困った私は、黙って笑顔を返した。

ふくよかで、素朴で、人のよさそうなその女性
は、

「奥さん！ こんなに一生懸命お世話されているのだから、その内きつといいことありますよ、頑張ってくださいね」

と、さわやかな笑顔をのこして立ち去った。

義母は六回目の入院から退院したばかりだった。

自然排尿ができなくなって、検査の結果を聞きに行ったとき、

「治るでしょうか？」

と、おぼろげと尋ねた私に、初老の医師は言った。

「これを治せということは、若返らせてくれということだよ。そんな薬があったら俺がのむよ……」と。

それから始まった義母のカテーテル人生。退院後も週一度は通院して消毒をしなければならない。

長い看護の日々に、時おり頭をもたげる自分自身の老いへのあせり。

「もう、とうに九十歳過ぎたんだよう……」

実の姉に、初めて弱音を吐いたとき、

「なんぼだからもういいということはないんだよ。最後までしっかり見てあげなくちゃ！」

電話の向こうから、いつになく強い姉の声が返ってきた。

行きずりの人に、そんな私の心の奥まで見透かされたような、きまり悪さと、励まし言葉の余韻に浸りながら、ようやく開いた踏切にゆっくりと、車椅子を押しした。

「きれいだねえ……」と義母が指さした生垣の新緑の薫りが心地よかった。

おすすめの1冊

女性起業の完全ガイド

がんばれ女性の〈食〉業おこし

樋口 恵子
あだちゆきこ 編著

東京都世田谷区 小島優子

つい先日「女性だけの職場定着」という記事が新聞に載っていた。ホテル、出版、銀行関係の仕事で、少しずつ増えている、という。

「男女雇用機会均等法」が施行されて十年。もう十年もたっているというのに、とてもとても「機会均等」とは言えない現実が依然としてびこる日本社会。

何かやりたい!……でも、何ができるのだろうか? 仕事がしたい!……でも、子育てが一段落したとはいえ、家庭の専業主婦が専門的なフルタイムの仕事に就くのは不可能に近い。結婚前はそれなりの仕事をしていた人でも、再就職となる

とパートの補助的労働しかないのが現実だ。何とか自分で納得のいく働き方はできないものか……と考えている人は多いのではないだろうか。

だったら、いつそのこと自分でビジネスを始めたらどうだろう。

この本はそういう人たちをバックアップするために書かれたものである。「食業」とは「食」に関わるあらゆるビジネス——例えば農林水産物の生産、食品加工・流通、レストランや観光など——をさす造語だそう。著者が代表を務めるWWB/ジャパン(女性の経済的自立を通じて、女性の地位向上と南北問題解決



をめざす、国際組織の日本支部)は五年前にスタートしたが、そこからすでに五百人の起業家が誕生しているそうである。

この本には、法人の種類と選び方、資金調達方法、事業計画の立て方、宣伝・広告の仕方、その他「起業」に関する具体的なアドバイスがいていねいに書かれている。「食業」に限らず、もっと幅広く色々な「起業」に役立つ構成で、即、戦力となること間違いなし。自分で何か事業を始めるのにつけて夢ではない!と力が湧いてくる心強い一冊である。

農山漁村文化協会 一八〇〇円

電柱始末記

私と東京電力のサーブ・レシーブ

中野耀子

これは通行妨害になっていた電柱を抜いたお話です。

一本の電柱を抜くために、こんなにもエネルギーが要るものとは思いませんでした。


出入口を塞ぐ電柱

我が家の駐車場出入口は市道に面していて、右側に電柱が立っていました。その電柱は市道上に立っているのですが、ちょうど出入口を二五センチほど塞いでおり、どうしても車を右側に出すことが出来ませんでした。

この住宅地の出入口は右方向にあるのですが、いつも車を左に出してはバックをする。そんな不便を余儀なくされていました。

もし何も起こらなければ、私はずっとそんな不便なことを続けていたと思います。

ある日、右隣の奥さんから、その邪魔な電柱の支線（電柱から線を引き張って地中の杭に繋いでいる）のことで抗議をうけたのです。



その支線は隣地内に入っているが、本来ならばその支線は、我が家の宅地内に入っているべきものだと言議をされたのです。

確かにその支線は、一時期我が家の宅地内にあったのですが、倉庫を造る時に邪魔だったので、東京電力に頼んで支線を除去して貰ったことがありました。

いつの間にか、東京電力は隣家に支線を張ることを頼み込んだようですが、私は仕事や転勤などで留守がちで、全くそれに気づきませんでした。

そもそもこの電柱と支線は、私がこの宅地を買った時点でも、家を建てた時点でも、存在しなかったものです。ある日突然、なんの音沙汰もなく設置されたものなのです。計画があったのかも知れませんが、土地を買う時点では、知らされていませんでした。

そんなことがあって、この電柱と支線を除去することが、我が家と隣家の双方にとってプラスであると判断、東京電力に申し入れすることに決めま

した。

この邪魔な電柱には電線は通っており、道を挟んだ真向いにもっと大きな電柱が立っていて、それを太い線で引っ張る役目をしていました。

私は邪魔な電柱を除去して貰うために、大きな電柱を引っ張るための対案（我が家の宅地の後ろのほうへ電柱を立てて引っ張って貰う）を用意し、この地域の東京電力営業所のお客様センターとの交渉に臨みました。

なぜ実費負担なのか？

初めにお客様センターのFと言う若い担当者が技術者を伴って来ました。

F氏は既に技術者と検討を終えており、この電柱を除去しても、他に引っ張る方法があるので抜きましようと言いました。

ただし電柱除去の費用は、依頼した私のほうの実費負担で、概ね二十万円はかかりますと言いました。

それを聞いて私は、これまでこの電柱のために随分と不便な思いをしてき

たのに、その除去費用を私個人が負担しなければならぬのは承服しかねると言いました。

F氏は、これはおよその額ですから、きちんと見積りが出来たら連絡しますと言って帰って行きました。

私は、その邪魔な電柱と支線をよくよく見ている内に、我が家の宅地の隅の上を、以前にはなかったはずの電線が横断しており、後ろの道路上の街灯に繋がっているのを発見しました。

調査すると、この街灯の電気料金は、市と町内自治会で負担して支払っているそうです。東京電力は私の知らない間に、我が家の宅地の上に電線を通して営業をしていたのです。

数日後、F氏より電話があり、見積りが出来たと行って、

「電柱を抜く費用は、全部で十四万八千円かかりますが、お宅には長い間ご迷惑をおかけしているので、その半額の七万四千円を頂戴いたします」と言いました。

私は、

「東京電力は、この設備で収益をあげているのに、その設備を除去するために、なぜ迷惑を被っている市民が費用の半分を負担しなければならないのか理解できない」と言いました。

そして、

「東京電力は、私の知らぬ間に、ウチの宅地内に電線を通して営業行為をしておられるが、それはどうなっているのでしょうか。そういうことは私の許可なくするが、邪魔な電柱を除去するのは、私からお金を取るのですか」とも聞きました。

同じ回答を繰り返す東京電力

F氏は、もう一度検討してから電話をしますと言いました。

その翌日、どうなりましたかと電話をすると、F氏は、

「ただいま、無償の方向で検討しておりますので、しばらくお待ち下さい」と言いました。それからすぐに電話で、

「やはり、七万四千円負担していただ



きたい。この金額が振り込まれ次第、電柱を抜く工事にかかります」と言ってきました。

私は、

「あなたの上司と直接話がしたい」

と言うと、もう一度検討して返事をしますと言いました。

それから三十分も経たない内に、F氏が、少し年長のNと言うお客様センターのスタッフを伴って、突然我が家に来て来ました。

N氏はF氏より自信満々で、

「東京電力には、負担の公平の原則というものがありません。これまでお客様が電柱を動かして欲しいと言われた時には、皆さんに同じように工事費用を負担していただいております。それに、あの電柱は、あなたの土地の上に立っているのではなく、市道上に立っているのですよ。市の許可を得て立っているものなのです」と言った。

私は、

(1) なぜ東京電力の設備によって迷惑

を被っている市民が、さらにその設備の移動のために、その費用を負担しなければならぬのか。

もしも勝手なことを言って、アチコチに電柱を移動させるような我がままな人がいたならば、そのような人から実費を徴収するのは理解できる。しかし、その他の迷惑を受けている市民から、工事費を徴収するのは理解出来ない。

(2) この電柱と支線を除去することによって、私と隣の双方が助かるのだが、なぜ東京電力に連絡をとって、依頼したほうの人間が負担をしなければならないのか。

(3) なぜ、無断で我が宅地上に電線を張って、営業をしているのか。

以上の三点に絞って尋ねました。N氏の回答は、

(1)は、いままで電柱を抜く費用を負担してきたお客さまとのバランスがとれず、不公平になる。ひいては電力料金にも跳ね返ってくる。

(2)は、言い出した人に支払って貰うこ



とになっている。

(3)は、口頭で許可を得ているはずで、絶対に無断ではない。

と言ひ、私には、とうてい納得のいく内容ではありませんでした。

私はさらに、次のような質問と抗議をお客様センターに投げかけました。

(1)について、電力各社は、円高差益をどのように消費者に還元するか、儲かった費用をどうするか考えているというのに、なぜ東京電力の設備が市民に迷惑をかけている場合、その迷惑をかけられている人から、工事費を徴収するのですか。

円高差益の還元によって電力料金が少し安くなり、一世帯あたり百円とか二百円ぐらいの僅かな額が値引きされているようですが、公平な差益還元をしようとするれば、そんな方法しかないのでしょうか。

電力の供給を受けている普通の世帯と、東京電力の設備が日常生活の邪魔をし、我慢を強いられている世帯との間の公平は、一体どうなるのですか。

これまで、電柱の移動を依頼した消費者に工事費を負担させてきたこと、それ自体、公平の原則から言えば間違っているではありませんか。

(2)の、言い出した人が工事費を支払うというのは、無原則で納得いきません。

(3)については、口頭で私の許可を得たという事実はありません。宅地内に電線が引かれた時期には、我が家は転勤で、ここに住んでいませんでしたから、口頭で許可を与えるはずがありません。

以上のような私の抗議に対しても、お客様センターのN氏は、テープレコーダーを再生するように、同じ内容を繰り返し繰り返し言いつのり、(3)に関しては、ついに私から、あなたは「ウソつきだ」とまで言わせてしまいました。

サラリーマンの弱点

数週間にわたって、私とお客様センターのN氏との間で、進展のない押し

問答を繰り返す中で、私には徐々に方法が見えてきました。

サラリーマンの妻として、サラリーマンの弱点を突くのは不本意でしたが、それが一番の解決方法だと悟りました。

私は期限を設定し、「その日までに、納得のいく方法で、電柱と支線を除去しないならば、私は東京電力本社のしかるべき権限のある人に直接面接の予約をとって、これまでの経過を全部話して、交渉をします」と断言しました。

その翌日、お客様センターより、無償で電柱と支線を除去しますとの返事がきました。

歯を抜くことは、相当痛いものだと知っておりましたが、電柱を抜くことが、こんなにも骨の折れるものだとは知りませんでした。

皆さん、何かのご参考になるでしょうか。

お友達に「わいふ」をおすすめください

新しい定期購読者をご紹介くださった方には、次のように購読期間を延長させていただきます。

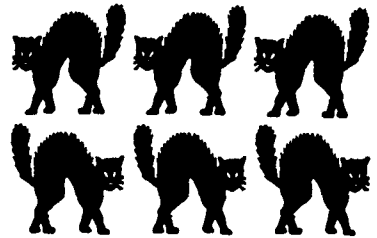
●定期購読者をお一人ご紹介くださるごとに誌代プラス送料とも一号延長。

「わいふ」年間分をプレゼントにお使いください

●ご結婚、赤ちゃんご誕生のお祝い、遠方のお友達とのコミュニケーションにどうぞ。お申し込みただければ、まず新読者にきれいなブレゼント・カードをお送りしてお知らせし、以後毎回送本いたします。

●その場合も定期購読者のご紹介と同様に、お一人につき一冊分延長させていただきます。

サ
ー
ブ



レ
シ
ー
ブ

「母のくせっ毛」
を読んで

横浜市都筑区 村上あき子

二五八号、エッセイスト・クラブの「母のくせっ毛」を読んでどきっとした。七人の子を育てながら髪の手入れを怠らなかつたとの話。鏡をのぞき込むと、ひつつめ髪の私がいる。

三カ月になる息子の世話に追われてこうなっているのではない。もともと身なりに気を使わない質なのだ。会社に行くとき

も、デートするときもほとんどノーメイクだった。髪型や化粧を気にするより、ぱっぱと外出したり、本を読んだりするほうがいいと思っていた。自分の母の、女なんだから、人が見てるから、ちゃんとしなさい”という発想への反感もあった。

でも本庄さんの文を読み、お母様にあこがれを感じた。人のための身だしなみではなく、その小一時間は彼女が自分を見つめる時間だったのではないか。勝手にそう決めると、私もまねをすることにした。

髪をとかし直した。子供のことを考え、やはりゴムで一つにまとめる。引き出しからリボンを出して結ぶだけで、ちょっと気



分がよくなった。もう一息。前髪にムースをつけブローしてみろ。ムースを出すブシュッという音で息子がこちらを見た。生まれて初めて聞く音だったのだろう。

ものの十分で、ちょっとだけ違う私の出来上がり。なんだか気分がいい。朝、電車で都心に向かうとき会社員の自分に変わっていくように、鏡の前でいつもより少し元気な自分になった気がする。

今日は何か新しいことをしよう。一年半読むだけだった「わいふ」へ感想を書き送ろう。十分の時間を使うことで、新しい時間が生まれた。本庄さん、ありがとう。

ピンポーン、 お金下さい

山口県下関市 深田加奈

二五八号、「忘れ得ぬ人々」に、物乞いおじさんが家に来てびっくりしたという話



が載っていた。しかし、このくらいのことでは驚いてはいけないう。世界は広いのだ。今日は、私が以前生活したことのある、ブラジルでの物乞いの人たちのことを是非お話したい。

現在ブラジル経済は少し安定し、状況は変わったかもしれないが、当時（三年前）ブラジルでは、物乞いの人たちが家に来るのは日常茶飯事だった。彼らは我が家の門の前に立つと、どうどうとチャイムを鳴らす。ピンポーンピンポンの元気のよいチャイムに、客人かと急いで出てみたら、物乞いだった……ということが日に一、二度は必ずあった。

最初私は彼らの毅然とした態度にセールのスカシラと、まぬけなことを考えていた。何しろこちらはポルトガル語がちゃんぶらんぶんで、彼らの言う事が全く分からない。彼らの目にも、私は何度「お金くれよ」と言ってもポーツとしている変な東洋人に映っただろう。

しかし彼らの風貌はちよいと怪し気で、じきその正体が物乞いであると分かった。彼らが物乞いをしなくてはならない社会

的、歴史的背景うんぬんむつかしい話はどこかの大学の先生におまかせするとして、今日は彼らの物乞いの仕方や、彼らに対するブラジルの人たちの態度についてお話ししようと思う。

先にも述べたが、とにかく彼らはどうとうとしている。ラテン民族が明るいとはよく言われることだが、物乞いする人たちまで明るいとはさすがだと感心する。ブラジル社会は日本とは異なり、まるで物乞い業が市民権を得ているかのようにさえ見えた。

毎日毎日、いろいろな物乞いが我が家のチャイムを景気よく鳴らした。黒いこうもり傘がトレードマークののっぽのおじさんや、お父さん、お母さん、坊やに嬢ちゃん、おまけに赤ん坊と、一家総出の物乞いたちが、私の顔を見て悪びれる様子もなく「お金おくれ!」と言った。

ただでお金はやれるものか、あつかましいにもほどがある、と私は怒った。お金は商品や労働の対価のはずだ。少しでも私が隙を見せようものなら、彼らはもっと積極的になる。昨日から何も食べてないんだ

よ。仕事もなくってさ。お金もぜんぜんないの。子供もいるしき。何とかしてくれないかなあ……などと自分の窮状をせつせつと訴える。

物乞いは戸別訪問タイプだけでなく、町中いたる所にいる。ブラジルの人たちは町で物乞いから「お金おくれよ」とよく声をかけられる。すると驚くことに、多くの人が恵んでやるのだ。ブラジルの人は善行をつむことで天国が近くなると信じているらしい。

一方、お金を恵んでもらった物乞いは、大げさに感謝の言葉など言わない。「お金おくれよ」「そうかい。じゃ……」「ありがとうよ」でおしまい。私からすると、失礼しちゃう態度だ。ブラジルの人は、あまり気にとめていなかったようだけれど。

しかしそれでも、物乞いの人たちはなかなか紳士、淑女であるらしく、もっと多額を要求したり、われもわれもとたかってきたりという様子はみられなかった。

私ももちろん天国へ行きたい。けれど、お金を恵むと相手を墮落させるとか、お金を恵む行為そのものがとてもえらそうで、

いやらしい行為だと思えて仕方ない。この考えは日本ではまちがっていない。しかしいかにも日本的な発想であると、私は次第に気づかされていった。ブラジルで生活することにより、どうやら世の中には別の正しさもあることを感じたのだ。

私はブラジルの人たちと物乞いの人たちとの共存関係を見ているうちに、困った時にすがり、すがらせるおおかさがうらやましくなった。そして困っているなら「お金ちょうだい」と言ったらよいのかもしれないと考えるようになってきた。「お金ちょうだい」このあまりにストレートな欲求を口に出して一度言ってみたい気がしている。

書けることの幸せ

東京都板橋区 山本雅子

二五八号、「サープレシップ・トス」の投

稿です」を書いて下さった林さん、ありがとうございます。ありがとう！こんなににも的確に私の気持ちを理解して下さいって本当に感謝です。

あのころ私は落ちこんでいたのです。身も心も疲れ果てていました。親子心中なんてこんな時に起こるのではないかと思えるほど深刻に……。

トスを上げて下さった球にジャンプしてみます。サーブレシーブでの助言もありがとうございました。今は気をとり直して中学入学の準備もはじめました。

編集部皆さん、あの原稿を活字にして下さってありがとう。それがきっかけで、今までの事を総括してみようと思い、NHK文化事業団で毎年行なっている障害福祉賞に応募しました。優秀賞に入選し、二月三日、ちょっと後ろめたさを感じながら表彰を受けてきました。

ところで里親というのは、子どもが満十八歳になると（特別の場合は二十歳）、措置（東京都からの援助）が終りなのです。十八歳になるまでに、自立できるように手助けをするのが里親の役目というわけで

す。十八歳（二十歳）になったらこの子はどうなるの？これが先の見えない理由。また逆に、私が養育できない状態に（病氣その他）なったら、すぐに東京都が引きとってくれるということも、福祉の手があつい児童のうちに手放したほうが……”

などと考えてしまう理由なのです。一緒に考えて下さる仲間がいる事に意を強くして、子どもの幸せのためにがんばります。

これからもよろしく願います。

妻の財産、夫の財産

福岡市西区 野口敬子

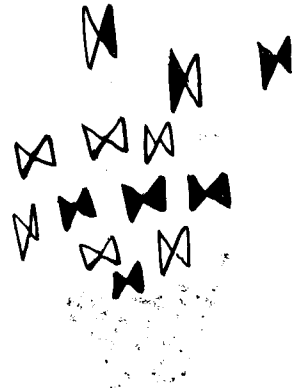
初めて投稿しようという気になった。“わいふ”はずっととっているが、自分の読みたいものに終始しているので、田中編集長の「専業主婦に対する意見」をきちんと把握していない。少し的をはずれるかも

しれないが、書いてみたい。

私はフリーのライターとして働く主婦である。専業主婦をしている人の中には「権利を主張すること」を罪悪のように思っている人が多いような気がしてならない。主婦業も、りっぱな仕事なのだから、ご主人のお給料の中から決まった額の収入（少しでも）を得られるように方向転換することはできないものだろうか。

今、私がいちばん関心があるのが、非嫡出子と嫡出子の遺産相続を同等にしようとする動き。法律改正などが審議されるらしいが、この問題は夫婦が共働きに限らず、専業主婦であっても共有財産を持てるようになって、はじめて論議されるべきものではないのだろうか。現在の日本のように、まだまだ男名義の財産が多く、ましてや専業主婦の場合、収入がないということでもマイホームも共有名義にできないのだから、この同等の遺産相続問題はおかしいような気がする。

夫名義の財産をつくる上には、家計のやりくりの苦労など主婦の涙ぐましい協同作業もあったはず。もし、妻の財産がりで、



すべてが夫名義であった場合、主婦が苦勞した分の財産までも非嫡出子にいくのはおかしいように思えてならない。最初からそれ相応の妻名義の財産があるのなら、納得いくのだが……。

誰か、わかりやすく教えていただきたい。

因みに私は働くことが好きで仕事をしてはいるが、専業主婦になれないのは、いつ何があるかわからないと思うから。主人が寝たきりになるかもしれない、転職すると言いだすかもしれない、急に離婚ということになるかもしれない。私にとって仕事は、いつ何があっても生きていけるための保険でもある。私から見ると、専業主婦の

人は度胸がすわり、人を信頼しきっているようである。私にとって、主人は決して運命共同体ではなく、個々のものである。

「専業主婦」再考

千葉県流山市 福田豊子（34歳）

こゝ最近の投稿（二五五、二五六、二五七、二五八号）は、専業主婦論争が古いうで新しいものであることを、改めて考えさせてくれる。確かにこの「わいふ」という雑誌そのものが、自らの立場である「主婦」という肩書きに疑問をもつ、多くの人々によって構成されているのではないだろうか。そもそも「専業主婦」とはいったい何なのか？ 私たち自身、わかっているようでよくわかっていないことに、今さらながら気付くのである。

専業主婦の歴史は浅い。大正期、女性の大部分は家業労働者として働いており、無

職の妻はごく少数だった。その後、産業構造の変化に伴い、雇用労働者が増加し、一九六〇年代高度経済成長社会の中で、大量の専業主婦が登場した。かつては家事労働も、農作業や家内工業などと同様、生活のために必要な労働であった。ところが、工業化、産業化に伴い、競争・効率重視の資本主義原理が、生産と消費の場を切り離し、労働も賃金労働と家庭内労働に分断されていった。その結果、男は仕事、女は家庭という性別役割分業体制ができ上がった。

家事労働をお金に換算するとうるさかという調査・研究は、すでに以前から行なわれている。最近のものをあげるなら、旭化成共働き家族研究所の九五年度調査で「家事・育児」の価値は一日一万二千円とされている。（一月三十一日、日本経済新聞、夕刊の「家庭もアウトソーシング」という記事から引用）

単純に計算すれば、子育て真っ最中の専業主婦は、毎月三十六万円に相当する労働に携わっていることになる。私もこの数字を見て「確かにそれだけのことはしてるわ

よね」と実感する。それでは私たちが「無償」でこれだけの労働に甘んじているのはなぜだろうか。

私もよくよく考えてみる。月三十六万も稼げるなら、夫にも大きな顔ができ、たいしたものだ。けれども本当に、保母や家政婦としてこれだけの労働をしようと思ったら、家族のめんどうなどとてもみられない。

このように考えると、「仕事か結婚（あるいは出産）か」という女性のジレンマは、結局のところ「お金と家族」とどちらをとるか、というところに集約されるような気もする（仕事は自己実現とも結びつくのでお金だけが問題じゃない、という反論もあるだろうが、わかりやすく考えるために、このように単純化した）。この三十六万はいったい何に使われたのかというと、子供を含めた家族が皆快適に暮らせるようなサービスのために使われたのである。

そうすると、子供（あるいは家族）を持つということもせいたくなくことで、（今日のお金のかけすぎを差し引くとしても）子育ての費用などを考えれば、「シングル」



や「デインクス」という生き方は、女性にとって経済的に損をしない選択なのである。

これだけお金がかかるにもかかわらず、それでもやはり私たちが、家族（あるいは子供）を求めるのはなぜか？ その疑問に対するあたりまえのような答えが忘れられるようなら、フェミニズムは今日ぶち当たっている壁を乗り越えることはできないような気がする。私は「主婦」という生活者としての女性の視点が、フェミニズムというよりはヒューマニズムを社会に伝えてゆく可能性を信じている。

専業主婦とキャリアが、お互い足を引っ張り合うのではなく、女性に対して両極端な生き方を強いている社会そのもののしくみに対して、女性は怒りをぶつけてゆく必要がある。そのためには、やはり行動を！というのが、おそらく田中編集長の方法論なのではないだろうか。私自身も、早く現状からの脱却をはからねば、と常々考えてはいるのである。専業主婦が肩身の狭い思いをする時代が、もうすぐそこまで迫ってきている。

養護学校の生徒たち

そ

の

1

西尾 裕子

一日のはじまり

「おはようございます。健康観察簿を取りにきました」

職員室に入ってくるなり、大塚君は机に向かって叫んでいる。机には誰も座っていない。まだ担任の先生が登校していないのだ。

「おまえ、誰に向かって言ってる」

他の先生に言われるのだが、彼は言うべきことは言ったという顔で、健康観察簿を取ると、

「失礼しました」

と叫んで、職員室を出ていく。

高等部一年生の大塚君は、学校にきたら体操服に着替えて職員室に行き、「おはようございます、健康観察簿を取りにきました」と言い、健康観察簿を取ってくることに、と担任の先生に教えられたようだ。律義な彼は、毎日ほぼ同じ時間にやってきて、「おはようございます……」を始める。「おはようございます」の相手がいないというまいとおかまいなしだ。

そういう時は、登校しているほかの先生が、

「まだ先生、みえてないからね。まわりの先生、誰かに言ってから持っていてね」

と教えることになる。彼は、自閉症。



八時三十分ころ、うちのクラスの秀子が入ってくる。彼女はダウン症。

「先生、ちょっと話があるんですけど……」

担任がいれば担任が、いなければ副担任の私が話を聞く。

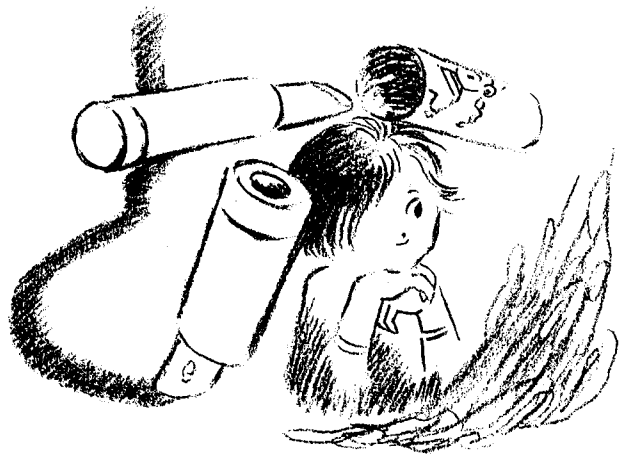
「先生、安藤先生が私に似てると思うんですけど」

昨年担任していた安藤先生は、彼女にとって大変気になる存在であるらしい。毎度毎度、この調子である。

「安藤先生は、私のお姉さんだと思っんですけど、一度先生に聞いてみてください」

彼女は、ダウン症特有の離れた細い目をパチパチさせる。

「発達遅滞児は、みんな



な同じ顔をしている」と言う人がいるが、おそらくそれはダウン症の子の顔付きのことを言っているのだと思う。ダウン症の子は、みんな確かに同じような顔付きをしている。

目尻がっすりあがって、鼻柱は平たい。しかしそ

れでいて、それぞれの子どもたちは、それぞれの親にもよく似ている。

ダウン症の原因は染色体の異常である。約九百人に一人の割合で生まれ、この割合は三十五歳以上の母親でしだいに高くなるとされている。

さて、その秀子だが、ダウン症ゆえの生体としての弱さがあり、特にアトピー性皮膚炎で、顔がザラザラしているのは、かゆそうでかわいそうである。中耳炎があつて病院に通い、かぜもひきやすい。

秀子は理解力という面では高いほうで、いかにも女の子という感じの子である。セーラームーンのリップクリームを持っていたり、かわいいメモ帳に秘密の日記を書いたりする。彼女の最近の関心事は、とにかく安藤先生が自分の姉ではないかということで、夜も眠れないようだ。

「お姉さんかどうか自分で聞いてごらん。それより秀子さん、学校にきたら、まず着替えなきゃ。

それから渡部さんに、日直だから健康観察簿、取りにくるように言っちゃうだい」

「はい」

秀子の気持ちは、担任に言うことでひとまず落ち着くようである。教室に行つて着替えてからは安藤先生のこととは忘れて、普通の学校生活に入っ

ていく。

少し遅れて、日直の渡部溪子が健康観察簿を取りにくる。健康観察簿というのは出席簿と同じ意味合いのもので、そのクラスのその日の欠席者、体調の悪い者を書いて、保健室に持っていく。養護教諭（養護学校の先生は養護教諭ではない。養護教諭というのはどんな学校でも、保健室の先生のことである。お間違いない）は健康観察簿を見て、校内の全生徒の今日の健康を把握する。特にてんかんの発作のあった生徒などは、発作の大きさや様子をチェックする。

高等部では、職員室への入り方、先生との話し方の練習のために生徒が健康観察簿を取りにくる。大塚君のように、なかなか練習になっていない子もいるが。

うちのクラス、二年A組は、日直が取りにくる。今週の日直は溪子である。溪子、恥ずかしそうに職員室に入ってくると、小さい声で、

「観察簿……」
と言っている。

「渡部さん、おはよう」

「あ……、おはよう」

「なんですか？」

「健康観察簿……」

「取りに……」

ちよっと助け船。

「取りにきました！」

「はい、ごくろうさま」

溪子は非常におとなしい子である。発達遅滞児だが、障害は比較的軽く、理解力もまあまあ高い。春休みに情緒不安定になったらしく、心配の余りお母さんから電話があった。夜も眠らないで泣いてばかりいたそうだ。新年度の初めのころは私も心配で、一日一回は必ず「なべちゃん、元気？」と言って、肩をさわってみたり、頭をなでてみたりした。溪子は昨年も担任していた子で、

かわいしいし、気になる。

彼女の性格は、私の小さい時にそっくりなのである。とにかく、おとなしい。家庭訪問で先生がお母さんに話をしただけで、涙がでてしまうような子だ。

さいわい春休み後、学校に来てからは普段の溪子に戻り、こちらも胸をなで下ろした。

様々な子どもたち

朝の職員打ち合わせが終わり教室へ行く。途中、高等部の生徒用玄関を通り、貴子がきているかを確認する。下駄箱には貴子の上靴が入ったま

ま。まだきていないのかと外へ出てみるが、学園生はもう登校しようすだ。

貴子は学校の隣にある、もちのき学園から登校している。精神薄弱者収容施設であるもちのき学園からは、小学部、中学部、高等部の生徒が毎日集団登校してくる。なんらかの事情で家庭から登校できない子どもたちが、学園で生活しており、授業が終わるとまた学園へ帰っていく。子どもたちの障害の程度は様々だが、貴子はその中でも、最も重度の生徒のひとりである。

彼女は自閉症と、てんかんの重複障害児である。知能指数は「測定不能」。同じ絵を選ぶとか、足りないところを書き足すとか、同じように並べるとか、貴子には難しすぎる。検査をしようとする、場合によっては噛みつかれるかつねられる。機嫌がよいと、抱きつかれる。検査にならない。

そんな彼女、新年度になって自分の下駄箱が変わってしまったため、靴をどこに入れていいかわからなかったようだ。靴は玄関に脱ぎ捨ててある。そして本人は……、と探しまわっていると、

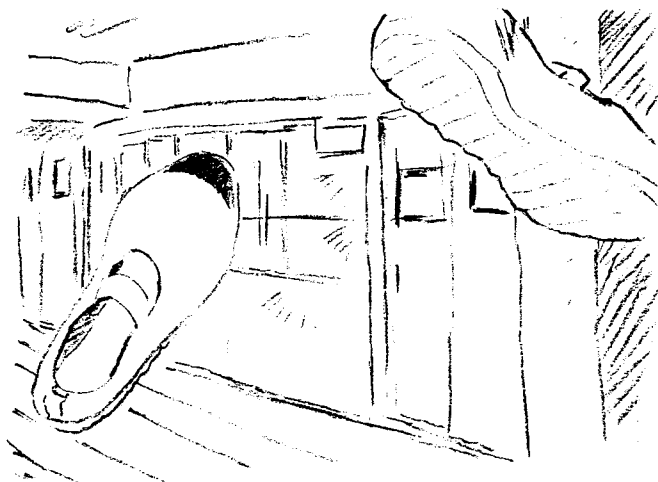
一年F組の先生が、

「うちに、おったー」

と、連れてきてくれる。昨年度の貴子のクラス

が、今年は1Fになっているのだ。

貴子にとって、一年生から二年生になったということは、理解しがたいことに違いない。ほんの二週間休んだだけで、出てきてみると、下駄箱は



変わっているわ、先生も友だちも変わっているわ。

「何なんだー!」

という心境だろう。

貴子は間違っていない。一年近くかかって一生懸命覚えた彼女の教室の位置を、何の断りもなく変えてしまったのは私たちだ。

それでも、貴子はおとなしく新しい教室にきて、新しい机に向かっている。

今日はおとなしい。

貴子を探しながら教室に行くと、寺島幹人が、もう体操服に着替えて席についている。

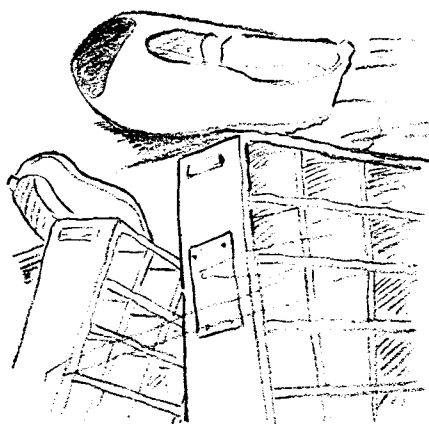
「寺島君、おはよう」

「あ、おはようございます」

幹人はべこんと頭を下げると、またその姿勢で、じっと前を見ている。まわりの友だちを見ているようでもあり、誰もいなければいいで、黒板だけ見ているようでもある。

座っていると言えば、いつまでも座っているような様子である。手がかからず、こちらは助かるのだが、異様といえは異様だ。

幹人は障害としては軽いほうで、ちょっと見は普通の子のようである。会話も普通にでき、理解力もとてもよい。何より、素直で明るく好青年である。昨年、入学式では代表でことばを述べている。



しかし実際は、知能指数はかなり低く、発達遅滞児のいろいろな問題を持っている子であった。小さい時、彼は両手をひらひらさせて走りまわることが多かったと、お母さんから聞いたことがある。頭の上でひらひらさせていたらしい。私は聾学校の重度重複障害クラスで小四の児童に、それと同じ行動をとる子がいたのを思い出した。しかしその子は、最重度の子どもである。キーキーと奇声をあげ、手をひらひらさせて、わけもなく走りまわっていた。そんな行動を幹人もとっていたなんて信じられない。

お母さんの話は続く。

「手が、だんだん下がってきたんです。このへんでひらひらさせていて、それからこのへんで……」

手が、肩、腰と下がってくる。

「今でもやりますよ。興奮すると、手を下に下げた状態で激しく揺らすんです」

それは昨年の綱引き大会、運動会、マラソン大会と、随所で見られた。しかしそれは、誰にでもある癖のようなものに見える。障害が変化する。

この場合、よいほうに変わっていく。私はその実例を見て、なんだかとっても嬉しかった。

さてもう一人、幹人の隣に前を見て座っている生徒がいる。伊藤順二である。彼も、自閉症。自閉症の子は、なかなかハンサムが多く、順二もスリムなハンサムボーイである。彼は学校にくると、チャッチャッと着替えてきちんと服をたたみ、ロッカーに入れ、自分の席に座っているか、教室の中をウロウロと歩いている。

「順二、おはよう」

と言うと、独特の低音で、

「おはよう」

と言う。余分なことは言わない子だけれども、時々、

「ズボンはけい。服、着れい。緑の電車。」

斎藤さん、エビエビエビ。斎藤、とつ。

はまばた先生。ばた先生。はまばた」

などと、訳の分からないことを言っていたりする。

どこまでもがんばるお母さん

みんなが教室に集まるころ、安藤孝義がお母さんと入ってくる。

孝義は自閉症で、障害はかなり重い。ことばはあるが、ほとんどがオウム返しで、自分の意志を伝えるには至っていない。時々小さい声で、

「おいしい 笑顔 マクドナルド」

と言ったり、

「オーレー オーレーオーレー」

と歌ったりしている。

この孝義、実にせっかちなのである。せっかちを極めるところなる。





朝は、四時半に起きる。着替えて鞆を持って玄関に立っている。しかたがないので、お母さんも起きる。見ていないと外へ行ってしまう。どんな訳も分からず行ってしまう、迷子になる。目が離せない。

とにかく朝ご飯を食べさせ、学校の始まる二時間以上前に家を出る。

孝義は自転車に乗れる。これだけ障害が重くこたばも話せない子が自転車に乗れる。これは、もちのき養護学校の七不思議と言われている。

孝義は、サイクリングが大好きである。毎朝お母さんと一緒に自転車で学校にくるのがそれだけでは飽き足らず、ひょうたん池の周りを、ぐるっとサイクリングしてくる。かなりの距離である。一〇〇キログラム以上ある孝義の巨体が、ぶよんと自転車に乗って走る。それも猛烈な勢いで、グングン走る。その後を、お母さんが必死で追いかける。追いかけていないと、孝義はどんどん行ってしまう、行方不明になる。お母さんも大変である。

そんなことをして、学校にくるのが七時三十分。始業まで、あと一時間半もある。孝義とお母さんは自転車を置き、学校の裏山の散歩に出る。孝義は散歩も大好きである。走るようにして山を

登っていく。その後を、お母さんが追いかける。追いかけていないと、そのままどこかへ行ってしまう。散歩を無理やりやめさせると、本人はその場は我慢するのだが、その我慢がストレスになり、授業中に逃げたり、食べたものを吐いたり、おしっこを漏らしたりする。

そんなふうに一時間も散歩をすると、二人は汗ダクダクになって教室にくる。お母さんには本当に頭が下がる。お母さんが倒れるのではと、心配になる。お母さんは笑って「病気もできない」と言われるが、本当に病気ひとつしないで、毎日孝義につきあっている。

不思議なのは、これだけ運動をしても孝義は、体重が一〇〇キログラム以上あることである。

自閉症とはなに？

順二、孝義ともに自閉症であるが、タイプは違う。いちがいに自閉症といっても、自閉症とはどんなふうですという定義は成り立たないように思う。順二は順二であり、孝義は孝義である。全く違う。

よく、ちまたでは、自閉症とは自分の殻に閉じこもってしまったって外界との接触を嫌うもののように言われる。「私、自閉症なの」と言って、人と

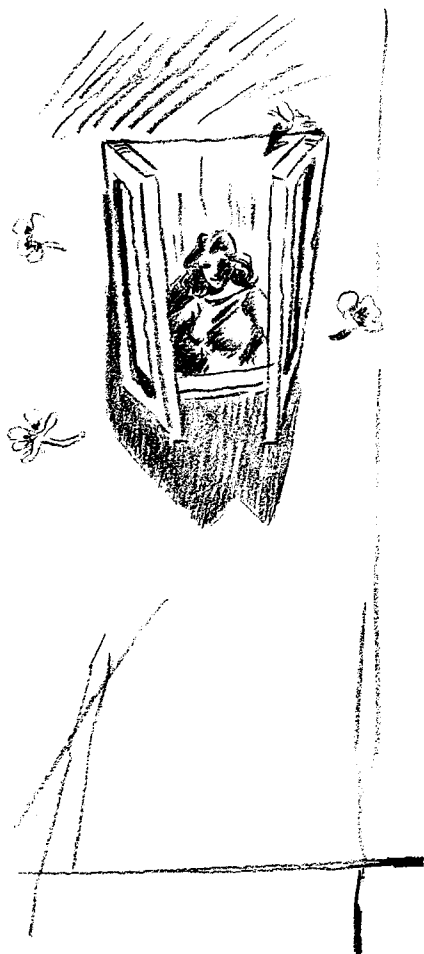
付き合いたがらないふうを装っている人がいる。自閉症とは、そういうものではない。

脳になんらかの障害があることが原因で、そのために外界の認知にひずみが起こる。しかし、認知に障害があると言われても、ならば聞こえ方、見え方が私たちと違うのか。彼らの聞こえ方、見え方を誰が分かるといえるのだろうか。

自閉症の子はオウム返しが多い。生活のパターンが一定していないと不安。パターンが変わってくるとパニックになる。極端な子になると、歩道などに踏み出す足が、右か左かまでこだわる子も

いる。ちょっと踏み出し方が気に入らないと、何度もやり直す。ある面での記憶力はすばらしく、先生の住所なら、百人いる全職員分知っていると、先生の車を全員の分知っているとかいいう子もいる。「昭和何年何月何日」と言うと、その日が何曜日か正確に言う子もいる。東海道線の駅名を全部知ってる子もいる。

また、たとえば回るものが好きで、換気扇やタイヤが回っていると、それを日がな一日見ている子もいる。一日中、紙を小さくちぎっている子もいる。



では、なぜ？ 脳のどこに障害があって、どうしてこうなるのだろうか。原因は、まだはつきりしていないようである。

うちのクラスの自閉さんは順二と孝義、それに貴子である。彼ら、彼女の行動は、みんなそれぞれに実にかわいらしく、人をよく見てもいる。心を許せる人には甘えるし、感情も豊かである。殻になんか、閉じこもっていない。普通の人に、「私、自閉症なの」なんて言って欲しくない。

さて、これでクラスの六人が集合した。残りの一人は、まだ更衣室だ。

てんかんの子ら

半田裕二は着替えが遅い。非常に遅い。

彼の障害は、てんかんである。発作は夜中か明け方に起こるので、私たちは彼の発作を見たことがない。かなり激しいものらしく、全身硬直し、手足をガタガタ震わせ、失禁も伴うことがあるらしい。

てんかんは、脳の中で脳細胞が異常な放電をおこすために起こる。子どもでは、千人に六、七人いるといわれている。

同じてんかんでも、大きさ、頻度に個人差がある。裕二の発作は大きく、疲れたりすると二、三



日続けて起こったりする。

かつて私が聾学校の重度重複障害クラスを持っていた時の健ちゃんという子は、てんかん発作が何分ごとという頻度で起こる子であった。小さい発作なのだが、突然パタンと倒れるので、

「あ、発作だったんだ」

と気づく。しかし本人は、すぐ正気に戻る。散歩の時は、両脇から抱えるようにして歩く。それでも何分がおきに、ふっと意識がなくなり、からだがガクンとなる。発作である。一日中そんな調子で、ガクンガクンと倒れている。一日が発作で明け、発作で暮れる。彼の脳細胞は、放電でどうなっていくのだろうか。

昨年受け持った楯君は、大きい発作が起こると、すぐ病院へ運び、注射をしないと死んでしまうという子だった。学校での大発作は全くなく、「朝、発作がありましたので、今日は休みます」と、家から連絡が入ることから、発作があったんだと分かるくらいであった。

その楯君が、一度学校で大発作を起こした。昼休み、更衣室で遊んでいたことだった。ちょうど私が近くに居合わせ、発作を見守る形になった。白目をむいて、意識は全くない。手足が硬直し、そのうちすごい力で手足をガクガクいわせ始

めた。いつもひょうきんな楯君を知っているだけに、彼のこの変容には、恐怖心すら覚えた。それにしても、なんというすごい力だろう。手足のガクガクは、大変な勢いでずっと続いている。

死んでしまふ。

この子はこのまま死んでしまふ。早く、早く、誰かきて。そのうちに保健室の先生がきた。

「救急車を呼んだから、もう少しがんばって」

吐いても窒息しないように顔を横に向け、毛布に寝かせ、見守る。発作の時間をずっと計っている。五分……六分……。こんな長い発作は私には初めてだ。これが自分の子だったらたまらない。見ていられない。

救急車がきた。救急隊の人が担架に乗せて、楯君を連れていく。私は全身の力が抜けた。

さて、裕二である。まだ着替えている。時計をはずすのに十分くらいかかっている。シャツの腕のボタンをはずすのに二十分以上かかる。反対側のシャツのボタンをはずすのに二十分。ベルトをはずすのに十分。シャツのボタンをはずすのに十分、という具合だ。指先に力が入らないのだろうか。早くやろうという気がないためだろうか。どうもその両方ようだ。

「裕二、早く着替えなさい。朝の会、始まるよ」

更衣室のドアを開ける。裕二が着替えている。

ズボンを脱いでパンツ姿だ。女子教員が男子高校生のパンツ姿を見るのは、あまりよくないことだろう。しかし二年A組は、両担任、女だ。裕二のパンツ姿も見ると、孝義のおちんちんも見る。

パンツの裕二は、細い細い両足をパンツからひょろろぐんと出している。裕二の足は細い。本当に細い。骨の上に皮がピタッとくっついていて、彼の体重は三〇キログラム台である。高校生が三〇キログラム台でいいのだろうか。だから、腕も細い。からだも細い。てんかんだからだろうか。でも、貴子はデブなのになあ。てんかんなのに……。

みんなの朝会

やっと裕二が更衣室から出てくる。朝の会が始まる。

たいてい貴子は、後ろのロッカーの前に座って、紙でうちわのようなものを作っている。好きなことを飽きず続けるのは自閉症の特徴であるが、貴子は紙でうちわを作るのが好きである。紙さえあれば、うちわを作っている。紙がなければ、そこらじゅうを探しても（それが大切な紙であろうとなかろうと）うちわを作る。たくさん作る。ど



のうちわも皆同じ形をしている。持ち手があり、立体的で角がピチットしている。

はじめのうち友達のパリント類をベリベリ破ってうちわを作っていたのだが、それでは困るので、すぐに貴子専用の紙入れをロッカーに作った。その前が、貴子の定位置になった。「貴ちゃん、朝の会始まるよ。席につきなさい」

「貴ちゃん！ 貴子さん！」

何度呼ばれても動かない時は、背中を押して、立たせて連れてくる。

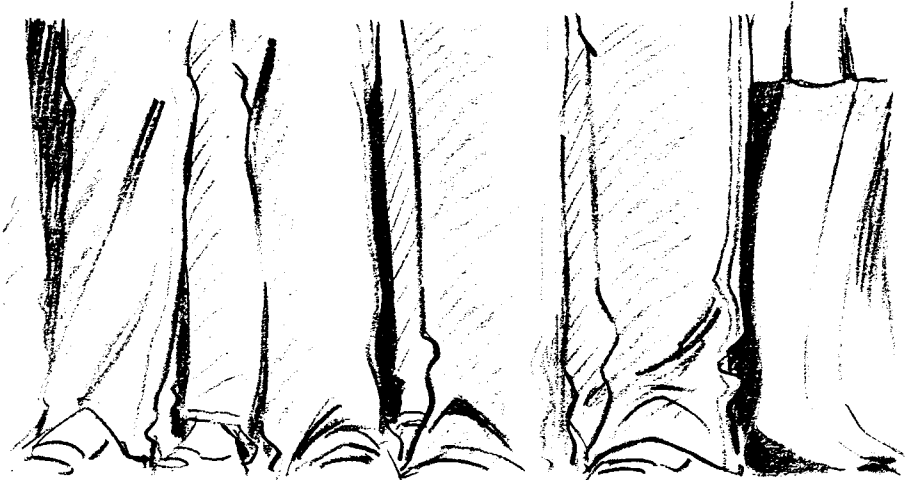
時には、虫の居所が悪く（たいていそれは生理前であるのだが）席につかせようとすると、つねったり噛んだりしてくる時もある。先生をつねると勢いがついて、前に座っている溪子や孝義まで、たたいたりつねったりする。そういう時は、さわらぬ神に祟りなし。しばらくそっとしておく。今日は、素直な貴子である。席につく。しかし、じっとしていない。からだを前後にゆすり、いすをガタガタさせる。それをやめさせる。

「起立！」

やっと朝の会が始まる。日直の号令で全員立ち上がる……わけはない。

「貴子さん！」

日直が怒っている。怒ってもそれで立ち上がる



子ではない。私が立たせる。まあ、しょうがない。

「礼！」

「貴子さん！ 礼！」

貴子は、ちよつと膝を曲げる。彼女の礼である。

「着席！」

全員座る。貴子も座る。楽なことはちゃんとやる。起立も礼も貴子にはちゃんと分かっているのだ。立つのは億劫なので、立たなくてすむものなら立たないでいようと思つてゐるようだ。座った後はずつと、からだを前後に揺らしている。さすがギンギンいつてゐる。

「健康観察をします。欠席の人、いませんか」

「いませーん」

「からだの調子の悪い人いませんか」

「はーい。かぜです」

秀子である。秀子はいつもどこか悪いと言う。

健康観察簿は毎日、小田川秀子の名前であつまる。

字のうまく書けない生徒たちが観察簿の小さいますに、毎日、かぜ（小田川）とか、中耳炎（小田川）とか書くので、観察簿は月末には、みごとに真っ黒になる。溪子が、いつもの太い字で、欠席なし、かぜ（小田川）と書く。

ハンカチ調べが終わつて、先生の話。

「先生のお話、林先生お願いします」

担任が立ち上がり、日程など話す。

林先生は三十歳。独身のベテラン女性教師である。年度初めに一緒に掃除をしていて、彼女はこう言つた。

「実は、少しご迷惑をかけることになるんです。

この秋に……結婚が決まりました」

「えー！」

「それで、新婚旅行などで、十日くらい休むことになると思ふんです。その間、クラスのことよろしくおねがいします」

「は、は、はい」

ひきつる私。

めでたい、しかしえらいこつちゃ。いや、めでたい。それにしてもえらいこつちゃ。孝義と貴子の顔が、グルグル回る。うーん、やっぱりえらいこつちゃ。

それが、今年度初め。

しかしこの人、結婚前の超ウキウキ舞い上がり状態を、学校では絶対出さない。今日もいつも通り、冷静で穏やかな林先生である。林先生の話が終わると、私の話。こうして朝の会は終わる。

九時十五分。一時間目が始まる。

——つづく——

（文中の名前は全て仮名）

（え・西宮氏）

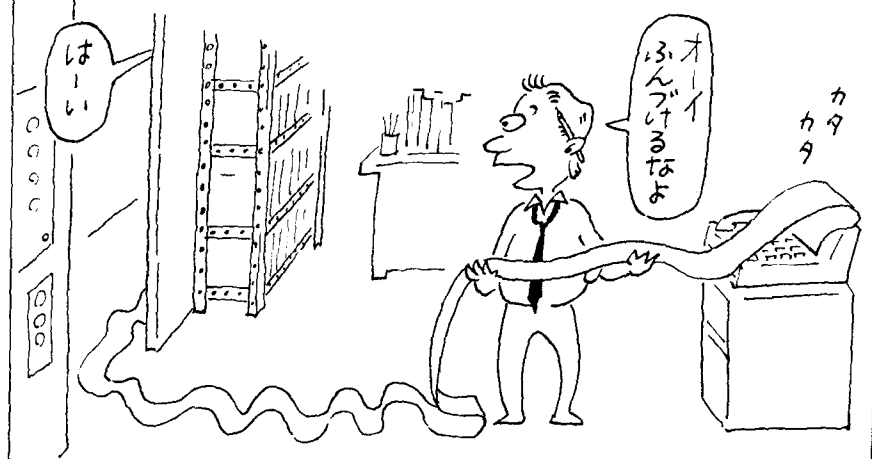
平成
おたけげん

住専

今、暴かれる大蔵官僚
の体質

(25)

★ 大蔵官僚天下り全リスト入手 ★





古嫁

東京都世田谷区 本庄たよ子

昨年の暮れ、世田谷区から「高齢者へのお知らせ」という手紙が届いた。我が家は義母、夫、私の三人家族だが三人連名、つまり私の名も連なっていた。正直言って義母と並んだ私の名には一瞬どきりとした。「うーん、私もおばあちゃんと同じ高齢者なのか」と。

六十歳で退職してはや五年、現在の私は専業主

婦であり、もうひとつ「古嫁」である。これもつい最近初めて耳にした言葉だが、私と同世代の嫁を「最後の古嫁」というのだそう。たしかに結婚して四十数年、私はずっとこの家のお嫁さんとして古びてきている。

長男である夫と結婚したからには私は嫁であつた。それは当然、という時代に私は育ち嫁いできた。長い年月には胸の中にたたみこんできたものもあるけれど、義父を見送り義母と夫と三人の子どもたちはずっと家族であつた。

子どもたちは結婚してそれぞれの家庭を持った。その妻たちは息子の妻であり嫁ではない。私も「姑にはなるまい、また息子の妻を嫁とは思えない」とつぶつぶっているのだが。



「古嫁」という言葉は一石となって私の胸に小さな波紋を投じた。「古嫁とはなんだ」と心の中でぶつぶついても、まさしく古嫁なのだ。高齢者と古嫁の両天びんが私にのしかかっていたのである。

年が明けて私は張り切っていた。義母を中心にして子や孫・曾孫たち二十四人の新年会である。書初め、ゲーム、合唱そしてご馳走等々を古嫁として取り仕切っているのだ。また今年は義母の米寿を祝う集まりもそれに続いてあった。パーティ好きを自認する私も、高齢のせいかさすがに疲れ果ててしまった。

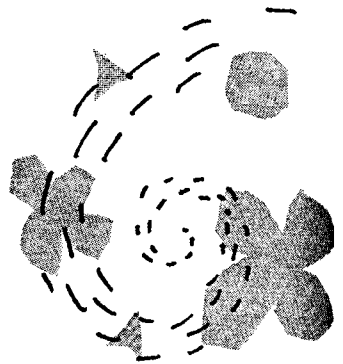
そんなときに夫の友人が「お母様の米寿のお祝いに伺いたい」と電話をかけてきた。その朝、夫が「午後は出かけよう」と誘ってくれていて、私も緑のある広々とした所で気分転換をしたいと楽しみにしていた。それが「どうぞお待ちしています」の夫の声にプツンしてしまったのだ。「お母様のためなら当り前だと思ってるんだから。私はね、何十年もそれに我慢してきたのよ」とサラダボールを投げつけたのである。チキンサラダが飛び散った。

夫にというより、古嫁へ投げつけたのだと思う。古嫁という言葉を目にしたときの波紋が私の

中でずっと波立っていたのだ。当然反撃してくると思ったが、夫は間もなく着く客を意識してだまって片付け出した。私も一応来客への酒肴の膳だけは整えて家を飛び出した。

とはいえ、帰るべき実家などとうにない。全くどうしようもなく小平の墓地へ向かった。若くして逝った兄の命日でもあった。父と母と兄の墓を掃除しながら涙を出し切った。生前の三人は優しくかった。その限らない優しさに身を置いて私は自分を取り戻していった。家に帰ると夫は笑顔で迎えてくれた。

二月に入って間もなく、義母が階段をたった一段踏み外して腰の骨を折ってしまった。義母も私も一番恐れていたことである。手術は無事すんだが、リハビリでどこまで回復できるだろう。「覚悟を決めたか」と自分に問いつつ、「最後の古嫁」を全うしたいと切に思っている。





丹頂鶴

戦後50年記念連載

人生愁恨 ③

きみにとっすべていくたのうれいありやと

問君都有幾多愁

あたかもにたりいつこのしゅんすいの

ひがしをさしてながるるに

恰似一江春水

向東流

東京都江戸川区 荻田 一枝 (83歳)

りんめい りー 齡美と李の争い

李は近ごろよく呉夫人齡美と争った。以前は一緒にとっていた食事も、色々な理由をつけて、食堂で私や曜子とともに食卓に向かった。たいてい僅かなことからなのだが、よほど感情を害したのだらう、ある朝怒りを含んだ鋭い声が二階の仕事場まで響いてきた。

栄立商会の建物は呉の所有物だが、店の経営については呉が居る時から総て李に一任してあったという。ところが近ごろ齡美は主人顔にことごとく細かいことにまで口出しをする。

その朝も齡美は起きると洗面の湯を取りに、炊事場に入って来た。傍らのテーブルの上にある新鮮な野菜や肉を見ると、その一つ一つを手にとってみて声を荒

らげ、朝食の支度をしている曜子を詰問した。

「毎朝誰がこんな高価な物ばかり買って来るのですか？」

近ごろは毎度のようにあれこれ小言を言われるので、曜子は返事もせず、油いためにする豆腐を皿に移していた。

籠の中には青々としたえんどうやきゅうりや中国菜が入っている。雇人には粗末な食事を与える習慣のこの土地で、一斤何円もする野菜は贅沢品だ。曜子は、李が朝五時ごろ起きて、ボーイに籠を持たせて市場に行くのを知っていた。

齡美は曜子の返事のないのに、ほっそりした美しい顔を怒りにゆがめ、彼女の沸かしておいた湯を洗面器に満たし、荒々しく扉を開けて出て行った。

曜子は李に黙っているつもりでいたが、余り度々なので、李が炊事場を下りて来た時、つい齡美の言ったことを漏らしたため、争いになってしまったのだった。

「呉太太、僕はあなたから此処の営業方針についてとやかく言われる必要はないと思う。僕は僕の主義でこの店を経営しているのです」

「この店はちっとも利益が上らないじゃあないの。経費ばかりかかって。あなたが余り店員に贅沢させ過ぎるのです」

「いいや、贅沢ではないと思う。店員達の健康は考えてやらなければなりません。彼等は食事以外に毎日の楽しみがないのです。仕事をして腹を空かしているの、健康を失わない食事を与えることが、結局仕事の能率を上げる結果になるのです。あなたは自分の利益を得る計算ばかりしている。粗末な食事を与え搾取することは、従来の資本家の経営方針かもしれませんが、僕の主義は違うのです。今まで帝国主義や資本主義に苦しめられていた我々は、今、最も目覚めなければならぬ時期です。呉がこの店を設立する時、総てを僕に一任したので、彼が多額の株主であっても、あなたが僕に命令する資格はないはずですよ」



「私は目に余るから申し上げてゐるのです。呉だつてきつとゆるさないと思いますが。それにあの女は近ごろ階下へ来て、怠けてばかりいるじゃあないの。日本の女を雇うより、もっと腕のある男の職人を雇うほうがよほど利益が上がるわ」

李は齡美のこの言葉を聞くと、急にいらだたしうに声を荒立てた。

「太太、僕はあの人のことについてあなたから何も言われたくない」

私がこの言い争いの内容を曜子から聞かされたのは翌日だった。

日本を離れて六、七年になるが、日中になると急激に温度の上昇する大陸の氣候には、慣れてはきていても、体はなかなか順応しきれなかった。家庭にいる時と違う環境の変化と、慣れぬ仕事の疲れに食欲もなく、時々おそれられるめまいに、慮に断わつて幾度か部屋に戻つて休んだのだ。呉太太がやめさせなさいと言っていると聞き、お金を得たい一心で夢中で飛び込んだ職場だが、夫の給料だけに支えられていた生活と違い、生活費を得るのが如何に困難なことなのか思い知らされた。私は体の不調もあつて、その日から仕事をやめようかと迷い始めた。

仕事を間違つてばかりいるので、張さんに叱られていると、李はなにかと話し掛けてくれるようになった。少し複雑な会話になると、筆談で用を足した。李はポケットを探つて鉛筆を出すと、紙切れに漢字を書いて示す。

一つの鉛筆を交換し合いながらお互いに顔を合せて話していると、不思議な深い感情が湧いてくる。李は話がはずむと相手の肩を指先で叩く癖があるが、私は李の指先が肩に触れる度に、中国人の人懐っこい性質に魅かれた。その紙の端に書かれている「好事廻転」そんな文字がいつまでも私の胸に残った。

あなた達の境遇もいつかは必ず立ち直る時が来る。好い時が来るのを待つのですね。と、その表情は語っていた。中国人は何千年間の歴史の中で、戦乱の世に生活してきた。没法子と彼等が度々口にするこの言葉は、総てを運命と受け止め、それに順応した生活態度を身につけているのだと思った。

その後曜子が盧から聞き出した話によると、李と齡美の仲は益々陰悪になり、呉太太が李支配人をやめさせると言い張っているらしいが、大陸百貨店の王大人のとりなしで表面化せず落ち着いているとのことだった。

暑さが増すとともに仕事場は日々忙しくなり、職人が増え、新しい裁縫台やミシンが持ち込まれた。国府軍の司令官が自動車来店の前に止めて、自分の服や女性の服を注文していった。李はそれぞれの客の応待に忙しかったが、齡美とは日毎に冷たい顔を合わせていた。

じあお

焦と曜子

店の前に氷糕（板形の氷菓子）屋の売り声があると、店員の焦は李の目を盗んでは氷糕を買って来る。炊事場の曜子の処へ行って、一つは自分の口にくわえ、もう一つを曜子の手握らせた。焦は若い青年で、母を独り長春に残してきている。曜子をなんとかして妻にと望んでいるのだが、彼女は一向気のない返事ばかりしていた。

「私は中国人と結婚するの。大陸で育った女は内地の人のお嫁さんにはなれないわ」と、口ぐせのように言っていたが、

「焦さんたら今朝も私の仕事を手伝ってくれながら、後ろへ来て色々なこと言うの。『我的（僕）は肥った女が好きだ。着る物なんか持っていないかたっている。朗らかなよく働く女が好きだ』そしてしまいには私の頬に顔を寄せて、小さな声で『我愛妳』（アイラブユー）ですって」

曜子はそんな話を私に聞かせて笑った。

彼は暇さえあれば炊事場へ来て、歌を唄ったり、口笛を吹いたりして油を売っ



た。曜子が忙しそうにしていると葱を切ってやったり、料理の手伝いまでしてやるが、曜子は彼の親切を迷惑がった。彼に作って貰った料理はたいい皆から苦情が出るからだった。

「なんて塩辛いんだ！」

と大きな声がとんでくる度に、曜子は焦をなじった。

「もう你的（あんた）なんか炊事場へ来ないで頂戴。我的（あたし）一人でしたほうがいいんですもの。你的が余計なことするんで吐られてばかりいるじゃあないの」

だが、食事の仕度の時間になると曜子に言われたことなど忘れてしまったように、焦は炊事場にやって来て、黙って薪を割ってやったり、彼女の感情を害さないように手伝った。曜子は忙しい時、力のいる薪割りなどしてくれるとつい嬉しくなると、彼の愉快な話題につられ笑い興じてしまうのだった。

曜子は毎夕仕事のあとに李の部屋の掃除を欠かさなかった。扉を開けると真向いに大きなテーブルが置かれてあり、その上にインクスタンドや筆など、彼が毎日使用する文房具が整理よく並べられている。私は仕事の合間に時々曜子と一緒に李の部屋に入って行った。初めてその部屋に入った時、写真立てに一葉の中国の美しい女性の写真が飾ってあったので、李に「太太？」と尋ねると、「不、中国のスターです」と笑いながら言ったことがあった。それからその写真は自分の写真に変えられてしまった。

曜子はテーブルの上の物を一つ一つ片付けて、丁寧に雑巾掛けた。私は曜子がこの部屋を掃除するのを最も楽しみにしているのを知っていた。なるべく時間を掛けて、誠意を尽して細々と働いているのだ。私は李の部屋に入る時、一つある椅子は彼専用のものなので、いつも壁側のベッドの端に腰掛けた。真白なシートが目に見えように映る。曜子が肥った体を小まめに動かして掃除しているのを



ぼんやり見やりながら、彼の部屋の調度品を眺め、束の間の憩いの一時を過すのだった。

栄立商会の閉店

国府軍が街に多数入って来ると、敗戦前、日本人の経営していた大きな喫茶店がダンスホールに改造された。中国司令部は日本人会を通し、軍人を慰問するためにと、多数のダンサーを募集し、日本人の娘や未亡人の「街頭進出」を要望した。私は幾度かその回覧に目を奪われた。

物価は日増しに上昇し、店から貰う給料では一家を支えきれず、売る物も次第に乏しくなってきた。相変わらず労働を嫌う夫は、終戦の痛手で、男としての活力を凍結させ無気力な人間に変貌してしまったのか、金を得る算段をしようとしな。日本人も特技を持っている者や、商売の才覚のある者は、会社が解散になっても、なんとか妻子を養う方法を講じているのに。

結婚して今まで金銭的な苦労を味わったことのない私は、一人あせるばかりだった。それに齡美の冷たい視線を受けるようになっては、店も余り働きよい職場ではなくなってきたのだ。

曜子にそんな話をする、いつ李の耳に入れたのか、李は最初の約束通り、残業を入れて給料を千円に上げてくれた。「あなたの夫は今何の仕事をしているのですか」と問われても、夫のことには触れられなくなかった。

かつては互いに戦った国民同士ではあるが、元々同じ人種の我々は、兄であった国民が弟に変わっただけのことなだから、という彼の慰めの言葉が身にしみて嬉しかった。

私の給料を上げたことが職人達の耳に入ると、その中でワイシャツの仕立の上

手な腕のよい若い陳^{ちん}が、給料を上げて欲しいと申し出た。だが彼の望む金額と話し合いがつかなかったのか、翌日から陳は病氣だと言って休んだ。四、五日経つと店へ出て来て、やめさせて欲しいと申し出た。店では彼を失うことは勝手なのだ。彼のような職人をすぐ雇うことは困難なので、引き止めたかったが、彼には現在の収入より以上の仕事が続いていた。結局店を去って行った。

彼の受持っていたワイシャツの仕立は、翌日から早速断わらなければならぬ状態になった。私には陳と同じように一日五、六枚の仕事はともなすことは出来ない。張が一番先に渋い顔をした。仕事熱心な彼はその不満を私にぶつけた。

いくら努力しても五、六年実地で鍛え上げてきた職人とは、技術においても、能力においても私とは大きな差があるのだ。張は注文の仕事がはかどらず、客が催促に来る度に、私に荒い言葉を投げつけた。

盧が見兼ねて、

「張、太太は男子服はよく知らないのだから教えてやらなければ駄目だよ」と言って庇ってくれた。

ミシンの調子が悪く、手を油だらけにして調整していると、盧は自分の仕事を側に置いて、

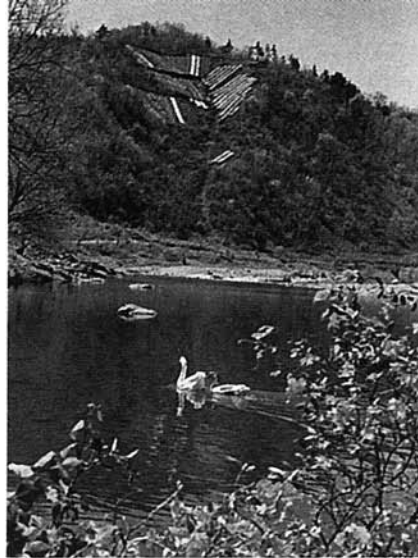
「我的がして上げる」

と私を椅子から立たせ、耳元で言ってくれた。

「事務所へ行って支配人に、ワイシャツに付ける白いボタンを大陸百貨店からもらってきて欲しいと頼んで下さい。その間に直しておいてあげますから」

それを聞くと私はほっとして「行」と返事すると手を洗い、仕事場を出た。

事務所の開け放したドアから中を覗いてみたが、李は居なかった。多分彼の部屋だろうと思い、事務所を通り抜け部屋の前に立ち、ドアをノックすると、



「太太？ お入り」

と声がした。彼の部屋に入る時ノックするのはたいがい私だけだった。盧や張や他の店員は黙って扉を押して入って行くし、曜子はいつも、「支配人」と彼女らしい大きな声を掛けながら開けるので、李は私のノックの音を覚えていた。

彼はベッドの上に仰向けになって新聞を読んでいた。起き上がるとスリッパを引っ掛けて私を迎えた。

「あの、盧さんにワイシャツのボタンを大陸から貰ってきて欲しいと頼まれました」

「どのくらい？」

「多分二十ダースもあったら間に合うのじゃないのでしょうか」

彼は私の顔を見ると、「哭了嗎？（泣いたの？）」と言って近寄って来て肩に手を掛け、ベッドの端に掛けさせた。

「急がなくてもいいでしょう」

と言いつ、彼も少し間をおいて側に腰掛けた。

「張に怒鳴られたんでしょう。さっき大きな声がしていましたね」

「ええ、でも私がいけないんです。私、自分の力の及ばないのが口惜しいんです。一生懸命しているのですけれど、男子服は私は苦手だわ」

答えてから、こんな言いわけがましいことは言うのではなかったと唇を噛みしめた。

「太太。たとえあなたの工作が拙いとしても、決してあなたの精神は拙いものではない。努力はいつか酬われる時が来ますよ。張は仕事に熱心過ぎるんだ。他人の心を思いやる暇がないんです」

私はベッドの上の刺繍した枕の、アルファベットが色とりどりに美しく綴ってあるのをぼんやり読みながら、その慰めの言葉を聞いていたが、彼の目がじっと

自分の足元にそそがれているのに気がついた。終戦前、南洋の占領品だと言って配給を受けたアメリカ製のズックの白い靴、水色のソックスをはいた粗末な身装だが、スカートの下から覗いている脚は真っ直ぐな素直な形をしている。私は彼の強い視線を意識すると、話題を変えるように立ち上がった。本棚のほうに向かって歩きだし、

「先日の芳恵日記貸して下さいませんか？　読んでみたいのですけれど」と頼んだ。

李は立ち上がってデスクの傍らの本棚から、古びた表紙の本を抜いて手渡ししてくれた。私がページを繰っている側に近々と身を寄せ、

「明白？（わかりますか？）」

と本の中をのぞき込んだ。

「ええ、始めのところ少しわかります。一月一日のことから書いてあるのね」

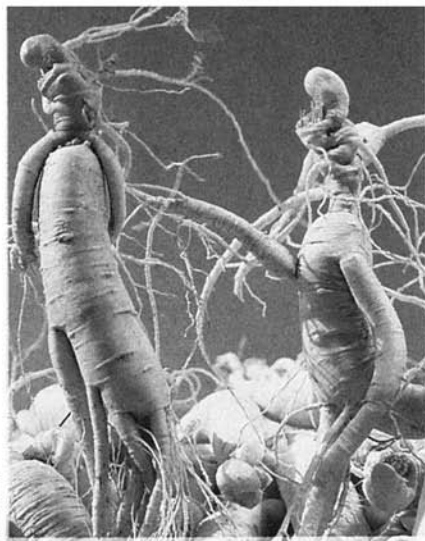
私はページを繰り、

「ここにこんなこと書いてあるわ。女の人が、この本の主人公の芳恵だわ。鏡の前に向かって、こうして長い髪を梳かし……」

自分の髪に手をやり、その文面のしぐさをしてみせた。中国女性の艶な優美な姿が、巧みな文章で表現されているのだ。李は微笑しながら、私が読んでいるのを見つめていたが、

「そうして髪を梳かしている芳恵を窓越しに眉目秀麗な青年が垣間みて、恋するところから始まる日記文なのですが、わからないところがあつたら聞きにいらっしゃい」

だがその時、扉が開いて、齡美が立美を抱いて部屋の入口に立ち止まっていた。李と私は思わず顔を見合わせた。李が私の側から離れ、齡美を迎えようと入口へ近付いて行った時、齡美は一言も言わず険しい目を私の顔に注ぐと、荒々しく



吉林人參

去って行ってしまった。まだ作業時間なのにこうして李の部屋で彼と親しく話しているところを齡美に見咎められたことは、なんといっても私の手落ちに違いなかった。

五、六日経って栄立商店が閉店になることを曜子から聞かされた。齡美と李の争いがあったことは勿論だが、李は大陸の王のすめに従って、呉の建物を明け渡し、洋服部を大陸百貨店に移転することに同意したのだった。彼は大陸百貨店の經理（企業とんいの責任者）になることを承認した。

店の閉店が決定すると、入口の大戸は終日閉ざされた。商品が一つ一つ整理され、大きなガラスケースと一緒に大陸百貨店に移された。李はそれ等の書類の整理に没頭した。

日中は蒸し返るような暑さだが、日暮れになると急激に気温が低下する。仕事の整理を急ぐため一層忙しさが増し、店に泊る日もあった。

仕事を終えて夕食後、外気に当たるために街のショーウィンドウを覗いてこようかと思ったが、李の部屋から話し声がするので扉をノックすると曜子も盧も居た。私が入って行くと盧が、

「今夜はもう夜業をしませんから、ゆっくりして行きなさい」と声を掛けてくれる。

ちょうど窓下を通り掛かった氷糕屋の声を聞くと、李は立ち上がって部屋を出て行ったが、間もなく両手に氷糕を握ってきて、黙って一つを私の手に握らせ、盧や曜子にも分け与えた。私はその冷たい感触を味わいながら、この部屋ともじき別れていくのだと思ひ部屋の調度を見回した。曜子が、

「今、支配人が私達のこと心配してくれているのよ。どこか行く当てがあるの？」

と聞いた。無論当てなどあるはずもなかった。再び洋服店で働くなど、自分の未

熟な腕では無理なことを思い知らされた今、口にほうばった水糕のため言葉が出ないのを幸い、ただ、頭を振ってみせた。

紫色の西の空が次第に薄闇に変わり、北山べしやんの上に細い月が光っている。日中の暑さも忘れさせる夜の冷気が流れ込む窓際に身を寄せ、星の輝き出した美しい空に見入っていた。

階下から足音がして、張が湯気のもやもや出ている皿を片手に、白酒ばいぢゆうの瓶を抱え、コップを手に入ってきた。テーブルの上にコップを置くと、盧が、「なかなか気がきいているな」と言って早速瓶を受け取り、カップに酒を注いだ。李にねだってポケットマネーを出させたに違いない。大皿の中には卵の油いためか山盛り盛られている。酒の好きな二人は愉快に談笑しながら盃を交わしているが、酒の飲めない李は、二人の会話を淋しそうに聞くだけだった。

昏迷こんめい

翌朝、食事が済むと仕事場に入るのはまだ早いので、商品の整理された階下の広々とした店先で、誰も居ないのを幸い、一つだけ残された大きな姿見の前で、美容体操の真似ごとをして自分の姿を鏡に映していると、ふいに李が入ってきた。彼はズボンのポケットから紙片を出し、無言のまま手渡すと立ち去って行った。私は鏡の前に立ったままその便箋を開いてみた。そこに認したためてある文字に、次第に胸の動悸の高鳴るのを覚えて狼狽した。

「我愛妳。小説の中にこんな言葉が出て来ますが、あなたに対する今の僕の気持ち偽ることの出来ぬ真実の言葉です。朝ふと目を覚ました時、いつかあなたの面影が僕の臉の中にあります」

—つづく—

知らぬは親ばかりなり

冬休みに帰省した大学生の長男のようすがいつもと違う。一人住まいでろくなものを食べてないので、母親の手料理をこれが食べたかったと喜んで食べるのが例なのに、今回は全く素っ気ない。ポソポソと食べる。

具合でも悪いのかと思って、とんだおかど違いの質問をしてしまった。

「なんか元気ないけど、トラブルでもあったの？」

この子がねーと驚くに十分な答えが返ってきた。

すごく料理のじょうずな彼女がいると言う。ふーん、で何回か食べさせてもらったの？と聞くと、毎日。それも今まで食べたことのないものばかり

大人になりかかった子供たち

作ってくれると、母親のよりもよほど満足気な口振りで、よく気が利くとさえ言う。

食べたことのないもの？ どういうの？ 説明できないが味付けがよくて何を食べてもうまいそうだ。そう言えば、その人のことは今までチラチラ話に出てきていたけど、私は男の友達だとばかり思っていた。彼女の隣の部屋にお兄さんがいて、試験の時資料を貸してくれるし、公認だから夜遅くまでいても平気だと言う。

ん？ 遅くまで？ どうりでいつも留守番電話なわけだ。

「でもバイトの日は十時過ぎるから、それからは行かないでしょう？」

千葉県茂原市 米良恭子



「すぐ近くに住んでるから寄るよ」
 「ナニ？ 行くの——休みの日は？」
 「行くよ。たまに買物につき合ったり、部屋で映画のビデオを見たりする」

「えーっ、毎日一緒ってこと!？」一段と声が大きくなった私に、だから初めに毎日と言ったとチャラリと答える。
 え？ あっそう、そう言ったね。でもつい聞きのがしちゃった。まさかそんなこと考えてないもの。
 つまり、九月からお互いのバイトの

日を除くほとんどを彼女の部屋で一緒に食事をしていたことになる。三年も後半になるとカップルが増えて、彼女のいる人はみな夕飯を作ってもらっているとか。ほんとかいな。

バイトが同じ火、木というのも偶然のはずがない。車の走行距離は毎月千キロ。どこへ行っているんだか——。四年生は同棲している人もいるそうだ。ヒエー！ それは止めてよ。まさかそうしよなんて思っていないでしょうね。

彼女が、父親はショックを受けるといけないので、まず母親に話すつもり、これからも大事につき合っていきたいと言うので、自分もそう思っているとのことだった。へーえ。

生活の基盤はもうあっちだからなあ、といそいそと帰って行った。息子が発った後、部屋を片付けに行くときと年賀状が置きざりになっていたが、彼女からの一枚だけはしっかりと持ち帰ったようで、見当らない。

もうすぐ卒業!!

埼玉県草加市 匿名

新聞を読むふりをしながら、私はさっきから息子を観察していた。中三の伍朗は朝食の後、なかなか制服を着ようとはしない。パジャマのままで金曜の持ち物を用意し、二階の自室と一階の居間を行ったり来たりしながら、あーあ、学校に行くのかよ、嫌になっちゃうよな、などとぶつぶつ呟いていた。

時計を見ると、もう八時十六分だ。母親の私は気が気ではない。中学校は徒歩五分の距離なので、彼が家を出るのは毎日、八時二十二分だ。昨日は風邪で休んだので、今日もついでに欠席してしまおうという様子が見える。

明日は第四土曜日でまた休日になる

ので、今日出席したほうがいい、と母親の私は判断していた。第一志望の公立高校の入試を二十八日に控えているので、あまり欠席が多いと担任の心証が気になるのは事実だ。それでなくても今年はすでに二十日ばかり欠席している。ここは一つ、鷹派の母親で押し通さねば。

「伍朗君！ 何時かわかってんの！ 今日行けば明日はのんびりできるんだからね。S君やG君も、あんたのこと心配してるわよ」

「あーあ、やってらんねえな！ けっ、学校なんか！ まあ、仕様がねえから、行ってやっか！ おかかのせいで起きるのが遅れたんだからな！」

わかってんだろうな！」

「何言ってるの！ 人のせいにするんじゃない！ あんたが自分で起きられなかったからでしょ。勉強しないんだったら、とにかく早く寝ることね！」

「ふーんだ！ 俺、まっすぐ学校行かないで、寄り道してやっからな！」

伍朗は捨て台詞を残してバタバタと洗面所に駆け込んだ。テレビの連続ドラマをつけると、八時十九分だ。洗面所で歯磨きをしている音が聞こえる。戻ってくるとテレビ画面をちらちら見ながら、ようやく制服を着た。

風邪だから仕方がないのだが、昨日はファミコン三昧、夜は夜でマンガに

テレビドラマの鑑賞で時間をつぶしていた。受験勉強の疲れが出ているのだろうが、まだ本番の公立高校の入試が残っているのに、と私はつい口うるさくなる。

「何か気にいらないことがあったら、校長先生に言いなさい! 何ならおかさんが学校にどなりこんでやっから! 言うべきことは言わないと学校は変わらないんだからね」

日ごろは上品ぶっている私も、こんなときは肝っ玉母さんに早変わりだ。

「じゃあな、行ってくる」と伍朗は玄関に向かった。ちょうど八時二十二分だ。

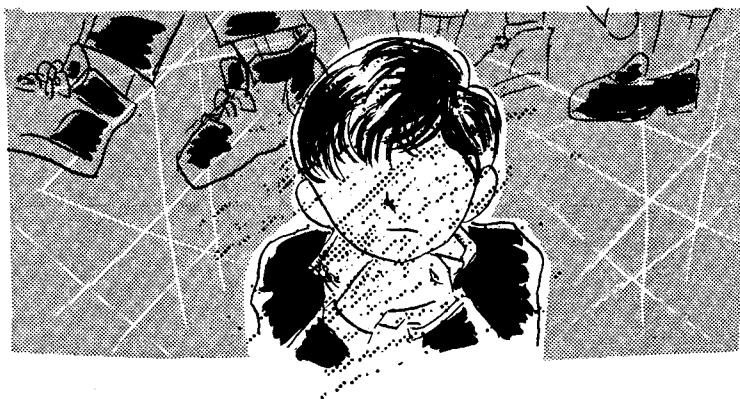
「うん」

「行ってきます!」

「はい! いってらっしゃい!」

不機嫌なままに対応してしまい、少し後悔した。いつもは「ぼっちゃま、行ってらっしゃいませ、もう少しね」などと、愛想よく送り出しているのに。

しばらくして居間の硝子戸から外を



見ると、田圃の向こうの広い通りを小走りに歩く伍朗らしい姿が見えた。走っている男の子やのんびり歩いている女の子の姿も見える。あの通りをまっすぐ歩いて左に曲がると、もう校門が見える所に出る。寄り道などせず、伍朗は学校の校門をくぐるだろう。

「もう少しだから、頑張つてよ。もうすぐ卒業なんだからね。そしたら、この学校とも、きれいさっぱりおさらばできるのよ」

ほっそりした体に重そうな鞆をかけて歩く伍朗の後姿に、私は心の中で話しかけた。

二年前の今ごろは毎日が地獄のような日々だった。いじめに巻き込まれていることに気づいてからというもの、私は息子の命を守ろうと必死だった。体にあざが絶えず、頭に円形のはげができ、よく物がなくなつた。

いじめられていることが分かってからというもの、私たち夫婦はなんとか打開の道をと何度も担任と話し合っ

た。一度は相手の母親に抗議したりもした。が、色々やってみても全く改善せず、無駄な時間を費やした。

担任の力量もさることながら、学校全体がばらばらでいじめに対して真剣に取り組んではないことが見え、あえて登校拒否をした。いじめだけでなく遅刻、喫煙、授業のエスケープ、買いい食い、つばを吐く、などの不正行為がまかり通っている現実をも知った。親子、夫婦の修羅場を繰り返して疲労困憊し、とうとう具合が悪くなって寝込んだ末の決断でもあった。とても安心して通わせられる状態ではなかった。

もう学校なんかどうでもいい、何よりも息子の命を助けなければ、傷ついた息子を守ってやらねば、という心境だった。おかげで家族の絆を再確認することができた。

二年生の六月下旬から、市の教育委員会が設置した不登校児対象の「ふれあい教室」に通いはじめて、二年の終わりまでそこで面倒をみてもらった。

ここで伍朗は少しずつ明るさと元気を取り戻した。

三年の四月から、思い切って一か八かの賭けに出た。教育委員会の方針で、とにかく一度、復学させてみてくださいとのことだった。そんな無茶な、と初めは反発したのだが、伍朗君の将来のために、と言われると、考えざるをえなかった。

迷った末、夫が毎日伍朗を車に乗せて登校、直接学校へ送り届けるという非常手段に出た。新しく赴任した校長が担任が迎え、仲のよかった友人といっしょに教室に入っていた。週一回は欠席したものの、本人の頑張りや友人たちの支えでなんとか一学期を乗り切った。

私たち夫婦は学校側と絶えず連絡を取り合い、意見交換をした。学校のほうが低姿勢で全面的に非を認め、いじめっこたちに対しての指導を強化し、よく全校集会を開いてはいじめや不正行為に対処の追放運動を展開したようだ。前の校長は定年退職した後だっ

た。私自身も二度、校長先生に直接電話した。

ひどかった成績も夏休みの塾通いが効を奏してか、二学期は大きくアップしていた。今までになく長かった二学期の終了式の日、息子が開いた通知表を見て私は大声を出した。国語、英語、社会の三科目が4でその他は3、2はなくなっていた。

「すごい！ 4じゃない！ それも三つもついている！」と、私たちは抱き



あって喜んだ。二年生の一年間のプランクは大きく、遅れを取り戻すのは容易ではなかったのだ。

そして年が明け、二月早々に私立の高校入試。私立は二校受験し、一校合格した。成績優秀につきとのことで「進特クラス」への推薦書が添えられていた。やったー！合格だー！と家族中で大喜びした。

先に受けた高校が欠席日数でひっかって落ちたために、結果を待つ間はらはらした。私立を受験する場合、いじめで不登校になった生徒は、きわめて不利であることがはっきりして頭にくる。

今までに同学年の男子生徒三人がいじめが原因で都内の中学校に転校を余儀なくされ、すでに登校拒否を克服し



た伍朗とS君の他にも数人が不登校。

また、ここにきて教室に入ろうとすると気分が悪くなって入れず、保健室登校している女子生徒が一名。校内の暴力事件で一年生が怪我をして病院に行く事件や、女子トイレではボヤ騒ぎさえ起きた。問題行動を繰り返す生徒は平然と登校し、いじめのターゲットになった生徒は心身に深い傷を受けている。なかなか大変な教育現場なのだ。

もう少しで卒業だ、いよいよおさらばできると、私は心から安堵の思いに浸っている。

「伍朗君、よく頑張ったね。誰にもできることじゃないよ。君は決して弱虫じゃない。強くたくましく成長した君のことを誇りにおもうよ」と言ってみよう。そして友人たちを呼んで盛大にお祝いしよう。

いじめ、登校拒否、復学、そして受験と、親子で厳しい試験を乗り越えて迎える卒業式が、いよいよ目前に迫っている。

おさない子を育てる



出産で 考えたこと

東京都練馬区
おもだか
澤潟裕子

ラ・レーチェ・リーグ（母乳育児を望む母親に適切な情報を提供し、サポートしていくボランティア団体。一九五六年にアメリカで始まって全米に広まり、その後国際的にも広がった運動。日本には十五年ほど前に入ってきた）のミーティングでリーダーのジャッキーさん（当時たまたまアメリカ人がいたのだが、日本人のリーダーも育ち、多くいる）から次に出産する時はどのようにしたいと思っているか質問があった。

その時、長男はまだ一歳半で次の子供のことなど考えてもいなかった。ただ、もうしばらくして妊娠・出産となっても、たぶん長男の時と同じように里帰り出産をするだろうと考えていた。だから「産後すぐの家事は大変だし、長男を実家に預けて入院してはならない。やはり実家に帰って両親の協力がなくては出産できない」と答えた。それが当然というかそれ以外どんな方法があるのか見当もつかなかった。ジャッキーさんは、うーんと少し

考えてから「私はどうして日本の女性が里帰り出産を選ぶのかわからない。確かに産後の家事は大変だが妊娠中に冷蔵庫をいっぱいにしておけばどうにかなる。それよりも新しい家族が増えるという時になぜ家族みんなで赤ちゃんを迎えないのか。なぜ夫に協力を求めないのか」とコメントをくれた。

そういえば三カ月間の里帰り出産の後、夫との間で離れて過ごした分をとり返すのに、一年はかかったなという苦い思い出がよみがえる。

長男が生まれた後、一カ月半実家で過ごしたのだが、その間私の目は我が子にしか向かなくなり、夫は我が子の成長を見ることがもなく遠く離れて暮らした。たった一カ月半と思っていたがオギャーと生まれた赤ん坊は劇的に成長していく。

親として、夫婦として、家族としてこの空白期間は我が家に決定的な破壊をもたらすところまで行きかけた。それを後悔しながら、また里帰り出産をして同じことを繰り返すのか……。

その日は答えを出せなかったものの次の出産を考えるきっかけになったことは確かだった。

長男が二歳六カ月の時、妊娠に気付いた。出産の希望は次のとおり。

①内診台は二度とゴメンだ

②会陰切開はしない

③薬で陣痛を起こすことはしない

④夫、長男と一緒に産む

⑤入院中は長男も一緒に寝泊りする

⑥母乳で育てる

とにかく自然なお産をしたかった。

そして夫にどんなに苦しんだ末、赤ん坊が生まれてくるのか知ってもらいかけた。また、出産だからといって長男と急に離れてしまうのは不自然だと思ったし出産を秘密めいたものとしたくなかった。

この条件をすべてクリアしたのは助産院だった。産科医は妊婦の心と体を全然わかってないのよとキツパリ言ってしまう助産婦さんに出逢え、私は東京の助産院で出産することに決めた。

平成七年七月。満月の次の夜、破



水。会社から素っ飛んで来た夫は背広を脱ぎながらも「何をどうしたいのか」と落ち着かない。私は私で明日が遠足という小学生のようにウキウキして嬉しくて仕方がない。すぐに陣痛が来て痛みを逃していると長男が「ママ、どうしたの?」と気づかってくれる。もうすぐ赤ちゃんが生まれることを話すとき真剣な眼差しで「うん」とうなずき私のそばを離れない。

痛みが一段と強くなりみんなで助産院へ向かう。夫は腰をさすってくれ長男は「ママがんばって」と励ましてくれた。

「立ってごらんよ。重力でまた赤ちゃんが下がるから」

助産婦さんは要所所でアドバイスをくれる。立ったとたんにもう産みたくなくてベッドに横になる。一回二回といきんでも生まれえない。痛い。もうダメだ……と思った時、

「ほら、しっかり目をあけて!」と喝を入れられる。はい、と目をあけると夫の心配そうな顔が飛び込んでくる。

パパ、そんなに心配しなくてももう少
して生まれるからね。

次の瞬間。生まれた！一秒、二
秒、三秒オギャー。ああ泣いた。

みんなに見守られて無事娘が生まれ
た。

「ママ、よかったね。赤ちゃん生まれ
てよかったね」

と長男が言う。そして「ママからロー
プが出てる！」とびっくりしたへその
緒は慎重に夫が切ってくれた。



娘は母のにおいを覚えるかのように
すぐに乳に吸いついている。十カ月待
ちに待った私たちの新しい命が月の光
に照らされていた。

産後の夫の張り切りは目まじかっ
た。休日は私が横になれるよう長男を
連れ出してくれた。平日は掃除も洗濯
も何もしないで寝ている！と仕事に出
かけた。夕食の片付けは「オレがやる
から水にはさわるな」と一カ月間助け
てくれた。長男は「赤ちゃんかわい
いね」と可愛がった。でもまだ三歳だか
ら母親に甘えたかったり機嫌が悪いこ
ともある。娘は娘でしょっちゅう母乳
を欲しがる。常に二人の要求を満たす
ことはできなかったかもしれない。

それでもなんとか生後百日を迎えた
時は、ひとつ山を越えた感じがして嬉
しかった。

今回、夫の姿を見て、出産と産後の
ゴタゴタ期を経て男の人は父親になっ
ていくものなんだなあと考えた。臨月
の今にも破裂しそうなお腹。生まれた
ばかりの赤ん坊のなんと小さいこと。

なんと壊れそうなこと。それでいて
しっかりと成長していく姿。これを見
ると見ないのでは後々の子供への愛情
の湧き方が違ってくるのではないかと。
何かに似ている。そうこれは母乳のメ
カニズムと同じだ。

産後二三日はどんなに赤ん坊が
おっぱいを吸ってもなかなか母乳は出
てこない。でも四日目あたりからどん
どん乳腺が張ってきてわぁーっと乳が
あふれ出てくる。母乳は最初が肝心で、
あふれ出る四日目を持たずして粉ミル
クを与えると、おっぱいを吸う回数
が減って乳は思うように出てこない。父
親は母乳の代わりにたくさん愛情で
家族を包んでいく。やはり最初が肝心
だったのだ。

夫に娘の出産の感想は、まだ聞いて
いない。あの夜何を感じたかは十年後
のお楽しみにとっておこうと思ってい
る。

とりあえず明日からの我が家に万
歳！



子育てについて

大阪市旭区
宮崎貴子

月並みですが、やはり幼児教育（早期教育?!）についてとても悩んでいます。

自分なりの考えを持って子供に接しているつもりですが、他のお母さん方の話を聞くと正直言っただけで済むこともあれば……。

マスコミにまどわされる……ということは私自身はあまりないほうだと思いうのですが、お母さん方の生の声というものはどうも刺激大のようです。

とりわけ日ごろ自分が尊敬?!していたり、いいなと思っているお母さんの口から勉強の話などをされると、ついつい自分自身のポリシーのようなものが揺らぐのを感じます。

先の長い（結果がすぐ出ない）問題などだけに不安と言えば不安なのです……。

以前「わいふ」にも書かせて頂きましたが、優しく思いやりのある子などだけでこれからの世の中、生きていけるのでしょうか。

幼稚園の先生は「さとしくん（息

子）は自分からたたくということはありませんし……」とおっしゃっているのですが、先日またたかれて「たたかないで」。たたいたらいたいたいよー」と泣いているのを目撃した時は「やり返せよー」と思ってしまった。

いじめについて深刻化している今日、いじめられない子供に育てるには……また、万一一いじめられてもそれに打ち勝てる子に育てるには……と毎日本当に悩んでいます。

最近報道されるいじめられての自殺など、公立学校での事件が多いようですが、幼稚園では私立小を受験する子が、いじめに近いことを他の子にするのがとても多いのです。ストレスが原因なのではないでしょうか。

とりわけ秋の受験シーズンにはどこのクラス（うちの幼稚園は縦割りなので）でも必ずあるのです。それを思うとはたして私立小がいいのか……と悩んでいます。



あれから 一年

名古屋市中区

村瀬智子(36歳)

自転車からおろすと、勇斗はどんな保育園の階段をひとりですべて上っていく。ちょっぴり甘えん坊をしたいときには、階段の真ん中あたりで私があとから来るのを待っていて「だっこー」。私は、小脇にかかえて、「ワー、落ちるー」などと、ふざけながら残りの階段を上るのだ。

まだ、二歳にならない長男をはじめて保育園に預けてから、もうすぐ一年がたとうとしている。

はじめのうちは、予想したとおり涙の別れが続いた。いろいろと考えた末に預けることにしたのに、本当にこれでよかったのかと心が揺れる。

二週間ほどたったその日、勇斗は珍しく泣かなかった。保育室に連れていくと、なんと自分から担任の先生に抱きついていったのだ。そのときの様子は、今でもはっきりまぶたに残っている。

「勇斗は、ひと山越えたんだなあ」と子どもの成長を強く感じたのと同時に、さびしさも味わっていた。母親に

見捨てられたのではなく、必ずあとで自分を迎えに来てくれるのだということが次第にわかってきたのだろう。

そして、慣らし保育が終わり、給食が始まると、私はおよそ八年ぶりくらいに家でひとりの昼食を食べることになった。在宅の仕事をしなから、家の中はこんなに広かったのか、こんなに静かだったのかと感じる。

子どもがいなければ、もっと集中できるのにとイライラしながら仕事をしていたころと何という違いだろう。

家でも勇斗に対して、それまでと違って、ずいぶん余裕をもって接することができるようになった気がする。

そして、保育園へ預けてみていろいろ見えてきたことがある。

親自身が「こう生きたい」と思ったとき、子どもがいるからとあきらめるのではなく、子どものことも含めて、どうすればそれが実現できるか前向きに考えることの大切さ。子どもは、親から与えられたどんな環境の中でも、結構たくましく成長できるものだという

こと。子ども自身が生きる力を持っているのだということ。

勇斗自身にとっても、家族などの血のつながったおとな以外にも自分のこ



とを考えて、大切に思ってくれる人（先生）の存在を知ったのはきつとよかったのではないか。

一番年下の弟ということ、わがま



まが通る家の中とは違い、おもちゃを取り合ったり対等な友だちの中で小さな社会を経験させてもらっているのだろう。

また一方で、保育園児は少数派。働く母親に対する風当たりも強い。まわりはみんな幼稚園に行くなか、自分のところだけが保育園へ通わせることで後ろめたさを感じてしまう友人もいた。保育園を卒園した子どもに、小学校の教師の差別的な目を経験したという話も聞く。まだまだ保育園の存在自体が、必要悪という見方が多いのが残念でならない。

幸い、近くに同年代の子どもが少ないせいもあって、勇斗は保育園に行くのをいやがったりしない。比較的体も丈夫で、ここまで大きな問題もなく過ごしてきた。

あたたく見守ってくれた先生方に感謝しながら、今日も勇斗を後ろに乗せ、自転車で風を切って保育園に向かう。

（え・小林正子）



忘れ得ぬ人々



在宅死でできる幸せ

東京都世田谷区 西谷富士子

吾が命、預かりください。
阿弥陀様。心は家に残れども、
亡がらは煙となりて昇天します。

半紙にうす墨で辞世の文を残して、長男の嫁のお父様は六十八歳になったばかりの二月のある寒い日、天に召されました。違筆な方だったけれども、その字はふるえる手で書かれたように思えます。

一昨年夏、胃がんの手術をされた時、す

でにすい臓に転移して後二、三年の命と家族には宣告されましたが、本人には告知しなかったそうです。一年後我が家に見えられた時は以前にも増してお元氣のようでしたが、それから半年、我が身の不調を思う時、のこり少ない命と悟られたのでしょうか、このような文を書かれたと想像すると心が傷みます。

入院を拒み、近所のお医者往診を頼み、余計な延命を拒否されたお父様はもろんのこと、病院に依存し入院させてしまいがちな昨今、在宅看護された家族の方々の勇氣と愛情に頭の下がる思いです。

数年前、夫は肝臓がんで入院していました。息をひきとる最後の言葉が「家に帰る」でした。その一カ月間、自宅で吐血し

た時入院を嫌がっていたにもかかわらず、うろたえた私は救急車を呼んでいました。入院してしまうとう家に戻れる可能性はないと分かっていたながら……。がん死の場合には最後まで意識がはっきりしているもので、本人も、周りの者もつらいのです。私はそのつらさを受け止める勇氣がなかったのです。夫の意志を無視して入院させてしまったことを今も悔まれます。

自分の意志で生れてくるのじゃないのだから、せめて死ぬ時は自分流に、と今尊厳死宣言する人も多いと聞きますが「おしきせの死」でなく、自分の思い通りに死を迎えられたお父様の旅立ちでした。ごめい福を祈ります。

おすすめの一冊

夫は定年

うろろう
いらいら

妻はストレス

清水博子 著

東京都新宿区 時尾松子 (64歳)

私の周辺には定年を迎えたばかり、或いはその予備軍の夫をもつ年代の主婦が多い。誰もがぎくしゃくした夫婦間の調整に気を遣って、会えば互いに愚痴をこぼしあっている。私もその一人で、夫は定年後まもなく鬱病に陥ってたいへんな時期があった。最近やっと泥沼状態から這い出すことができたが、私の胸の奥のくすぶりはまだ完全に消えてはいない。

そんな折に出会ったのがこの本で、題名にひかれていっきに読んでしまった。なるほどそうだったのか、ウンそのとおり、と思ひ当たることはかりだ。

筆者はフェミニストセラピイ “あい”の主宰者であり、カウンセラーとしてここ数年、老いの入口に立つ妻たちの不安

とストレスの問題にかかわってきた。また古くからの “わいふ” 会員でもあり、投稿欄にもたびたび登場して名前を記憶している方も多いと思う。

カウンセリングというものについて、私は身の上相談の類ぐらいの認識しかもっていなかったが、これは自分自身への問いかけの中で、問題の解決法をつきとめようとする大事な作業であり、その手助けをしてくれるのがカウンセラーなのだということを知った。

人間関係、ことに夫婦間の問題は一旦こじれると解決の糸口がなかなか見出せず苦しいものだ。こんなときこそカウンセラーの存在が必要となる。こんがらがってしまった心の中のもつれが、対話

を繰り返しているうちに少しずつほぐれ、次第に方向が見えてくる様子が、文中に挙げられたいくつかの事例を読んでいるとよくわかる。

昔なら五十代、六十代といえはすでに人生の終着駅近くだったが、今はまだまだ現役という人も多い。これから老いの時期に移るという意味で筆者はこれを「渡老期」と名づけている。ほんとうの老いを迎えたとき、夫婦はやはり心の通い合う関係でありたいものだ。軌道修正は早いほうがよい。夫の定年という一つの転機を前にして悩んでいる人には、これはぜひお薦めしたい本である。



青木書店 一五四五円

北水ブックレット2

進む路

高橋雅子 著

埼玉県行田市 小川由里

おおかたの親はわが子が順調に中学校からいわゆるいい高校へと進み、さらにいい大学に行って、そこそこの会社就職してほしい、と願っている。ところが、中学校生活のなかで学校に行けなくなる子もいる。「これになりたい！」という職業を見出して職業高校に進みたいという子も出てくる。そういったとき、子どもと親はどう話し合い、迷い、どういう結論を出していったのだろうか。その後どういう状況でどのような思いを抱いているのだろうか。丁寧に取材されたそのドキュメントである。

行った高校になじめず「やり直したい」と単位制の都立新宿山吹高校を受験し元の高校ではつくれなかった人間関係

をつくり、やがて希望通りの専門学校へと進んだT君。運転士になりたいという小さいころからの夢に向かって、鉄道高校に進んだM君は、父親の「大学に行け」という熱い期待を振り切って鉄道会社就職する。あこがれの仕事をするなかで、やがて、あれほど父親が望んでも受け入れなかった大学進学を自分から目指し、大学の通信制教育過程の法学部に入学する。登校拒否のS君はアルバイトがきっかけで「学校外で楽しく、自分らしく学び成長していける場」東京シュールに入学、そのなかで自分のやりたいことを探すためには、もっと広がりのある生活が必要だと文部省の中学校卒業程度認定試験を受け、翌年定時制高校に進



学。その後、大学に推薦で合格、中国文学を専攻する——などさまざまな進路をとった若者がつきつきと登場する。読み終えて心が明るくなるのは、きっと「ああ、こういう生き方もできるんだ」「こんな学ぶ方法もあるんだ」という進路の視界が広がってくるからに違いない。変化の激しい高校の制度情報、受験情報も盛り込まれているので親子で読んでほしい本である。なお、この本は書店販売方式をとっていないため、問い合わせは直接出版社へ。

(株)北水 一〇三〇円

☎〇三—三六四—四六〇四

マイジョブ・ マイホビー

パートで働いきいき人生

横浜市緑区●三田 サキ

私は十年間専業主婦として、のんびんだらりとした楽な生活をしてきたが、今から十年前の昭和六十一年にその生活が変わった。

義父がある日突然に他界してしまったの

だ。その時多額の遺産をいただいた。横浜工業地帯の土地五十坪であった。

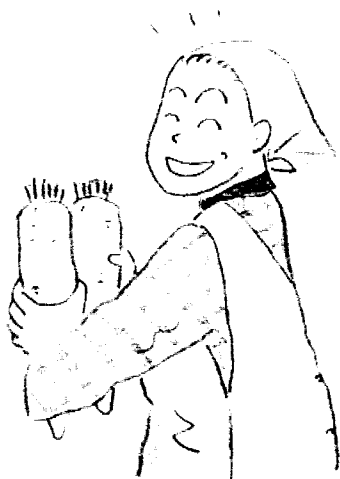
市営住宅に住んでいた我が家は早速その工業地帯を売り、一戸建ての住宅を購入することができた。ところが翌年に土地を売った分と、家を買った分の税金が何と一千万円もかかってきた。何とか税金だけは払わなければと、手もとにあったお金でどうか支払ったものの、我が家は一文なしになってしまった。

これではいけないと思い、私は主人にパートで働きたいと申し出た。共働きを嫌う主人も、この時ばかりは仕方がないと観念して許してくれた。早速私は、近くの大

手スーパーの青果部の裏方として働くことになった。朝八時半から午後一時までのパートである。長い間望んでいた共働きである。緊張して希望に燃えての初出勤であった。店は徒歩十五分ばかりの所なので往復ジョギングで通うことにした。

長い間のだらだらとした生活をいっさい捨て、きりっとひきしまった気持ちをもって勤めにのぞんだ。二月の厳寒の中、動きやすいように薄着して運動靴をはき、午前八時十分前いよいよスタートである。ワッショイワッショイとかけ声もはずんで、かけ足で職場に向かった。

先ず三階の店長室に伺い深く頭を下げて



挨拶をした。店長はすぐインターホンで青果部の主任を呼んだ。

三分後に鼻筋のおつたハンサムな青年が現われた。店長は「今日から働くことになった三田さん、よろしくね」と言っ、紹介した。主任は早速私を着替え室に案内して、ロッカーの鍵を渡して下さった。そして一階にある作業場へと向かった。主任は歩きながら「仕事もきついし、親子ほどの連う若い社員に、どなりつけられることもありますよ。辛抱できますか」「はい、それはどこの世界でも同じだと思いますので大丈夫だと思います」「もし辛抱できそうにない時は、早目に私に知らせて下さい」

と言って気づかって下さった。

いよいよ青果部入口のカーテンをくぐり、九人ほどの従業員に紹介される。初仕事の始まりである。産地から運ばれたダンボール詰の野菜や果物を出して計量し、ビニール袋に詰め、値段をつけて店に出すのである。十時の開店までに一通りの品物が店のショーケースに並んでなければならぬ。

何とか用意が整った時、軽快な音楽に乗ってよろい戸があげられ、いよいよ開店である。それからが本格的な今日の仕事の始まりだった。主任の指示に従って品物を次から次と束ねたり、量ったりして店に並べる下ごしらえをする。

実働四時間半の勤務であるが、実に秒きざみのあわただしさである。何しろ食物を扱う仕事なので、お客さんに不快感を与えないよう、トイレに行く時はトイレと言わず「ハウスに行ってきます」と、上司にこたわってから行くのである。或る日主任が「メロンがきましたよ」と言う。私はメロンを店に出す仕度をするのかと思っ、

「メロンどこにあるのですか」と聞いたら、「メロンとは何のことはない、皆さんの検便のこと、ほうらウンコのことよ」と主任が言ったので皆はどっと笑った。

楽しくて楽しくてたまらない仕事、身体をフルに動かすことの喜び、今まで私の体内でねむっていた活力が、一度にどっと吹き出してしまったのである。このパートで学んだことは、人間何ことを一心不乱になっ行なうのはすばらしいということ。多額な税金をとられたのはくやしいが、この税金のおかげで働くことの喜びを知ったのであった。





時事放談

専業主婦論争

専業主婦は なぜ叩かれるのか

司会 ではまず、みなさん、簡単に自己紹介からお願います。

河野 六歳の子供が一人いる専業主婦です。

平永 子供は四歳と二歳。結婚後は、勤めた経験はありません。専業主婦です。

田中(優) 五歳の男の子の母親です。職業は語学教師です。

米山 子供は八歳と六歳です。四年前に再就職をして、消費者相談員をしています。

大川原 子供は三十五歳、三十三歳、二十八歳です。六十一歳、無職です。

田中(喜) 私は、わいふの編集長ですが、今回は参加者として出席します。

この度、二五五号の「ファミ・ポリティク編集室より」に、まあ私の勝手な思い込みですが、専業主婦の身分について書いた、その反響がすごくてね。

出席者	大川原みち子 (61歳)
	河野道子 (33歳)
	田中優子 (36歳)
	平永早百合 (36歳)
	米山真梨子 (36歳)
編集部	田中喜美子
司会	和田好子

専業主婦がいったい何であるかという問題は、非常に難しいんです。完全に夫と同等である、社会的に認められて然るべきだとおっしゃる方もある。かと思うと「職業」などとおっしゃる方もある。どんな生き方を選んでもそれは自由じゃないか、と言う人もいる。意外に自分はキャリア・ウーマンとしてバリバリやっていたいながらそういうことを言う人もいます。

しかしどの方の意見も一部分だけを把握



平永早百合さん

して実態とは違う定義づけをされている点において、太平洋戦争は「侵略」ではない、という意見と似ているところがあります。

二五六号の「サーブレシーブ」では岩崎智子さんが、(田中の論を)二十回も読んだけど訳がわかんなかった、納得できないとおっしゃっている。だいたい、みなさんの反応はそういうものだったんですが、それを大変簡潔に書いてくださった。

司会 岩崎さんは、侵略戦争にたとえられたことに怒っている。それが主婦論争に発展しちゃったわけです。

田中(喜) 次の二五七号では、イギリスから初里亜夢さんが大変面白い論をくださっ

た。三歳児神話について、専業主婦である母親の手で育てられた子供は、その後の学業成績が著しく優秀なんだという論。

司会 そして二五八号の「ズバリ一言」に、アメリカのナッシュビルからきた投稿が載りました。

田中(喜) これは大変バランスのとれた論だな、という感じがした。

「田中編集長の論理は、戦争中の兵士個人がいかに立派であっても、全体としての戦争が『侵略』であったという事実を否定できないのと同じように、専業主婦一人ひとりがいかに立派であっても、『専業主婦』という社会概念が果たしてきた女性抑圧的な役割については否定できないということだと思えます」と。

私の言いたいのは、ちょっとこれとは違うんですけどね。

司会 結局、専業主婦だって立派な人がいるという話ですよ。

田中(喜) そうなの。そのことを認めない人が多すぎる、という論ですね。

だけれども私の言いたいことは、専業主婦にも立派な人がおり、働く女性にも立派

な人がいる、という論じゃないんです。そんなことは当然だと思うんです。私は単に、定義の問題を言いたかっただけ。

司会 最後に、働く女性の立場からすごい投稿がきた。

専業主婦はなぜ叩かれるのか、っていうんで、なぜ男の賃金が女より高いか。それは主婦を養っているからである。男の賃金の半分はわれわれ働く女性が貰うべきものである、と。(二五八号、三九ページ)

田中(喜) これはすごかったねえ。

司会 この人の投稿には手紙がついてきてね、こんなことを書いたと知れたら友だちみんなから絶交されるんじゃないか、匿名で出してください、って話だった。

不安と後ろめたさと

司会 まあ、論争の経過はそんなところですよ。

田中(喜) 私が言ったのは、定義の問題なんです。

太平洋戦争を侵略戦争じゃない、なんて言ってもらっちゃ困るんです。いくら民衆レベルで友好的だったとしても、正義の戦

争だったと言われちゃ困る。やっぱり全体の定義としては侵略戦争だった。

主婦のことにしても、定義が間違っているために専業主婦でいてもいいんだと思われたら困る。

司会 主婦でいるべきだ、とか。

田中(喜) 子供が三歳までは、いるべき論が強いわけです。

司会 でも全体に、いるべき論はだんだん旗色が悪くなってきて、今は引っ込んできた。十年ぐらい前まではいるべき論がだいぶあったんですね、「わいふ」で。

田中(喜) 国勢調査が実施されるたびに、主婦が働かない人として分類されているのは納得できない、って朝日新聞の「ひととき」欄なんかに出るの。

主婦は働いているんですよ。それは完全に認める。けれども、それが社会的に認められない仕組みになっているのはなぜなのか。そこから考えていかなきゃいけない。河野 最初批判した人は、ただ、主婦と侵略戦争をパージンと結びつけちゃったと思うんですよ。

経済学に合成の誤謬っていう言葉がある



大川原みち子さん

んですけど、例えば、個人が貯蓄に励むのはいいことだけれども、社会全体からみると消費が滞って経済によくないという側面がある。ミクロでみるといいことでもマクロでみると悪い場合がある。

田中編集長は構造的な問題をおっしゃっているのに、そのへんの関連を読む側がわかってないから誤解しちゃったと思うんです。もともとそれをテーマに書かれた文章ではないし、かなり字数も限られているから、こういう誤解を生じて、ある意味では仕方のないことかな、と。

私は、個人レベルで考えれば、専業主婦を自己実現の場として認めてもいいとは

思っているんですね。ただ社会的には、専業主婦は家事だけをやっていて、社会機能からみれば企業戦士の補充物として存在していると思う。

男たちが企業戦士としてどんどん出世ができた高度成長期と違って、今の時代はいつリストラの憂き目に遭うかわからない。女が家庭にしがみついて家事だけやっていればいいという時代ではなくなったと思うんですね。やっぱり、養われているという構造は押さえておかないと。

以前、家事労働を貨幣換算する論がありましたけど、これは意味のない話で、今は男も家事を分担するし、やはり専業主婦の意味は薄れてくると思います。

こういう構造を考えていくと、働いている主婦を攻撃すること自体がナンセンスだし、そうやって他を攻撃するような人には、どうも専業主婦が多い。

平永 私は結婚即仕事を辞めて専業主婦しかやっていないんですけど、すごく自分の立場が不安なんです。これでいいのか、な、って。

取り残されるとか、そういう意味じゃな

くて、夫に養ってもらってることが。ここ

へ来るタクシー代も自分で稼いだお金じゃない。どこか後ろめたさがあるんですよね。主婦の仕事は好きだし、子育ても楽しいし、全然問題はないんだけど、夫の金でパーマをかけていいんだろうかとか、後ろめたさがある。

田中(喜) え、それは珍しいなあ。

平永 たまたま主人は、わりと何でも自分でやる人で、専業主婦の価値をあまり有難がらないんです。気を遣う人間が増えたぶん結婚生活って負担だ、というような人で。

だから主婦論争なんていうと、すごく敏感に反応してしまう。弁解しなくなっちゃうんです。侵略じゃなかったって言いにくくなるような、専業主婦でいることにも意味があるんだ、みたいに。

私は、田中編集長の文章を、パッと感覚的に読んだとき、反感も持たなかったし、そうだなア、そう思われるのも無理ないよなアと思いました。自分は何のために生まれてきたのか、もっと立場をハッキリさせたい、何かをつかみたくて今日は出席しま

した。混乱している状態です。

家族の自立を奪うのが 主婦の仕事

田中(憂) 私は二五五号の田中編集長の文章を読んだときに、今までの言いたいこと、どんなふうに説明したらいいのか悩んでいたことが、これだっ!とわかって、感激して読んだ人間の一人です。

主婦の定義を考えたら本当にその通りじゃないか。スッキリしました。胸がスーッとして、ああよかったと思ったんですね。ところが、すごい反論があって、正直言って驚いちゃった。こんなにわかりやすく書いてあるのに、わからない人がいるんだな、と。

反論に、専業主婦叩きの思想だとありましたが、そこが論点じゃないのに、そんなふうにとらえてしまうのが専業主婦かな、と思うたり。論点がわからずに反論しているんじゃないか。視野が狭くて、感情的だし、一步深いところでのとらえ方ができていないんじゃないか、と。

司会 でもまあ、そういうこと言ってんだ

から、カチンとくるのは当たり前だと思っ
んですよ。

田中(憂) 主婦をやりたい人は主婦業を選
べて、働きたい人は働いて、男女の区別に
関わらず自由を選べるのが一番いい世の中
だと思います。

だけでも、働きたくても働ける状況にな
い女性たちや、妻子のために仕事をしな
きゃいけない男性たちとか、その不平等と
いうかアンバランスについてはどう思っ
ているのか、専業主婦でいいじゃないかと
言っている方たちに、私は聞いてみたい。
すごく納得できない部分があるんです。

労働の欲求も、男女の別なく本来人間に
備わっているものだと思うんですが、女
のにとか、子供がいるのになんで働くの、
とか言われることが多い。自然の欲求で、
私が好きで選んでいるのになんでそこまで
言われなくちゃいけないの、っていう気持
ちがあります。

あと一つ、大事なことは、夫の稼いでき
たお金を自分のものだと思えるかどうか。
そこが分かれ道だと思うんですよ。

家事やって育児やって、こんなに大変な

仕事をしているんだから、当然給料の半分は私のものだと思えるって、友達が言うんですが、私はとても思えない。思えないからイヤなんです。割り切れないところがある。やっぱり自分のことは自分の稼いだお金でやりたいんです。

もちろん夫にもよるでしょうけど、例えば、これは君の分だよってやさしく言ってくれる連れ合いをもっている友達もいます、私はそうは思えない。私の夫も、「これは君の分だよ」なんて、思っていないと思う。(笑)

彼は、立派に教育を受けて、普通に働ける人間の分まで自分で自分が稼いでやらなきゃいけないんだと思うだろうし、私が男で養う立場だったらそうだと思います。冗談じゃないよな、って。

経済力は、人間としての立場が対等かどうかを決める大きな要素だと思います。経済力がなくても精神的に自立しているという方たちがいますけど、経済力は総合的な自立の大きな柱だから、それがなかったら、社会的にも全然認められない。

最近働き始めた友達が、マンションを買

い替えるときに名義に自分の名前を入れてほしいと言ったら、去年まで仕事をしていないから権利がありません、ってバツと切られた。社会的能力ゼロと言われて、彼女は大ショックを受けてました。社会的に認められているかどうかは、自立の大きなポイントだと思うんですよ。

それから、これは極端ですけど、専業主婦というのは、夫や子供の生活を助けるのが仕事ですから、ある意味では家族の自立を奪っているんじゃないか、と。

司会 いわば、サービス業。

田中(優) 本来人間が自分でやらなきゃいけないこと、生活の自立を奪うのが仕事じゃないかなと思っています。サービス業といえは聞こえはいいけど。

大川原 ある教授が、主婦は性奴隷だと言いましたね。セクシャルワーカーという言葉い方もできますけど、まさにその通りだと思います。

家事がどんどん社会化されて、コンビニでお弁当も自由に見えるし、洗濯もクリーニングに出せばいいし、自分ですることになったら掃除ぐらいなものです。そうす

ると後に残るのはセックスのサービスだけです。私はそれが嫌で離婚したぐらいです。

もちろん好きな相手とだったらいいけど、愛も何もなくなっちゃった相手と、奴隷的にセックスの相手までしなきゃならないっていうのは、まさに地獄ですね。従軍慰安婦じゃなくて家庭の中の慰安婦です。

やっぱり女性性は性を植民地化されてますよ。性を侵略されている。その点で、私は侵略と専業主婦はピッタリ一致すると思います。

田中(喜) ウーン、なるほど。私が書いたときは、そのことは全然頭になかったけどなあ……。

主婦を労働力として認めることは不可能

司会 要するに、夫婦の仲がよくてダンナの愛情があるうちはいいけど、愛情がなくなると大変なことになる。

離婚のケースを調べたときに思ったんだけど、夫婦仲が悪くなるとダンナは奥さん



田中優子さん

に給料を任せなくなりますよ。だから専業主婦でやっていこうという人は、夫と仲よくないかどうかにもこうにもならない。離婚も難しいです。お金がないから。
大川原 絶対ヘソクリ持たなきゃ駄目です。

司会 米山さん、どうぞ。

米山 私の言いたいことはだいたい言っていたただけかな、という感があります。

私はそんなに深読みしなかったですから、サラッと読んで、相槌を打って終わっただけですね。で、今回、主婦論争というテーマを見たときに、「エッ！ 今ごろ？」って感じ。

田中(喜) そうなんだよねえ。

米山 専業主婦って、いつも危うさを感じているから、ちょっとした刺激でワァーッと反応しちゃうんだと思うんです。

私自身、五年前まで専業主婦だったからよくわかる。その当時、田中さんの「講座・主婦」を読んだりして、私のこの居心地の悪さ、安住の地じゃないと感じる気持ちにはちゃんと裏付けがあるんだと、理論的にもわりと納得したんです。

で、私の主婦論は、男も女もない、お互いを認めあってやりたいことが自由に選べるのが理想である、と。

今、仕事は非常勤なので、収入は夫の三分の一から四分の一しかありません。でも、結婚前の会社を辞めていなければ、夫の年収とはとんどこわらなかった自信があるんです。惜しかったと思ったときは、もう子供を生んだころだった。

だから、もっとこういう勉強を、高校時代ぐらいから女がキチッと身に付けていれば……。

全員 うん、うん。(深く頷く)

米山 いまさら議論をふっかけようとは思

わないけど、子供のために家にいるって、いったいいつまでなのよ、って。待ってたらキリないよ、子供はどんどん自立させてあげようよ、って。

私の場合は、主婦論争というよりも、人間の生き方のところで、もうちょっと何かやったらいいのにな、とも思ってる。

田中(喜) みなさん、それぞれ言いたいことを全部言ってくださって、私の出る幕なんてほとんどないんだけど、「わいふ」を始めて三、四年間、主婦って何だろうって、そればかり考えてたことがあるんですよ。とっても難しいの、主婦の構造って。

みんながひっかかるのは、主婦は家庭の中で実際に働いているのに認められない、ってことなのよ。それが今、みなさんの話を聞いていて痛感したが、働いているってことが崩れつつある。

一つは、夫が家事をし始めた。それでますます、主婦の存在価値がなくなってきたな、ということ。でも、それはさておき、老人介護とか、ちっちゃい子供が三人いるとか、大変なことは大変なんですよ。これが何で認められないかというのが、主婦



米山眞梨子さん

の怒りのもとでもあるし、私なんかもしこった問題だった。

あのね、社会は主婦を、労働をしているからといっても絶対認めないの。絶対！何で認めないかと言うと、主婦というものは、家庭の中で労働しているだけの人間じゃない。「妻」なんです。働いている男の配偶者なわけ。

この配偶者は「被扶養者」だから、社会が、つまり会社が夫に手当てをくれる。オマエさんは、首っ玉にそんな石ころ結び付けているから、その分重いだらうから、というので扶養手当てをくれる。お気の毒さまのお金なの。妻が寝たきりであろうと、全然家事をしない妻であらうと、平等にくれる。働きに対してではなく、「被扶養者」という身分に対してくれる。税金もそうです。

家庭で働いているからといって社会（会社）から、主婦にお金がかかるかといったら絶対にこない。

それは、学者がいろいろ細かくつめているんだけど、つめてつめてつめれば、やっぱり主婦を労働力として認めることは不可能なの。独身者の家事はどうなのかとか、いろんな問題が出てくる。そうすると、論が成り立たなくなっちゃう。

だから、主婦に社会（会社）が少しお金を払っているように見えるのは、被扶養者のためのお金なんですよ。これを一つ、わかってほしい。

板子一枚下は地獄

それと、もう一つ気がついたことは、主婦は自由に活動できて地域を支えてるとか、環境保護のために活躍してるとか言われているでしょ。でも三、四十年前に社会運動をモーレツにやってらした方たちは、

夫が大会社の社長、副社長クラスで金持ちの奥さんなの。

おしゃもじ持って、割烹着なんか着て行進しているから生活が苦しい人かと思ったら、そうじゃない。ああいうふうにはフルに社会運動ができるのは、お手伝いさんがいて自由に活動しても家の中が全然困らない人たちの。あるときそれがわかって、そうか、そういう身分の人でないと、「運動」はできないんだなと思った。

結局、主婦の活動は夫の収入と人柄にかかっている。要するに、活動が成り立つかどうかは、すべて夫次第。自由に選べる立場なんて、ないです。

私、つねづね怒っているんだけど、新聞記者なんかで一生キャリアウーマンでお働きになった方がね、講座などで「あなたたちは自由なんですよ。自由に選べるんですよ」ってよくおっしゃるの、主婦に対して。アレ、すごい間違いだと思う。

主婦は駄目ですよ、なんて言ったら総スカン食うからと思っていらいっしゃるのかも知れないけど、私に言わせりゃ、主婦でいたら駄目。危険なんです。

私は長年主婦だし、今でも「わいふ」が食えないから、主婦に片足かけて夫に養ってもらってる部分がある。私の生活というのは夫の金がなかったらできないんですよ。なのになんで私が勝手放題できるかといったら、家付き娘だから大きな顔をしてのさばっていられるってことがある。

妻の生活はほとんど夫との経済的な力関係の上に立っているのね、「自由に選べるんですよ」もないもんだと思うの。

結局、最後の最後まで、ラッキョウじゃないけど皮を剥いていくと、主婦の身分というのは夫に養われている人間だということ。直接、社会とつながっていない人間は非常に弱いもんだということ。そして、社会は絶対に主婦の労働を直接には認めないということ。

一番最後はすごい情けない話になっちゃうんだけど、夫婦は、妻に経済力がないときは決して平等じゃない。すべては夫の能力と人柄次第。板子一枚下は地獄。

でも、それを意識しないですむくらい、今の女性は自由に楽しくやっている。

そういう現実が一方にあるから、これは

手放したくないとみなさんが思うのも、実によくわかる。それはもう、手放したくないですよ。楽だし、夫は寛大だし、お金はあるし。かなり自由に使えるし。

世界の他の国でこんなに主婦が楽しめている国、ないですよ。

だけれども、この構造がいつまでも変わらないのは、一方に、世界にも稀な日本の男たちの非人間的な過重労働があるからなの。男と同じ、あのメチャクチャな長時間労働をしろって言われたら、女はみんな家庭に引っ込んでしまう。これが変わらない限り、日本の男も女も救われなと思う。

私の目に映っている現実というのは、昔



河野道子さん

の白楽天の時代と同じで、「女ほど哀れなものはない。百年の禍福他人による」ってね。要するに、夫次第。平等だ、自由だとみんな言ってるけど、夫という条件のもとで、その範囲内で自由に生きているような気がしてるだけです。

それを意識しないで、この身分がいいんだなんて言ったら、こんな危険な話はない。それを、女のインテリが「何やっても自由ですよ。あなたたちのほうが働いている女よりもいいですよ」なんて、言ってる女いないんだなあ。

「専業主婦叩き」なんて言う人がいるけれど、私にはそんなつもり全くないんですよ。ただ、自分がどんな立場で生きているか、きちんと押さえていけばいいと思うの。

身分制度によく似た構造

司会　だいが、言いたい放題言ってますが（笑）、これじゃあ、あんまり専業主婦も立場がない。

専業主婦擁護になるかどうかわからない

けど、私が無理もないと思っている点を話してみたいと思うんですが。

田中(喜)さんが主婦とは何ぞやとさかんに考えていた時期に、私が「主婦ってのは身分だよ」と言ったことがあるんですよ。構造自体、封建時代の身分制度と非常によく似ている。なぜなら、女であるゆえに、結婚した女は全部主婦になってしまう。その人の能力によらず、生まれながらの性別だけで位置付けられる。

大川原さんの「奴隷」というのも、その一つの表現だと思うけれども、主婦って一つの身分なんです。

「わいふ」がまだ宝塚にあったころ、妻の価値という論争があった。ある時Mさんという人がダンナと喧嘩して、「お前なんかラクでいいよな。オレなんか外へ出てこんなに苦しい思いをして働いているのに、お前なんかオレの寄生虫だよな」と、夫が言った。彼女はすっごく悔しくてね、それを書いてきた。

それに対して私が反論したんですが、松田道雄(当時の会員)さんが特別に投稿を寄せてくれてね、専業主婦は夫の収入に価

値を付加する人である、と論じた。昭和四十年代初めのころですが、当時これは間違いとはいえなかったと思う。

なぜなら、今ほど家事労働が社会化されていないんですよ。例えば、洋服をクリーニングにやたら出したら家計は破産しちゃう。それから、ケーキってものがえらい高かった。そんなもの普通のサラリーマンじゃ買えないので、家で奥さんがケーキを作ることに意味があった。

フランス料理なんて高くて食べに行けたもんじゃない。そこで、家庭でフランス料理を作ることも奨励されたし、洋服はそろそろ既製服が出てきましたが、まだまだ不十分だった。主婦はミシンで子供の服を縫い、自分のを縫いして、外出着だけ注文した。夫の収入をそうして増やせたんです。昔の主婦がなんであんなに忙しかったかという、家事労働が激しかったからですよ。三十年代以前は洗濯機がないしね、昔は太ってる女なんかいなかった。

つまり、専業主婦の労働に価値がある時代がついにこの間まであったのに、男たちが家事をみんな社会に持ち出してしまった。

職業化してしまっ、経済の規模を大きくして、自分たちは猛烈に忙しくなって主婦は暇になった。この構造ですよ。

当時の主婦は、生まれ変わった男になりたいという人が圧倒的多数だった。今は逆でしょ、女がいい、って。楽だから。

個人的な問題としてとらえると、主婦問題は解決不可能なんです。専業主婦が悪い、悪いと言うのも気の毒な話で、身分制で放り込まれて、こういうふうな位置付けられていた。今はだいぶん旗色が悪くなっているけれど、まだ名残があるわけです。

田中(喜) 私、どうしても家にいたければ、専業主婦でいたっていいと思うんですよ。無理やり働けとは言わない。平永さんみたいに、わかってればいい。それを、主婦はいい身分なんだとか、働いている女は可哀相だ、子供をほったらかしにして何してるんだ、働いている女の子供は成績が悪いとか、そういうかたちで働く主婦の足を引っ張るのはよくないと思うのね。

まとめ・宮前和
(次回の時事放談のお知らせは、
一四八ページをくらってください)



「私たちのゴミ問題に わたしもひとりで」

川崎市多摩区 ● 岡田美幸

ドイツの国会で、製造者のリサイクル義務が立法化されたのは五、六年前だったでしょうか。日本にあるドイツ製自動車工場でも、本国と同じレベルのリサイクル対応施設にしたという記事を読んだのが二、三年前

だったでしょうか。とにかくすべての部品（パーツ）がリサイクルされるということで感動したものです。これが国際法に採り入れられて、世界一の輸出国の日本が世界中に輸出してしまった自動車や電化製品を引き取るということになったら、日本はゴミの山です。

日本では消費者の立場のゴミ処理しか話題になりません。なんでもゴミは厚生省の管轄だとかで、通産省の管轄の製造者サイドについては、製造者の利益につながらないからなのか、まったく論議されません。

いつか掃除機、電気釜を捨てるときにゴミにすることに對する呵責を感じたものですが、そろそろ冷蔵庫、オーブントースター、ラジカセ、ステレオなどゴミになる日も近くと控えています。

最近などは七年使っただけの



ウォッシュレットが故障して二度修理し、合計四万円弱の費用を払いましたがそろそろ寿命だといわれました。修理するよりも新しく買ったほうが安いのです。新しいのを買えば今まで使っていたこの便座はゴミになるのだそうです。まったくなにもリサイクルされません。ただ新しいのを買えばひきとってくれるそうです。ひきとってはくてもゴミに出すだけだそうです。

ミシン、ファクシミリの修理の時もそうでした。部分的には使われるといわれましたが、リサイクルするシステムがないようです。もし修理代が安ければゴミはかなり減るでしょう。

一億人の人口と仮定し、一世帯当たりの人数を二人とし、五千万世帯が電化製品あるいは自動車を生産するのサイクルで買い換えるとするならば、毎年五百万

もの各電化製品、自動車がゴミとなっています。どのように処理されているのかわかりませんが埋め立てるにしても大変な量です。日本の国会では製造者のエゴだけがまかり通っているのです。住専問題も然りとしたならば言い過ぎでしょうか。

消費者として努力するには限界があります。

川崎では学校給食の牛乳は二〇〇CCの紙パックが使われています。二〇〇CCの紙パックは一リットルの紙パックと違ってリサイクルできません。このあいだ「市長への手紙」という書式が区役所にあるのですが、それを使って、「ゴミの問題もあるしこどももゴミ問題を学習していることですし、ぜひ教育的な立場からも牛乳びんを使うことを検討してほしい」と市長宛てに手紙を書きましたら、忘れたところに広報部広聴相談課と

いうところから返事がありました。学校給食の牛乳パックは牛乳工場の燃料として使っているからいいのだということが書いてありました。牛乳製造者が紙パックを回収しているなどというのは学校でも確認できませんでした（ウソに違いありません）。東京でも長野県でも給食ではビン牛乳を使うということが実践できているのに、川崎ではできないということです。

キヤノンのコピー機だったか、プリンターのトナー交換の時に、これは有毒物質が含まれるからなるべく処分するようにという注意書きがありましたので、キヤノンに「毒物だからといってゴミに出しても他のゴミと一緒にしてしまうし、有毒物質とわかっていてゴミの処理場に放置させるわけにいけないので引き取ってほしい」と交渉したことがあります。しばらくはキヤ

ノンゼロワンショップに持ち込んで処分してもらっていました。が、その都度電話で同じ問答を繰り返しておりましたら、昨年になってリサイクルをするシステムができたので、埼玉県のかくかくしかじかに着払いで送ってよいといわれました。わたしの問い合わせだけでこうなったとは思いますが、消費者レベルでどうしようもないことについては、製造者や販売者にその都度食いつがる必要があるのではないだろうかと考えます。これも消費する者の責任かもしれません。

ゴミ問題は利便性を追求してきた結果起こったことです。なんとか消費者もそして生産者も、ともに価値観を変えていかなければ解決できない問題だと思ふのです。

日本の国会でただちにドイツと同じ法律を作ることには期待で

きそうもありませんが、日本の国会にも消費者の代表がもっともっと出て、ゴミのこととか、どもに関わる環境のこととか、話されてもいいのではないかと思います。

住専問題に思う

横浜磯子区●十文字圭子(33歳)

十年前、就職した時には「住専に入った」と言っても、誰も住専を知らなかった。

「金融機関よ」

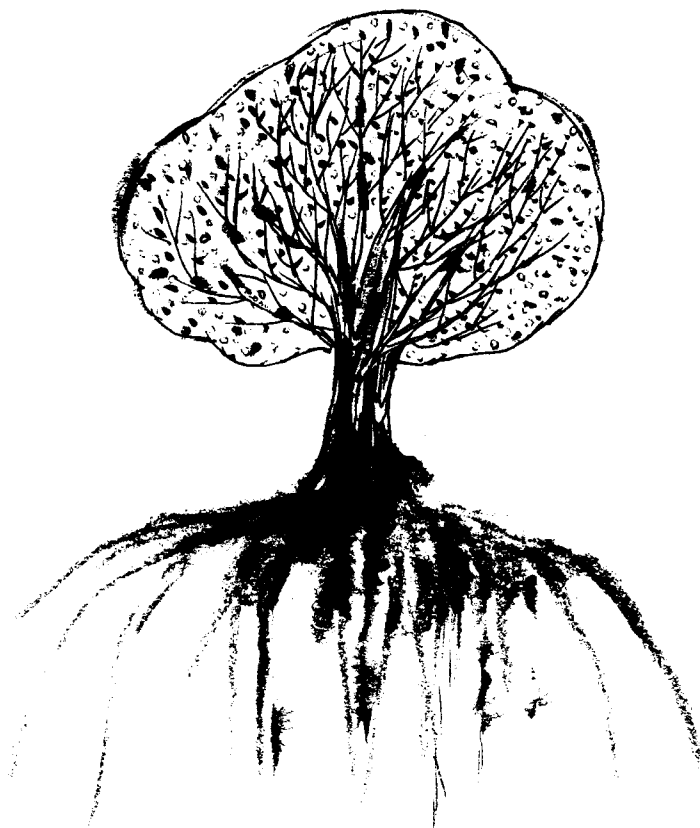
「銀行？」

「じゃなくて、ノンバンク」

「ひょっとして、サラ金？」

「違うワヨ！」

こんなやり取りの末、結局相手は何だか分からん、といった



ような表情で、

「でも、ともかく就職決まってヨカッタネ」

と言って会話はおしまいになるのが常だった。

「男女雇用機会均等法」が施行されたものの、四大卒女子の就職はまだまだ厳しく、「大蔵省直轄の金融機関」にコネなしで決まった、それだけでほっとしたものだっただ。

総合住金。住専七社のひとつである。私がいたのは昭和六十年から平成三年の本店審査部。まさに現在問題となっている融資を決定したその張本人の審査部である。

「なんで、国民の税金をそんなことに使わなきゃならないのよ。絶対許せないワ！」という声はこもつともなれど、なぜか一緒になつては熱くなれない。

「片棒を担いでしまった」という後ろめたさと、「何がいけな

かったのか」分らないばかりか、あの当時渦中において、「ホンの少しの罪悪感」もなかったからだ。

ご存じの方も多いと思うが、住専とはその名の通り、個人の住宅ローンを銀行があまり行なわない当時（昭和四十年代末）、その銀行によって作られた。

つまり、信用のある取引先ならいざ知らず、全くの個人に長期でローンを組むという危険を避けるため、別会社を作ったのだ。ところがその後、金融の自由化と共にローンも一般的になる。当然住専はその時点で、方向転換を迫られた。

一般顧客から預金という手段によって資金を集めることが不可能な住専（ここが、あくまで民間企業という、大蔵省の逃げの姿勢の根拠）は、他の母体行や農林系金融機関から調達する

ため、当然金利が高い。その高い金利でもいい、と言ってくれたのは、そのころ勢いづいてきていた不動産関係の会社である。

私が入社した時は、既にそういう時代に入っていた。

しかし、母体行との繋がりはまだまだ深く、出向者も多い。たし、母体行からの紹介案件という断りづらい（決して質のよい借手ではない）ものも多かった。そのくせ資金の調達からは徐々に手を引きたかったらしく、母体行よりもいわゆる農林系金融機関からの借入のほうが多くなっていた。

どこかの特別番組で、「だいたい住専の審査は経験の浅い二十代の社員で、おまけにひどくズサン」と言っていたが、それには一言申し上げたい。

銀行のそれがどうか知らないが、プロパーの社員は確かに

若い人もいた。が、それは会社自体がそれほど古くないのだから仕方ないとして、それよりも私が当時気になったのは、実に多くの母体行出向者が、入れ代わり立ち代わり短期間審査部に在籍し、勉強と称して審査をしていたことだ。

そういう方々は、五十代のクセのある（たいていは態度のデカイ）オジサンが多く、どう見ても窓際になるところを体よく出された、というふうだった。

確かに経験はあったと思う。しかし、ほんの二年くらいいて、元の銀行に帰ってしまうのである。たとえ住専に（帰れなくて？）残ったとしても、数年で定年である。そんな人達のほうが、若いプロパーの社員よりも慎重に審査していたかどうか、一概には言えないと思う。

これらのことは、どこの住専でも似たり寄ったりだったのだろ



う。いずれにしても母体行の責任は免れがたい。

また、住専自体の意識の問題も確かにあった。

入社当初、本店審査の対象は五千万円以上であったが、二年前くらい経ったところからだろうか、あれよあれよという間にそ

れは一億、三億と引き上げられていった。感覚が麻痺してしまふほど、多額の融資がいつも簡単にこなわれてしまふ。

初めは多様だった融資先も、徐々に特定の企業が頻繁に登場するようになったし、私のような末端社員にさえ、「このまま

いったら先細りになるのではないだろうか」という漠然とした不安を抱かせた。

審査部で「？」という見解を持って会議に臨んでも、担当者や支店長が上京してきたの持ち回り決裁（大口融資は普通審査会といって、審査部と主な役員

とで会議の末に可否を決定するが、それを各役員の所へ足を運んで個別に承諾を取り付けること）の末、あつという間に実行してしまふ。

また、そのころは住専の上場も間近いと言われ、大層な業務目標を掲げて、本社は支店に

はっぱを掛け続けていた。持ち

株会も発足し、新卒採用も今までより多くなり、まだまだ制度だけではあったが、女子の総合職も制定されて、会社全体が活気づいてもいた。

それにバブル全盛の時だ。渦中にいると何も見えなくなる。あの時、「赤信号、みんなで渡れば怖くない」住専八社はどこもそんな状況だった。

そして、大蔵省は経営指導をしていない、と言っているが、厳としてその影響下にあった、という事実。

住専のトップはほとんどが大蔵省出身者である。つまりは天降り。ウチもそうであったが、専務、常務もそうである場合が多い。そして、母体行出身の役員と対立した場合、たいていは「親方日の丸」が勝つのだ。可愛がってくれた常務は、「ここは大蔵省の最先機関になった」

と言って辞めていった。

バブル末期の平成二年に入るところからは、明らかに融資先が減っていき、有名になった末野興産などに毎週のように億単位の融資が行なわれていた。そのころにも確か大蔵省にはきちんと経営状態の報告に行っていたと思う。「大口融資先リスト」なども実際に作った記憶があるからだ。

私が会社を辞めた理由の第一は、仕事がなくなったことだ。

始めは雑用、男性の補助的業務でも、いずれ審査に携わることも出来るかもしれないという希望があったればこそ、耐えてきた一般事務だった。研修だけは男性社員と同じに受けさせられていたので、淡い期待を抱いたのだ。

しかし五年が過ぎて、自分でも少し審査の勉強をし出した途端バブルがはじけ、審査部自体

の存亡が危うくなってきた。

貸出先の経営は悪化の一途を辿り、貸すことより返してもらえるかどうか、回収に力を入れざるを得ない状況となったからだ。

私は会社を辞めた。その前後から、男性の先輩達もひとりふたりと、辞めだした。三百五十人の社員は今ではかなり減ったようだ。

けれど、家族を抱えまたは経理のプロを目指しキャリアを積むために、辞める時期を逸した人もいる。住専は処理される。社員はどうなるのだろうか。

こんな時、いつでも末端が痛い目を見る。ツケを廻される国民。そして、この不景気に「片棒を担いだ」と白い目で見られ、後ろめたさを感じながら、再就職も難しい元住専社員達。

何でこんなことになったのか。一体、誰が悪いのか。国会

中継を見ながら、ムカムカと腹が立ってきた。

「テレクラで金に られる女子高生」

東京都文京区●堂本暁子

テレクラについて、私はほとんど知らなかった。最近、ポストに投げ込まれるチラシを紙屑かごに捨てる枚数がふえたという程度の認識である。

二月三日に婦選会館で全国フェミニスト議員連盟主催の「リメンバー・北京（北京を忘れまい）!! 女性議員と読む『行動綱領』」が開かれ、出席した参議院議員の私はここで、ただならぬ話を聞いた。

「今や、中学生だけではなく小学生にまでテレクラが広がって

いるそうよ」と新宿区の区議さん。

「それは本当なの」と思わず私は聞いた。

「女の子三人くらいがグループになってテレクラに電話をかけ、待ち合わせの場所にやってきたおじさんたちを、蔭から観察して品定めをするんですってよ」

「岐阜県に条例ができたら、テレクラ業者が愛知県に移動し始めたんですって。やくざが多いみたい」などなど。テレクラの話でもちきりである。

私は信じられなかった。まだ年端のいかない十二、三歳の女の子たちが、自分の父親と同じ年ごろの男性を相手にデートや売春をして、お小遣いを稼いでいるとは。その日、私は会合に集まった女性議員に提案した。

「市町村議会や都道府県議会で、そして国会で、一斉にテレ

クラについて質問したらどうでしょう」と。

「やりましょう。やりましょう」何人かの議員さんが賛成した。

調べてみて、さらに驚く。テレクラの業者数の増加に比例して、少女のテレクラなどでの被害者の数が増加している。

さらに、日本PTA全国協議会の調査によると、中学二、三年生の女子生徒の二七パーセントがテレクラ経験者だった。四人に一人がダイヤルを回しているということである。中学二、三年生の女子生徒数は全国でおおよそ百五十万人。単純に計算すると四十万人がテレクラをしていることになる。

このことを文部大臣に聞いたのだそうと、二月二十二日、文教委員会に質問に立った。

私「大臣に伺いたいのですが、テレクラはご存知でしたか」



奥田幹生文部大臣「言葉を聞いたことはありますが、中味についてではちょっと、誠に勉強不足ですみません」

照れくさそうに大臣は答えた。

私「警視庁の調査によると、売春の代金は、孫ギャルと呼ばれる中学生の場合には五万から八万、子ギャルと言われる女子高校生は四万から五万、そしてギャルという大学生は三万円、主婦になると二万円というのが相場だそうです。

足利警察署が集めた女子高生生の川柳がありますが、ギャルたちの気持が大変よく表われています。

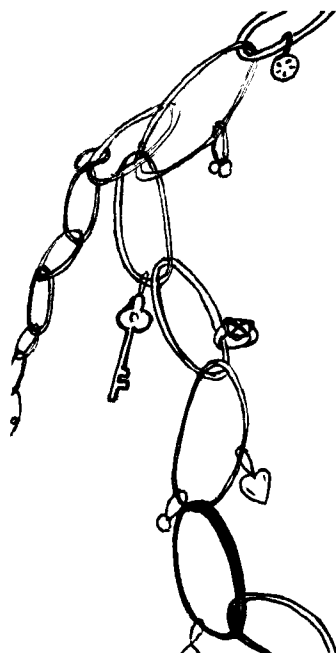
『テレクラで 金につられる女子高生』

『テレクラも 慣れてしまえば大金持ち』

いま、学校でのいじめの主流は、かつあげだそうです。男の

子の場合にはひったくりをしとか、家から金をもってこい、ということになります。女の子にはテレクラしてこいということとです」

害者で、未成年の少女が被害者だということ。男は経済力をもっており、お金が欲しい子どもたちの弱みにつけ込んでいます。



質問しながら大臣の顔を見ると、大臣は聞くに耐えないのか、悲痛な表情である。

私「文部大臣にくれぐれもお願いしたいのは、女性を商品化、女を人間ではなくモノ扱いしないでほしいということです。テレクラの特徴は、大人の男が加

『テレクラは お金と体の 交換』

『テレクラで 遊ぶつもりが 遊ばれて』

『テレクラで 出た相手びっくり お父さん』

委員会室がざわめいた。暗い笑いが委員たちの口からもれ

た。

奥田幹生文部大臣「大事なかわいい少女が人権を無視されて、単なる商品化されておるということは、これは絶対にあってはならんことでありますし、ましてや文部省としては、そういうことは一切看過することはできないと思います。ただ調査だけに終わらせない、実行に移すということも、お約束したいと思っています」

文部省は前日までテレクラは、個人の問題、家庭の問題で、学校には関係がないと言っていたので、大臣がはつきりと、「約束する」と答弁したのには驚いた。それは大臣自らの言葉であつたにちがいない。

テレクラは、ポケットベルや携帯電話の普及につれてふえてきた。地方でもテレクラが盛んだという。辛い話である。

(え・鳥居護子)

おすすめの一冊

付き添って

明日はわが身の老人介護

生井久美子 著

地獄を見た。

この本の第一章、「老人介護の24時間」を読んだ人は、誰でもそう思うのではないだろうか。

介護される老人も悲惨なら、介護する付き添いさんも悲惨。老人はベッドや車椅子に縛られ、食事はごはんとおかずを一緒くたに混ぜて口に突っ込まれる。おむつ替えは衆人環視のなか。

老人が人間扱いされていない病院では、付き添う人も人間扱いされていません。付き添いさんは病人のベッドの下に段ボールとふとんを敷いて、枕許をゴキブリの這うなかで寝る。

九四年六月から朝日新聞家庭欄に掲載された筆者のルポを読んだ方も多いこと

東京都新宿区 田中喜美子

でしょう。しかしこうして一冊になったものを読んでみると、日本の政治と社会の貧しさが、老人介護という現実に凝縮されて、すさまじい力で迫ってきます。

その現実を、ますます貧しいものにしてようとしている厚生省の姿勢。

第二章から第三章にかけては、厚生省が九四年十月から実施にふみきった、「基準介護」の病院からの付き添い制度廃止の非人間性が描かれています。

そうでなくとも人手不足の病院の現場から付き添いさんが追い払われた結果、家族は過労死寸前、手のかかる病人は追いつけられず、たらい回しにされたり。

厚生省は口先ではきれいなことを述べていますが、目的は言わずと知れた、医療

保険からの付き添い費用削減のため。

第四章では、スウェーデン、ドイツ、デンマークなどの福祉「先進国」での高齢者介護の現実を追っていますが、日本との差には驚くばかり。

世界一の金持ち国と言われている日本のこの貧しさ。私たち女はとくに、老後の不安におびえながら暮らしています。

いったいこの差はどこから来るのか。どんな本よりも具体的に生々しく、日本の政治の貧しさを伝えてくれるこの作品を、すべての女性に読んでほしい、と思います。



朝日新聞社 一五〇〇円

アメリカ家族留学記

アメリカ・ミシガン州 平尾 桂子

「この家を買うとき、すごく迷ったの。敷地が広いし、ショッピングセンターも近くて便利なんだけど、場所がぎりぎりのところでM学区に入っているの。すぐ隣のP学区だったら最高なんだけど」

そう話すのはフラン。一昨年インディアナ州ノートルダム郊外に家を買って市内から引っ越してきた。彼女はインディアナ大学で教鞭をとるワーキング・マザーで、銀行員のジョンとの間に十二歳と八歳の子供がいる。

彼女が「広い」と言う土地の広さは、なんと一万二千坪。「あそこまでがウチの敷地」と指さすはるか彼方に隣の豪邸が見える。ときどき野生の雁が遊びにくるバックヤードは「庭」というよりはまるで「公

園」だ。「ウサギ小屋」の国から来た私にしてみれば溜息しかでてこない。

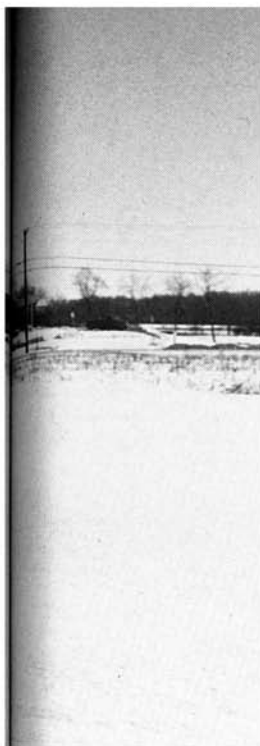
周りの家のオーナーはほとんどが医師か弁護士。社会階層からいえば「アッパー・ミドル(中の上)」の人たちだ。

フランとジョンにしてみれば、本当はP学区に家を買いたかったのだが、予算と土地の広さを考えると、ここらへんが共働きでがんばってどうにか手が届くぎりぎりのところだったらしい。コミュニティの「格」やら便利さを考えれば、ボーダーライン上でM学区内にあるということ差し引いても、まあまあ満足できる買い物だったようだ。

フランたちが「学区」にこだわるにはそれなりの理由がある。

学区のレベルを決めるのは何か――

「P学区だったら不動産の評価がいいから、売るときには絶対に二〇パーセントは高く売れるんだけど、





居間から見たフランの家の前庭。向かいの小さな教会までが彼女の家の敷地

M学区だとそういう売却益はあまり期待できないの」
だから、土地の広さをとるか、学区のブランドをとるかですごく迷ったという。結果として、M学区で落ちついたわけなのだが、希望的観測としてこんなことを言っていた。

「これだけの広さの家を買い求める人は子供を私立にやるだろうから、レベルが低いM学区内にあるということとはあまりこだわらないかもしれない。そう期待してココに決めたの」

要するに、「学区のレベル」は不動産の評価を左右すると同時に、地域の不動産価格に左右される。

世の中なにごと不均一といって、アメリカの公立学校のレベルほど不均一なものはない。州によって異なる「アメリカの教育制度」を一言で言うところ、「一言では言えない」としか言いようがない。それほどばらつきが大きい。

そもそも日本の文部省に相当する連邦レベルの機関がないから、全国共通カリキュラムも指導要綱も存在しない。学校運営の決定権は校長先生に、教科の指導方針の決定権は個々の先生にあり、それを学校区ごとの教育委員会が監督する。

そのうえ、公立学校の運営資金は、教師の給料から設備費まで、その地域の固定資産税を主な財源として独立採算性がとられている。もちろん州や連邦からの

補助金もあるけれど、それは微々たるもので、大部分が貧困地域への補助に回される。つまり、お金持ちが住むお屋敷街の公立学校と、貧困層が住むスラム地域の公立学校では、同じ公立といっても財政状況がまるで違うことになる。

学区の財政状況が違うというのはどういうことか。教師の資質から学校の設備、カリキュラムの充実度など、それらすべてを含めた「教育の質」がまったく異なるということだ。

「よい学区」では教師に高い給料が払えるから有能な人材を集められるし、コンピュータや図書などの教材もふんだんに買える。すばらしい英才教育プログラムや進歩的な障害児教育ができるのも潤沢な資金があつてのことだ。

ついでに言うと、「よい学区」の学校には教育熱心な親が多いから、ボランティアのなり手にも事欠かない。クラスマザーとして母親が先生の助手を無償でつとめたり、遠足の引率もペアレントヘルパーが手伝ったりする。これらもすべて「教育の質」の大切な構成要素である。

その逆に、「悪い学区」では給料が安いから教師の離職率も高く、校舎はぼろぼろ。それだけならまだしも、クビになった教師が校長をうらんで殺傷沙汰になったとか、教室内で銃を乱射したとか、先生を殺そ

うとして十二歳の子供がピストルを学校に持ち込んでいたとか、そういう恐ろしいことが起こったりする。「学校が荒れる」といっても、こちらの荒れ方はスケールが違ふ。

フランの住むM学区が地盤沈下を起こしたのも、ここ十年間、お金持ちが雪崩をうって郊外に引っ越したからだ。あとに残ったのは、ペンキがはげた家とペン草が生えた庭。不動産価格は下がる一方だ。

ちなみに、一軒家に住む中産階級のアメリカ人は、家の維持管理に並々ならぬ熱意を傾ける。「芝刈り」「雪かき」「落ち葉かき」そして「家のペンキ塗り」。これらに嗜癖しへき的ともいえる労力を費やすのは、まかり間違っても自分の家の不動産価値を下げてはならないと思っているからだ。

家の美観はコミュニティの美観に、それは回り回って自分の子供が受ける「教育の質」と「命の値段」に深く関わってくる。だから、自分の住むコミュニティのレベルの維持にもすごく気を使う。固定資産税の税率を高く設定して、貧困層を排除するのもその手段の一つである。

私たちも麻里恵が小学校に上がるとき、学校をどこにするかで大いに迷わされた。友人のアドバイスに従い、校長先生に面会したりオープンハウス（見学会）に参加したり、子供を通わせている親に意見を求めた



ノートルダムで麻里恵が通った学校の授業風景。ゲームをしながら足し算を教えている

りした。そこから分かってきたことは、「人種の多様性^{ダイバーシティ}」という言葉にはもう一つの隠れた意味があるということだった。

「あそこの公立は多様性に富んでいる」と誰かが言う場合、それは微妙なところで「貧困層（主に有色人種）がいる」ということを示唆している。地区によっては在学児童の過半数が、英語が分からないことも珍しくない移民の国。建て前では「多様性の大切さ」を説く

アメリカ人も、自分の隣人として「多様な」人々が移り住んでくることに、そして自分の子供が「多様な」クラスメートと机を並べることにについては、非常に神経をとがらせる。

「本当の幸せはお金では買えない」とよく言われるが、ことアメリカの子供の教育と福祉を見る限り、まさに地獄の沙汰も金次第。「お金で買えない幸福」より「お金で埋め合わせがつく不幸」のほうがずっと多いと痛感させられる。

お金持ちはいよいよ学区に住めて、高いレベルの教育を子供に受けさせられる。たとえ地元の公立が気に入らなくても、学費を払えば私立に逃げられる。フランも二人の子供を私立の小学校に通わせているし、将来自分たちの家を買う人もそのような選択をすることを半ば期待している。

やっぱり私立へ

私たちも迷った末に、結局麻里恵を私立に通わせることにした。地元公立小学校の「多様性」が理由というよりは、面会した学校の校長先生の口から、在籍している日本人の子供の悪口を聞いたためである。

「ウチの学校にも日本人の子供は何人かいますよ。あ、あそこにいるS君、あの子も去年日本からやってきたんですよ。でもねえ、なんというか、とても幼稚



週一回のコンピューターの授業

な子でね、一年生の授業についていけないんですよ。あの子なんかは、本当はもう一年キンダーをやったほうがいいんですがねえ」

S君は直接私たちが知っている子供ではなかったが、狭い日本人社会のこと、どこでどう伝わるかもしれない。この校長先生はただおしゃべりのお人好しだったかもしれないし、私たちへのサービスのつもりでつい口がすべったのかもしれない。しかし同じ調子でいつ何時ウチの子の悪口も、他の日本人に言われるかもしれないという不安はどうしてもぬぐい去ることができず、結局苦しい家計の中から麻里恵を私立に通わせることになった。

麻里恵が通うことになった私立小学校は高い学費を徴収するだけのことはあって、絢爛豪華な設備とカリキュラムを誇っていた。

「アートのクラスで粘土細工をやっている」と言うので、どんなものかと思えば、うわ葉をかけ、炉で焼き上げた美しい陶器のキリンをもって帰るし、外国語教育も盛んで、スペイン語、フランス語、ギリシャ語、ラテン語、ドイツ語を各学年で必修として習う。

夕方スクールバスから降りた麻里恵が紅潮して「たのしかった！」と家に飛び込んでくる様子を見るにつけ、爪に火をともし苦労もむくわれるとよろこんだものだ。

ところが、この学校の親からはこんな意見も聞いた。「ウチは高い学費をはらって私立に通わせているのに、公立校を維持するために同じ固定資産税を払わされるのよ。これって不公平だと思わない？」

自分の払った固定資産税が（自分とは関係のない）公教育に使われることはおもしろくない。固定資産税はもっと「みんなのため」に使うべきだ。これは、含意として「公教育は貧困層のためにある」と言っているようなものだ。このような考え方が、学区の公立校のレベルを下げ、さらにアメリカの公教育のレベルを全体的に下げる結果となる。

ミシガン州のアナーバーに移ったときには少し期待

していた。ミシガン州は公教育に力を入れていると定評があるし、大学町のアナーバーの公立は親も教育への関心が高く、まあまあ安心できると聞いていたからだ。日本との行ったり来たりで貯金は底をつき、私たちに麻里恵を私立に行かせるゆとりがなかったこともある。

ところが、である。担任の「当たり・はずれ」はどこでもあることだが、アメリカの学校で担任に「はずれる」とんでもないことになる。

はずれた先生

麻里恵が通うことになったB小学校では、新学期が始まって二週間くらいしてから父母を対象にした説明会が開かれた。その席上で誰かが「このクラスには何人子供がいるのですか」と質問をした時、麻里恵の担任の先生は、信じられないことに、この質問に答えられなかった。自分のクラスに子供が何人いるか把握していなかったのである。

それだけではない。クラスの子供に折り紙を教えてくれと言われて出向いて行けば、前日先生から聞いたクラスの人数と実際の人数が違う。

個人面談の席上では、私が、

「マリー（麻里恵）はESL（英語補習クラス）にお世話になっていますが、クラスに帰ってきたとき、他

の子の勉強についていけているでしょうか」と聞くと、

「ESLに入れることに保護者が同意したのですから、そういうことをお聞きになることはおかしいんじゃないですか」

と、とりつくしもない。

「それでは、彼女がESLで教室を抜けている間、他の子供はどんな勉強をしているのでしょうか」

と私が食い下がれば、

「補習授業に出るために教室をときどき抜けるのは、なにもお宅のマリーだけじゃない。マリーがいない間に他の子がなにを勉強しているかなんて、私には分からない」と言う。

と聞く。

あげくの果てに、

「あなたは私を教師として信用していないのか！」

と頭ごなしにしかられた。

確かにその通り。私は彼女をまったく信用していなかった。自分のクラスに何人子供がいるか分からない教師に、全幅の信頼をおけるといって親がいたら教えてほしい。まあ、それを言えば喧嘩になるから、その場はなんとか丸く収めたけれど。

彼女との出会いが不幸なものになったのは言葉の問題やらお互いの誤解があったためかもしれない。親か

らあれこれ質問されることを、自分への批判と思って身を堅くしていたのかもしれない。

それはともかく、学校が大好きだった麻里恵も、私の不安を察してか「学校に行きたくない」と言い出す始末。ほかにも、ここでは書ききれないくらい、問題が次々と起こり、アナバーでの最初の三カ月は「まりえの学校問題」が私たちの最大の悩みとなった。

さて、日本の学校で担任に「はずれた」場合、どうするか。おおむね「運が悪かった」と少なくとも一年間はガマンするしかないだろう。

ところが相談した友人はほとんどの人が「校長に言って担任を変えてもらうべきだ」と言う。

B 学校に勤務するバイリンガルチューター（英語が母国語でない子どものカウンセリングもする）も「担任を変えたほうがいい」とアドバイスするし、児童相談所のカウンセラーも、「担任が変わるのは珍しいことではない」と言う。

学期半ばで担任が変わるなんて、おそれ多いことと思っていた私たちも、さんざん迷った末に資料を整えて校長先生に談判しに行った。その結果、一週間後に麻里恵は他のクラスに変わることになった。

「自由」なアメリカ

新しい先生の評判はおおむね「並」。親たちの評価

は「可もなく不可もなく」というものだったけれど、私たちにしてみれば、最初の先生とのゴタゴタで「学校への期待度」が極端に低くなったせいか、麻里恵がいやがらずに学校に行くというだけで有り難いと思ってしまう。

つけ加えておくと、担任変更の可否についても、学区により校長により方針が異なっている。「変更は絶対に受け付けない」と徹底しているところもあれば、イジメなど深刻な問題がある場合に限るとされているところもあるらしい。

B 小学校の場合、特に今年度は「問題の多い年」らしく、麻里恵が移った先のクラスからもこの三カ月で三人もの子供が他のクラスに移っていった。子供たちはこのような移動を「引っ越し」と呼んでいる。

私たちの経験したことが、アメリカの教育制度の中で、どこらへんに位置するのか、私には分からない。ただ、全体として見た場合、アメリカの公教育、特に初等教育は国際的にあまり自慢できるものではなさそうだ。

国際学力テストの結果で見ると、アメリカの子供の学力は決して高くはない。ピンからキリまでの幅が広いから平均値をとれば低くなるのは当然だが、トップクラスの子供の学力ですら、日本や台湾の平均的な子供の学力に及ばないらしい。

こうした調査結果を受けて「教育の危機」がアメリカで叫ばれ始めたのは八十年代。アメリカ政府の委員会や財団が立て続けにレポートを発表し、教育改革論議に火がついた。

公立校の地盤沈下

しかし、この十年間、アメリカ国内の貧富の格差が増大したことで、公立校の地盤沈下がいっそう激しくなったようだ。大統領をはじめ政界や財界のトップがわが子を私立に通わせれば、建て前はどうかあれ、公教育に関心が薄れるのも無理はない。

一九八〇年にアメリカ、日本、台湾の小学生の学力を比較調査し、アメリカの子供の学力がいかに劣っているかを「ラーニングギャップ」(邦題「小学生の学力をめぐる国際比較研究」)で発表して、大きな議論を巻き起こした教育心理学者のステイブンソンは、その後の追跡調査の結果から、ここ十年でアメリカと日本・台湾との学力格差はさらに広がったと指摘する。

ステイブンソンの研究でもいろいろなのは、アメリカや日本・台湾の親が子供の学力についてどんな考えを持っているかという点だ。日本や台湾の親で「ウチの子はよくできる」と自信を持っているのはごくわずかで、大半の親は「もっとがんばってもらわなくちゃ」と答えているが、それとは対比的に、アメリカ

人の親は大半が「ウチの子はよくできる」と大いばりしている。

マスコミで「アメリカの教育の危機」がかなり騒がれたこともあって、アメリカ人の親の中にも「アメリカの教育制度には問題がある」と思う人は増えている。にもかかわらず、わが子の学力にはいたって楽天的だ。つまり、問題があるのは「よその子」であって、「ウチの子」はちゃんと勉強しているというのだ。

こうした親の意識を反映してか、アメリカの子供の大半は「自分は勉強ができる」と答え、三〇パーセントの子供が、「算数ではトップクラスにいる」と自負している。



学校の入り口にある警告サイン。「学校の敷地につきドラッグ持ち込み禁止」とある

アメリカの親や子供がここまで楽天的でいられる理由について、ステイブンソンは、アメリカでは学区や個々の先生によってカリキュラムがばらばらで、子供の学力を客観的に判断する機会が少ないためだと指摘する。確かに麻里恵の例をとってみても、クラスを「引越す」前と後では教科書も違えば、教科の進み具合も遠足の回数も異なっている。しかも、同じクラスの中でも取り組むプロジェクトが個々の子供によって違う。こんな中では、他の子供と比較する機会は日本に比べると格段に少ない。

遊び時間の多い日本の学校

もう一つ、大半のアメリカ人の親が楽観的でいられる理由として、「日本の子供の学力は、詰め込み教育でバシバシ仕込んだだけだ」という思いがある。ことあるごとに「日本の学校は年間二百三十日、アメリカは百八十日」が強調され、アメリカの教育は「ゆとりがある」と評される。

だが、実際に学校の時間割を詳しく調べてみると、学校での遊び時間は日本のほうが格段に多い。日本では子供が学校で過ごす時間のうち約四分の一近くが放課後のクラブ活動など「勉強以外」の活動に当てられている。それに対し、アメリカではまとまった休み時間はランチタイムのみ。

アメリカの学校と日本の学校のどこが違うかと思いかと聞かれて、麻里恵が真っ先にあげたのも「日本では放課後がたくさんあってお友達と遊べたけれど、アメリカの学校は勉強ばかりで遊ぶ時間がない」ということだった。これを聞いたとき、私は目からウロコが落ちるような思いをした。

日本の教育は画一的で詰め込み式という見方には、日米両国で根強いものがある。日本は創造性をはぐくむ人間形成に欠けるとか、過熱する塾通いや受験競争、そしてイジメによる自殺。だが、実際に子供のストレスレベルを調べたステイブンソンは、不眠症や強迫症などストレスが原因とみられる症状は、アメリカの子供のほうに多くみられるというし、統計的にも子供の自殺率が高いのは、日本ではなくアメリカだという。

「自殺だけではなく、銃やドラッグで死ぬ確率も考えれば、アメリカの子供のほうがずっと高い危険にさらされている」

教育改革論議は日本でも盛んだ。そのキーワードは「ゆとりある人間教育」と「多様化」。アメリカが「学力増強」にやっきとなるのと対照的だが、どちらの国でも子供を一人前に教育するのは大変だ、ということには変わりがないようだ。

——つづく——

(写真提供・筆者)

おすすめの一冊

アメリカの風

ゆれる家族

宮城正枝 著

アメリカでもほんの三、四十年前までは、結婚や出産こそ女が幸せになる唯一の方法だと信じられてきたそうだ。

それがどうだろう。結婚しても男と女の関係が保てなければ離婚する中高年の夫婦。非婚・未婚で子供を生む女たち。かと思えば遠く韓国から養子を迎えるカップル。今までの家族観はすっかり覆されてしまったかに見えて、しかしなお新たな配偶者を求める努力をして何度も結婚に挑む。これらがみな、筆者の友人の例として紹介されているところに私は妙に感心した。

家族として共に暮らしたといっても、それぞれの家での筆者の滞在は数カ月ずつにすぎないのではないかと思うのに、

神奈川県藤沢市 木村澄子 (47歳)

学生時代からのような親しきで悩みを打ち明けあったり、一晚中語り合ったりする親友になったのは、筆者自身が、幸せになること、自己実現に前向きに取り組む女性であったからこそだ。

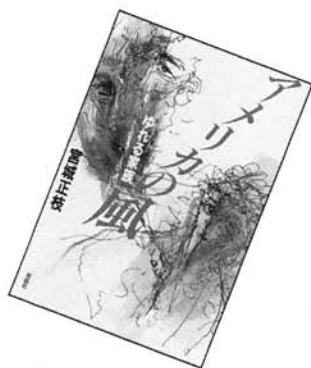
筆者が教師派遣のプログラムに応募し、四十九歳で仕事をやめて単身渡米したときと丁度同じ年ごろの私は、日々の生活に精一杯で、「跳んでる女」の反対の「這ってる女」と夫から言われたりしている。しかし本当はもっともっとよりよく生きることに貪欲にならなければならぬのだと、しみじみ思った。

「おむつ洗だけが人生じゃない」

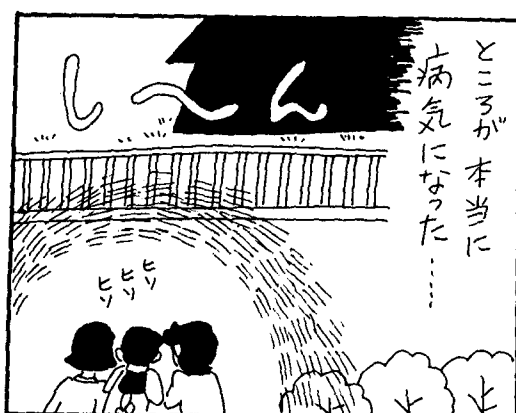
大家族の長男に嫁いで長い間「子宝に恵まれ」なかった私の母は、容貌に恵ま

れず生理も年に一度しかないような娘に、結婚や子供への幻想を持たせまいとしたのかこんな言葉を言ってくれたが、本当にそのとおりだ。

筆者は帰国後、短大で女性学を教え、前にもまして望ましい人生を生きることになった、と言う。本書に登場したのはごく普通の人だとあどろきでも強調しているが、筆者だって元からとくに突出していた人ではない。その飛躍のポイントが、本書に書かれているアメリカの女性たちとの交友の仕方にあられていると思うので、私も何かしたい、と思う人にはぜひおすすしたい。私も何かしたくなってしまう。



共栄書房 一二〇〇円







プラスチックの海

—おびやかされる海の生きものたち—



丹後玲子・佐尾和子
根本稔 編

今までに世界中で生産されたプラスチックは二〇億トンにも
のぼる。それらは決して消える
ことなく、海を漂っては生きもの
のたちを苦しめ、陸で処理され
ては有毒ガスに化ける。
石油化学企業がそれを作り続

け、私たちが使っては捨ててい
たら、やがて地球はどうなっ
てしまうのか？ その行く手の恐
ろしさを、まざまざと見せてく
れるのがこの本だ。
十一名の研究者によって詳述
された海洋汚染の実態を受け

て、著者たちが犯人退治をせんと日本中を駆けめぐる情熱に打たれる。こうなってしまう現状をどう解決したらいいのかわかる、それもちゃんと書いてある。読んでほしい、あなたにも！
海洋工学研究所 二〇〇〇円(早)

フランスには、なぜ恋愛スキャンダルがないのか？

“科学の目”の恋愛論



著 草野いづみ・棚沢直子

ミッテラン元大統領の隠し子も、カトリーヌ・ドヌーヴの非婚での出産もスキャンダルにならない国フランス。それはなぜなのか、を解きあかしている。一言でいってしまえば、カッブルの国であり、恋愛の国であるということにつきる。その

ルーツは十二世紀に叙情詩人たちが歌いあげた「騎士道恋愛」であり、女一人に男一人の不倫関係だという。この恋愛の延長上に、最近の「ユニオン・リール」(事実婚)という新しいカップルの形があるらしい。疑問点もあるが、とにかくこ

の比較恋愛文化論はおもしろい。夫婦愛神話を簡単に崩し、女性と男性が自立して自由に結びつく形へ、ウーマンリブの運動が成功したのもこういう国ならばこそ。うらやましいが恋愛を続けるのも大変そう。
はまの出版 一五〇〇円(下)

21世紀の男女平等法



中島通子・大脇雅子
編 中野麻美

男女雇用機会均等法成立後十年、日本の働く女の状況は好転していない。男女の賃金格差の大きさ、パートタイム労働者の低い地位、セクシャルハラスメントの被害、長い労働時間、困難な家庭と職業との両立、差別救

済制度も確立されていない現状。働く女性の弁護士団と、労働組合運動に関わる女性のグループが、上記のような問題点ごとに欧米諸国の法律・行政による社会改革の進展状況を、現地のレポートも盛り込みつつ紹介し、

さらに日本の現状を振り返り、二十一世紀の男女平等社会のあるべき姿を探っている。まずはザル法と言われる均等法を、抜本的に改正すべきだ、ということがよくわかる一冊である。
有斐閣 一七〇〇円(米)

女たちが語る
阪神大震災



ウィメンズネット・こうべ編

震災後すぐに「女たちの声」を集めようと呼びかけたウィメンズネット・こうべ。さらに女性支援ネットワークを発足させた。電話相談や被災地の女性たちの思いを語る会を開き、叫びたい気持ちで一ぱいだった女性たち

には何よりの救援となりました。その声を集めた本書は、マスコミでは報道されていない弱者からの生の叫びで一ぱいです。日本全国で起りうる震災に向けて、街づくりや女性の政治参加など提案も書かれています。

「地震から半年過ぎて」の座談会の他、女性を援助する相談・援助機関の全国リスト、寄付の送り先なども加えられていて、女性たちにとって保存しておきたい貴重な一冊です。

木馬書館 一二〇〇円(若)

動物病院26時

—獣医師ファミリー奮戦記—



清水宏子 著

夫とともに動物病院を開業し、一年三百六十五日、休みなく連れて来られる動物たちの治療に奮戦する、三人の子供の母親でもある獣医師の日記。

初めて動物病院へ行ったとき、皆毛布にくるんだ猫や犬を大事に抱きかかえ、心配そうに

お互いのペットの病状を話し合っているのを見て少々驚いたが、今や人間にとってペットは家族と同じ。口のきけない動物相手にあらゆるテクニク、知識を動員して(人間で言えば精神科から外科まで)動物を救おうとする姿勢に感動し、助かっ

た元気になったと書いてあると安心したり。動物好きにはこたえられない。ペットを飼っている方には具体的な個々の事例が参考になるはず。

また、仕事をもつ母親と子供の生活もかいま見られる。

文園社 一五〇〇円(夏)

軍国少女の日記



芹沢茂登子 著

一九三〇年生まれの著者が、女学生時代だった一九四三〜四五年にかけて書いた日記集。

そこには当時の社会状況が鮮やかに浮かび上がってくる。

彼女は父親が出征する時でさえ、父の喜びはいかばかりかと

人間が持つ本来の「再び会えないのでは」の恐れさえ、押し殺す言葉を書き付けている。

「軍国少女」は一朝にして出来上がるものではないことが読者に分かると思う。それは国の政策によって、教育で体に刷りこ

まれるのである。日記はまさに歴史の証言だ。

戦争を知らない人にも、体験者にも一読をおすすめする。

読み出したら引きこまれること受け合いだ。

カタログハウス 一六〇〇円(酒)

わたしたちの医療ボランティア

阪神大震災が残したもの

と松 せい 編・著
戸 成

一九九五年一月十七日、大地震が神戸一帯を直撃。被災者三十万人にも及ぶ大災害となった。その混乱を極めるなか、いてもたつてもいられない思いを胸に一路神戸を目指した医師、看護婦、主婦、学生……。本書は、その医療ボランティアが体験した震災ドキュメントである。

ある医師はありったけの薬剤を車に積んで神戸へ向かい、あ

る小児科医は被災者の心のケアに従事。またある医師は野戦病院しながらの医療現場に言葉を使いながら、気管支炎から骨折までの治療を一人でこなす。そして、多くの医療ボランティアが半壊した住宅や避難テントを回り、被災者に声をかけ続けた。だが、本書はけっして美談の集大成ではない。彼らはボランティア医療の責任のあり方に悩

み、去り際に心を痛める。自分の非力や素人ボランティアゆえの試行錯誤に苛立ち、後手に回る政策に怒りをぶつける。

災害時の医療体制の盲点とはとより、ボランティアのあり方、国がやらなければならないことまでをも個人の善意にゆだねる危険性。そのすべてを示唆した一冊だ。

ジャパンタイムズ 一五〇〇円(佐)

妻たちが別れを告げるとき

熟年離婚の七つのケース



鈴木喜久子 著

専業主婦から弁護士へという経歴を持つ著者が、自ら扱った熟年離婚のさまざまなケースを紹介しつつ日本の夫婦がかかえる問題を追っている。

たとえば妻が公務員の職を捨て、痴呆症の舅と寝たきりの姑との世話で苦闘しているとき、夫は手伝わずいたわりの言葉一つかけない。妻は会話のできる唯一の相手であった男友達と恋に落ち、家出した。こうせずに

は生きられないギリギリの行動であっても、この場合妻は有責配偶者となされ、離婚を実現するまでの道は困難をきわめた。一方この舅と姑は、ヨメが家出したため施設に優先入所できたという皮肉な結果に。女がよい妻よい嫁でいる限り、家庭には介護地獄しかないという日本社会が、多くの夫婦を崩壊させていると著者は指摘する。

外で働く妻に猜疑心を抱き、子供たちの前でレイプした夫がいる。女性も被害者側とは限らない。夫の借金に苦しめられたと訴え離婚を成立させた妻が、今度は自分の長年の恋人と現れ、彼のほうも離婚させてくれと依頼する。財産分与をめぐる金庫前で大乱闘を演じる夫婦も。結婚して十年を経た人なら読み通さずにいられない迫真の一冊。

河出書房新社 一四〇〇円(鈴)

老人ホーム情報センター発

軽費老人ホーム

「ケアハウス」その1

ケアハウスは現在たいそうな勢いで建設されており、一九九九年までに十万人分確保する目標で整備が進んでいます。

二五八号で紹介した軽費老人ホームA型やB型に比べると入居者の負担が多くなっていますが、基本的には年金で生活できる程度の費用設定となっています。

部屋は個室で単身用と夫婦用があります。入居者には生活相談、入浴サービス、食事サービスが提供されます。

〈入居資格〉

・六十歳以上の人（夫婦で入居する場合はどちらかが六十歳以上）。

・自炊ができない程度の身体機能の低下等が認められ、また高齢のため独立して生活するには不安があり、家族の援助が受けられない人。

〈ケアハウスの基本利用料〉

・事務費（人件費など）には公費補助があり、入居者の所得に応じて支払います。

支払額は一万円から九万二一〇〇円ま

で、所得に応じて段階的に決められています。
・生活費（飲食物費など）は全額自己負担。大都市の場合四万三六七〇円。

・管理費（家賃相当）も全額自己負担。この費用は施設によって異なります。地価や建設費の高い地域は必然的に高くなります。支払方法は次の三通りあり、施設によっていずれかの方法に決められています。

①入居時に一括払い

（百万円から二百万円まで）

②月々払い（七五〇〇円から三万二〇〇〇円）

③①と②の併用（入居時五十万円から。入居時に支払う金額によって、月々の費用が決まります）

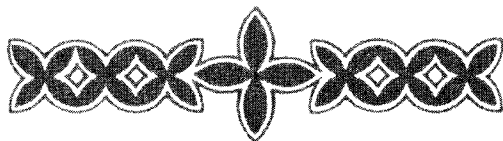
・他に共益費、自室の水道光熱費が必要。（右記の金額は平成七年度のもです）

〈入居契約〉

入居希望者と施設との直接契約ですから、施設に直接申し込みます。

担当 水落

☎03(3235)2854



フリースペース



彼女と神様

栃木県鹿沼市

神山 寿子

高校時代の友人が本を送ってきた。

彼女、本を出したのかな？

わくわくするようなうらやましいような
気持ちで開封した。

ありゃ、これはちょっと、一体どうい
うことなのか。

中から出てきたのは、宗教書とおぼしき
三冊の本であった。

「お元気ですか。私も元気で暮らしてお
ります。最近私は人格の向上をめざし、勉強
を始めました。最近の事件とかで、これは
何か宗教ではないかと考えるかもしれませ
んが、宗教ではなく、一人一人をよりよい
人間にするための本です。ついては是非読
んで、感想文を○月○日までに送ってくだ
さい。ではお元気で」

そんな手紙がついていた。

著者はさまざまな宗教を体験し、それに

飽き足らず、某聖地で悟りを開いた人物で
あると本に紹介されていた。

これこそまさに宗教の本じゃないの？と
思いつつ中を読んだ。

「我は神なり」

そんな言葉が目にとびこんできた。

「我は神なり」「我は神なり」、この言葉を
朝晩何度も繰り返すようにと書いてある。

「我は神なり」「我は神なり」

何か特定の神様を信じるのではなく、自
分の中の霊性とか仏性というものを呼び起
こすことを目的としているらしい。だから
彼女はこれは宗教書ではないと言っている
のだ。

全体に自己暗示のハウツー本を読んでは
いるような感じを受け、強く念じることで自
分が向上したり、ひいては世の中(?)が
よくなっていくようなイメージを植えつけ
ることを目的とした本ではないかと思った。

特定の対象を崇拝する団体が宗教団体
で、そうではないから宗教団体ではないと
は言えないのではないか。

むしろ、「我は神なり」と信じ込んでい
る人々の集団のほうが、より宗教的ではな

いだろうか。なんといっても一人一人が神様なのだから。

「自分が神様である」と思ったら、私たちはよい人間になれるだろうか。人を許し、人を愛し、人を尊重できるようになるだろうか。

反対に、神様である自分を受入れ、愛し、尊重しない人々を罰したり、拒絶したりしないだろうか。

自分を神と思うことは、心の中のことであるから、他人にとにかく言われることはないであろう。意見をすることではないかもしれないが、人は神になれるのだろうか。私は神にはなれない。

なろうとも思わないし、なろうと念じることもしない。

念じるとすれば「よい人になりたい」と願うほうが、私にとっては自然なことであり、普通のことなのである。

彼女が私に本を送ってきたのは、私を勧誘したいと思ったからか救ってやろうと思ったのか知らないが、かつて親しかったとはいえ、疎遠になってしまった友人にいきなり本を送りつけるやり方は、理解に苦

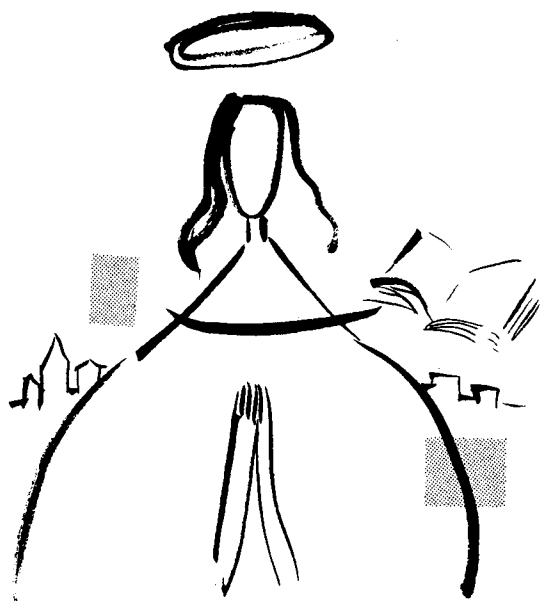
しむ。

彼女にどう返事してよいのかしばらく迷ったが、まず本を送り返してから、「こどもがまだ小さく、ゆっくり読書する時間がないので、感想文が必要なら誰か別の人に頼んでください」と、論旨をすり替えた

手紙を送った。

彼女からはその後何も連絡はない。

彼女が「神である」と念じているのなら、たぶん私を許してくれていると信じている。



ダイエットおたく？

東京都東区 高梨 陽子（53歳）

一昨年の十月に背中中の腫瘍摘出手術のため、およそ五十日入院したが、退院後は寒

い時期なので冬眠状態であった。三カ月半の間に食べ過ぎと運動不足のダブルパンチで、退院時の体重四九キロを五キロ以上もオーバーしてしまった。

昨年三月ごろから、歩行訓練とダイエットのためウォーキングを始めた。太るのは簡単だったが、一キロ減量するのも大変である。

体重が増えもせず、減りもしないで現状維持がしばらく続いたので、食事療法も取り入れた。これまでの食事の分量を二割減らすと、少なくとも一カ月に一キロは減量できるはずということで、ウォーキングと併せて実行することにした。

夏になると、暑い中のウォーキングが辛くなったので中止して、ダンベル体操に切り換えた。筋肉をつけて脂肪を燃焼して、ダイエット効果をあげる方法である。

ダンベルを始めた七月末にはダイエット開始時より一キロ減量していたが、その後三カ月間はまた横ばい状態であった。

十月下旬に体脂肪率を測定すると、三九パーセント少々オーバーしていた。この数値は極度の肥満四〇パーセントに近いものであった。

この結果に驚き、体脂肪率を下げる方法の指導を受けるために、区立健康増進センターで健康値測定をした。測定結果に基づいてトレーニングメニューが決まり、少なくとも週三日は運動するようといわれた。

週一回はトレーニングルームへ行き、後





の二回は上野公園を一時間ほどウォーキングすることを最低目標として、できればウォーキングとトレニングルームへも出かける回数を多くすることになっている。

トレニング開始は十一月末であったが、一カ月後の測定では、体重一キロ、脂肪率が一・二パーセント減少した。二カ月後は体重一・九キロ、脂肪率三・七パーセント減量、三カ月後には体重がわずかの三〇〇グラムの減であったが五〇キロとなり、脂肪率は一・五減で三二・七パーセン

トになった。

当初の減量目標が体重は五〇キロ、脂肪率三五パーセントであったので、第一目標はクリアできたことになり、次の目標をベスト体重の四七キロ、脂肪率は正常範囲の二八パーセントに決めた。

この他に、いま話題のダイエットテープに挑戦中である。このテープは体のぜい肉を引き絞める効果があるという。体全体がぜい肉の固まりなので、両手の十本の指に二十四時間巻いている。一月下旬から始め

て三週間が経過しているが、ウエストのぜい肉がしまったらしく以前のスラックスが入るようになった。テープを巻いている両手を意識するので、体重を減らす効果も期待できそうである。

ダイエットテープを手に入れるのが大変なのである。メーカーがフル稼働しているが、店頭に出ると即完売の状態とのことである。自宅近辺の上野にはドラッグストアが七軒あるが、全てが売り切れの状態であったので、別のテープで代用していた。数日後に少し離れたドラッグストアへ行くと、入荷したばかりで五個あったので、買占めてきた。

このテープは二十四時間巻いていれば、四週間で体が覚えてリバウンドしないというが、念のため八週間巻こうと思っている。

脂肪計つきヘルスメーターを購入して毎日計測してチェックしている。目標達成まで無理をしないで、一カ月最大でも二キロ減までとして頑張ろうと決めている。

この状態は他の人々から見ると、ダイエットおたくの症状らしい……。

支払命令書について

匿名

金を貸した相手は、平成四年一月より五年三月まで、共に暮らしたI雄である。

別れる際に、それまで用立てていた金の明細をつけ、借用証を書いてもらった。内容は左記のようなものであった。

借用証

〇〇子殿

金参百五拾八万六千五百四拾八円也

右記の金額正に借用致しました。

返済は平成五年四月より毎月五万円以上返済するものとする。

平成五年三月三日

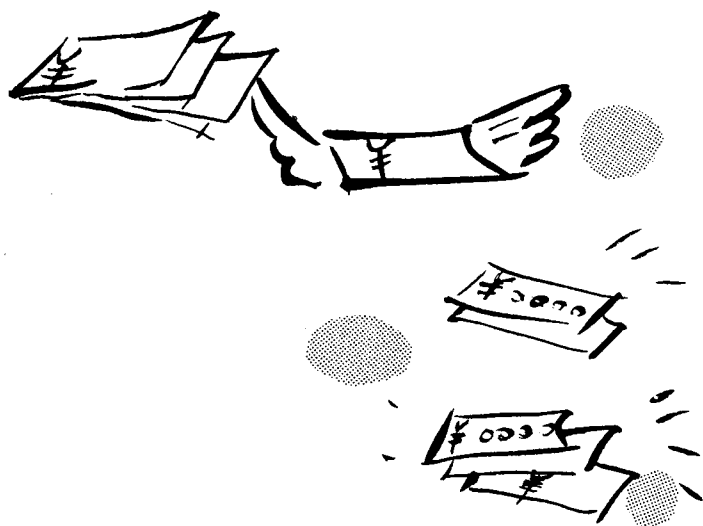
住所 ××市△△台二丁目一三番二〇

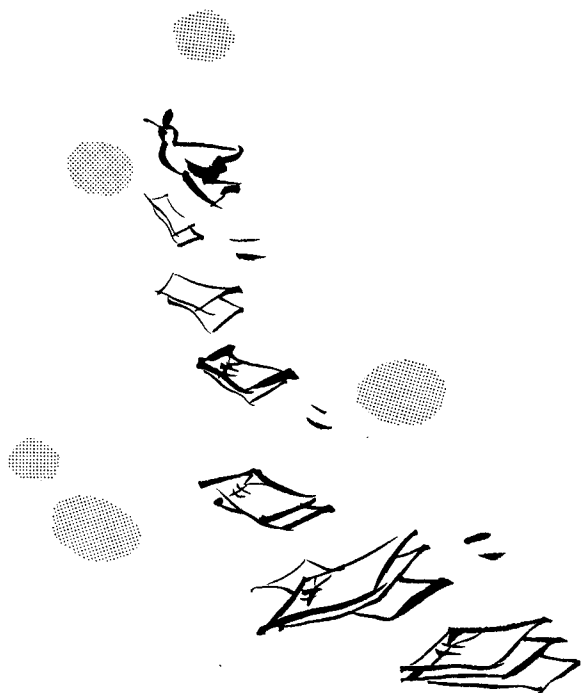
氏名 B山I雄

I雄に様々な事情があったにせよ、返って来た金は、六年三月末日までに二十二万

円であった。勿論、電話でも催促もしたが、思うように機械設計の仕事が入らず、心ならずも返す事が出来ず申し訳ないと毎度同じ話であった。

両親は幼児八十名を預かりM市では名前のとおった、無認可保育所を経営する人達であり、私もI雄と暮らした一年間のほとんどもを手伝っていたので、経営内容も知っていた。たとえ五十歳を過ぎた長男とはいえ、ひとに金で迷惑を掛けてるのを分かっている、何もしないで済ませるのかと怒り





もあった。

だが何の進展もなく、私は、市販の請求書を購入し、書留で送る一方、M市の婦人相談所に電話で相談したところ、「四月十八日に担当の弁護士が来所するので、直接会って話されませんか」と言ってくれた。

四月十八日に、相談所の会議室で、所

長、女性相談員、A弁護士（後で、この件を依頼した人）を前に事情を話した。このまま請求書を送り続けて法的に有効なのか？ 他によい方法はないか？ 持参した資料を出してみせた。弁護士は「直ぐにM市の簡易裁判所へ行き、支払命令書を出してもらいなさい」と言った。「支払命令書

が出された時、電話を下さい」とも。私はその足で同市内の裁判所の窓口へ出向いたところ、支払命令書というパンフレットも置いてあり、サッと目を通すと、個人であれば法人であれ、金を貸して返してもらえない場合支払命令書が出してもらえると書いてあった。

受付係に支払命令書を出して頂きたい旨を告げると「どういう種類の貸借か、金額はいくらか」と聞いて、書式をコピーしてくれたが、書きこめば済むというものではなく、タイプか、ワープロで作成しなければならぬのである（この時ほど、ワープロを持っていたてよかったと思った事はない。なぜなら、プライバシーに関わることであるから）。

支払命令申立書、当事者目録、請求の趣旨及び原因、の三枚一組で三部は必要、なかには、五枚必要のものもあった。

四月二十一日に、再度、請求書を送っておく。五月一日に、M市簡易裁判所（以後簡裁と記す）宛てに、書留にて送る。

五月二日に簡裁より電話があり、書類を受理した旨と、請求をどのように行なった

か、貸金の明細がはっきりとした書面があるのかなど聞かれた。審査に通らねば命令書は発行されないらしいとわかる。

五月十七日に簡裁より特別送達として支払命令書が送られて来た。I雄方へも着いてびっくりしたと思う。まさか私が法的手段をとる事など考えもしなかったであろうから。

直ぐA弁護士へも命令書が発行された旨伝えた。

六月八日簡裁より書類が届く。内容は、I雄に金を貸す事になった経緯など文書にして印紙一万二千三百円、郵券五千五十円と共に、六月十四日までに、必着との事。困った。

文書の書き方がわからない、何しろ役所の文書（文章）が難しいのは世の常と思われる。直ぐA弁護士に電話をするが相手も多忙な弁護士、十三日しか打ち合わせが出来ず、総ての資料と思える物を持って話す。とても私の手に負えないと認め（？）て。A弁護士も直ぐそれを察して「自分に委任してくれば、十四日に簡裁に書類を提出して、その後の事は、私がやりましょ

う」と。「費用は着手料二十五万円要りますが、必ずしも成功するとはかぎらないので、この費用もパーになるかも知れないが……」と。私はそれも仕方ないと思った。

法的に総て決着するなら気持ちにもケリがつくのではないかと思えたからである。

翌日十四日に、二十五万円を弁護士の口座に振込む。

それから少したち、九月十二日に弁護士より簡裁からの文書が送られてきた。内容は債務者の弁明書と言えるもので、確かに借りたが、M子（私）が、すすんで貸してくれたし、そのかわりと言っては何だが、保育所で働いてもらい、少し高い報酬を払ったというような事が書いてあり、苦笑した。そして裁判でなく調停にかわっていた。

九月二十九日に調停が開かれるので、簡裁に出て来るように弁護士から言ってきた。二十九日の朝、弁護士が打ち合わせと言って、案を示した。即金で二百万円払ってくれば後は、放棄する。分割支払いなら誰か保証人をつけること。こちらの主張を裁判官に伝える。

わいふ文章講座のすすめ

公民館、女性センター、社会教育課などのご依頼で、しばしば「わいふ文章講座」を開いています。

編集長田中、副編集長和田、わいふから巢立ったライター達を講師とし、五回から十回までのコースがあります。東京から遠いところ（大阪、新潟など）になると、田中か和田が一人で行って一回だけの講座ですが、初めて書く人にも分かるように、原稿用紙の使い方から自分史、インタビュー記事などのまとめ方までご説明しています。お住まいの地域で開きたい方は、お電話をください。資料をさし上げますので、それを持って公民館、教育委員会の社会教育課などに開講を頼んでみてくださいれば、引き受けてくれるところも多いと思います。

十月二十九日に簡裁にて、和解の調停で久しぶりにI雄に会う。I雄は、一年目三万円二年目から五万円支払う事にして下さと言う。

弁護士は、それを聞いて、遅滞した場合（六万円まで）、以後は一括払いで利息一〇パーセントをつけるように主張した。裁判官は、領いてI雄に、「保証人つけることが出来ますか」と聞くと「母になってもらいます」と。そして「次回には、その保証人と印鑑を」と念を押していた。後で弁護士に聞くと「調停の席で保証人になる事を承知してもらわないと後で面倒な事になると困るから」といった。その日は一時間ほどで終わった。次回は十一月一日に開かれるが、弁護士がひとり出るからとの事で、私は勝手に和解が成立するものと思っていた。

ところが弁護士から、十一月三十日に調停が開かれるので、十一月二十九日に、私がつけていた帳簿（平成四年、一年間の）と出納簿を見せてくれと連絡があり持参する。その時「I雄が言うには、母を保証人にする事は家族の反対で出来なかったぞう

だ。裁判官に相当しぼられたが、首に縄をつけて保証人という訳にはいかず不調になった。また、母親自身が弁護士の自分の事務所まで、なれないと言ってきた」と言われて、あの家族ならと思いつつも、内心腹が立っていた。

十一月三十日の簡裁では弁護士が、「私に委せて下さい」と言うのでそうする事にした。

そして調停和解成立文書として送られて来たのが第六回口頭弁論調書（和解）であった。これで一応形だけは終わったが、また一方、これが約束通り支払われて初めて終るのだ。第一回目が八年一月十三日に弁護士事務所まで弁護士を通じて支払われた。そして、その日、弁護士に成功報酬として十五万円支払った。

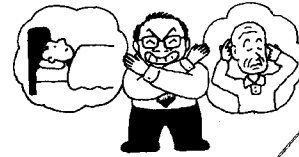
私には初めての事であり、これが最良の方法であったのかもわからない。

支払命令書を通してしか知らない弁護士との（費用はどういう計算の方法か？）つきあい方。こういう事に詳しい方が読まれて、是非補足してほしいのです。

（元・カステラネンコ）

確率を信じますか!?

自分は絶対に「寝たきり」や「痴呆」にはならない。



1/10

- 65才以上人口のうち「寝たきり」「痴呆」の人数割合
- 80才以上の割合は

1/2.5~5

介護費用保険 40才女性Sタイプ月払保険料(55才払済)9040円

■ 親切・丁寧・シツコくない、わいふ指定代理店杉本保険事務所です ☎03-3260-4771



マンシヨンの悩みは 一緒に考えましょう!

現在百二十七の管理組合の集合体であり非営利団体の集住センターが「マンシヨンライフフェア」を開催します。第二回にあたる今回の特色は相談コーナーとイベントの充実です。ペットのしつけ方教室も注目されています。

▼日時 四月十三日(土)、十四日(日)

▼会場 東京都立産業貿易センター (浜松町駅徒歩5分)

▼入場料 無料

▼入場券を希望される方は集住

センター事務局に連絡を。

☎〇三―三二六九―一三九

服飾展

晴れの装い

〜日本・アジア・西洋〜

世界各地の晴れの装いを、婚礼、祭礼、社交などの目的別に文化学園服飾博物館の収蔵品の中から八十点展示します。

日本は産着、七五三の祝着、

婚礼の打掛など、アジアは婚礼衣裳を中心とした韓国、インドネシア、インドなどの晴着。

▼期間 四月五日(金)〜

六月二十一日(金)

▼時間 午前十時〜午後四時三十分(月〜金) 午前

十時〜午後三時(土)

▼入館料 一般五百円



▼会場 文化学園服飾博物館

〒151 渋谷区代々木三二二

☎〇三―三二九一―二三八七

絵本、児童書、育児書、

幼児用教材を譲って

絵本、児童書、育児書、幼児用教材を譲ってください。

また、就学前の教育について、育児全般について、語り合いませんか。

読書と書くことが好きな方、

自分の趣味と子育てをうまく結びつけて、毎日を豊かにしたい、と模索している私に、お便りをください。

〒245 横浜市戸塚区上矢部町七五

四―一〇一 高垣有希(29歳)

とちぎの人集まれ!

「1996」会員募集中

“わいふ”二二九号に初めて会員募集のお知らせが載ってから、はや六年目に突入しようという

超ミニコミ「1996」です。

身の回りのささやかな一言から、天下国家を論じる意見まで、なんでもありで運営中です。

編集も当番制。本年度は神山が担当いたします。

切手添付の返信用封筒十二枚プラス千円が会費です。

申し込み問い合わせは郵便で。

〒322 栃木県鹿沼市茂呂二四一―四五 神山寿子まで。

リサイクルショップに

興味のあるヒト

この指とまれ

リサイクル&ミニショップの

お店を開店、営業したいのですが、こういう事に興味のある方、応援して下さる方。お知らせを、おかし下さい。

連絡をお待ちしております。

〒140 品川区八潮五―八―四三―

四〇二 進藤しんどう(みち子)

☎〇三―三七九九―一九八一

出版しました

「育児ほっ」と ステーション」

「クレヴァカンパニーズ」は、主婦を中心に千五百人が活動している全国組織のネットワーク。このたびメイン活動である会報の中から、会員相互の育児についての情報交換をまとめた体験的育児書を出版。専門家執筆の育児書と違い、ひとつの質問に対して複数の実体験が掲載されている事でより適切な助言を選択出来るのも利点。

▼「育児ほっ」とステーション」

(クレヴァカンパニーズ編)

▼せせらぎ出版 一二〇〇円

▼ご希望のかたは郵便振替

〇二一〇二二二二〇五



▼クレヴァカンパニーズまで

▼入会希望の方は九〇円切手同封の上

〒670姫路市御立東二一三四一六
長沼美由紀まで。

アトピー性皮膚炎で

お悩みの方に

難治性の病気であるアトピー性皮膚炎が、一週間程度でよくなります。体内の活性酸素の異常発生が原因であることを究明した、生化学の世界的な權威である丹羽毅負医学博士が、全国各地で診療しています。著書に「アトピー99%治癒の証明」「アトピーがぐんぐん良くなる本」

(出版・日本テレビ) などがあります。ガン、リウマチ、膠原病などにも効果を上げています。関心のある方はご連絡下さい。

〒179東京都練馬区光が丘三三七

一七五〇一 南 千歌子

〇三一九九八三四四五

「カーニバルが

やってきた」という

面白い本をどうぞ

世界中のあらゆる人種のエネルギーが満ちあふれる、カーニバルにも似た街角の息吹きを描写。

ストリート・チルドレン対策や麻薬問題、インフレにあえぐ生活にめげず、マイペースをつらぬくバイタリティーの素は何かを解きあかしている。

ODA(政府開発援助)の環境で、ブラジルにJICA(国際協力事業団)の技術協力専門家として赴任した著者が、南米の素顔を紹介している好著。

▼宮崎修輔・宮崎芽子 共著
▼理工図書発行 一五四五円



いい学校の

情報を求めます!

“わいふ”編集長の田中は、子育て問題を研究していますが、その延長上に、今の様な時代でも本当に父母の目からみて満足のいく「いい学校」があるかどうか、知りたいと考えています。

そこで見なさんの中で、「うちの子の通っている学校はほんといい学校だね」とお思いの方、ぜひ一報ください。小・中学校、公・私立を問いません。

その反対に「うちの子の学校は、ホントにダメ。箸にも棒にもひっかからない!」と嘆いている方も一報ください(こっちのほうが多かったりして)。

▼「わいふ」まで

〇三一九三六〇一四七七

わいわいがやがや

もっと鍛え
なくては……

神奈川県中郡●石井しのぶ（37歳）

先日、地域の子供会役員六人で、一年間の仕事を無事終えた打ち上げに、子供が学校に行っている時間にボーリングに行った。

私にとって十何年ぶりだったが、まあ悪くてもスコア八〇くらいは出せるだろうと考えていた。はじめてみると、一投目二投目の七本はまずまずとして、三投目からはガーターの連続。おかしい。こんなはずないと、丁寧に投げるのだが、玉は横にそれていってしまう。

三人ずつ組になった相手チームのほうはストライクやスペアが出ていたのにこちらの三人はガーター続き。「このレーンがおかしいんじゃないの」と誰か

が冗談半分に言い出し、機械の調子がおかしかったこともあって別のレーンに移動させてもらった。しかし、結果は前と同



きた。確か昔は三ゲームくらい平気でできたのに……と自分の体力の衰えにがく然としてしまった。

じ。これはレーンが悪いのではなく、自分たちの技術の問題だと三人とも気がついた。中でも私は投げる直前の玉の重みに耐えきれず、二度も両手をついて前にころぶという不様さ。一〇キログラムの玉を八キログラムにかえてからもよろけること数度。重心をかける右足は山登りをした時のようにブルブルして

結局、二ゲームやって私はトータルスコア一〇九の最下位。考えてみるとトータル二〇〇を越した隣のレーンの三人は、今も外で働いている人ばかり。こんなところに目ごろの体力の差が出てしまうとは思ってもしなかった。それでも二ゲーム中にストライクとスペアを一回ずつ出せたことだけはよかつ

た。

帰りころ、私のもはすでに
痛くなり出し、おふろから出る
と疲れがどつと出て九時半には
寝てしまった。このままではな
んとなく自分自身納得がいかな
い。また同じメンバーで夏ころ
やることに決めたので、それま
でひそかに練習して、今度こそ
スコア一〇〇以上を出してみたい。
そのためにはこたつにばかり
入りっぱなしで、もっとどん
どん体を動かして筋肉を鍛えな
ければ……と心に誓ったのだっ
た。

“わいふ”と謝礼

埼玉県新座市●上田はるか

新聞の投稿欄に掲載される
と、必ず「謝礼」が届く。相場
は、三千円くらい。

自分の文が活字になり、その
上お金を頂戴できるのだから、
やめられない。今までは、もっ
ぱら新聞へ投稿していた。

“わいふ”とは、ずっと読むだ
けのお付き合いだったが、昨年
思い立って、初めて投稿して、
掲載していただいた。嬉しく
て、何十回読み返しただろう。

そして、私は、「謝礼」を期
待していたのである！

“わいふ”は、いくらくれる
のかしら。新聞社ほど、高くは
ないわね、きつと」と、それは
それは、楽しみにしていた。

ところが、待てど暮せど、
「謝礼」は来ない。そうこうし
ているうちに、次の“わいふ”
が届いてしまった。

愚かな私は、ここで初めて気が
つく。

“わいふ”に、投稿謝礼なん
て、ないんだ！

その上、ケチな私は、はたと

悩んでしまった。

「なんだ。“わいふ”に投稿す
るのをよして、謝礼のあるところ
へ、投稿しようかな……」と。

そう思いつつ、届いた“わい
ふ”を読んでいて、ふと目にと
まったのが「わいふ文章講座の
おすすめ」だった。

「……わいふから巣立ったライ
ター達を講師とし、……」とい
う文に、心が動く。

愚かでケチな上、浅はかな私
は、頭にバツと、自分が「わい
ふから巣立ったライター」にな
っている光景が、浮かぶの
だった。

その後、“わいふ”とは、と
にかく書きたい人のためにある
雑誌と、少しずつ理解してきた
私は、「謝礼」がなくても、
やっぱり“わいふ”に投稿し続
けることにした。

私の頭の中では、相変わらず
「わいふから巣立ったライ

自費出版は

“わいふ”へどうぞ！

“わいふ”編集部では自費出
版の制作をしています。本を
お出しになりたい方はぜひご
利用ください。

自分史、回想録、旅行記、
童話、詩集、歌集、同人雑誌、
絵本、コミックまで、何でも
作れます。

費用はモノによりいろいろ
違ってきますが、市販よりは
確実にお安いです。事情を伺
いご相談に応じますので、ぜ
ひお問い合わせください。

イラストも用意できますし、
文章をお書きになれない方の
ために、聞き書きのまとめも
いたします。

人生の記念に計画なさって
はいかがでしょう。

ター」になるという、とてつもない大きな夢が、広がっている。

とある「アンケート のお願い」について

新潟県新潟市●和田まゆみ

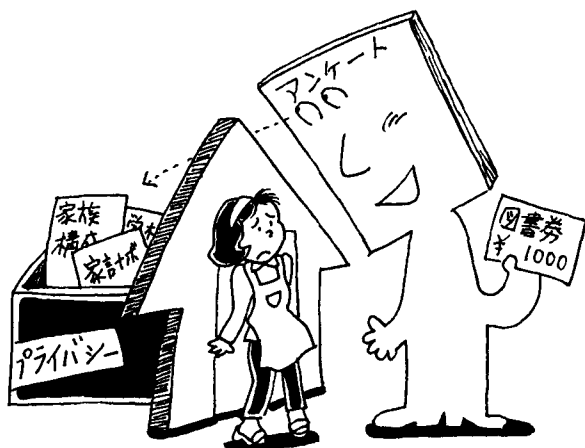
昨年の暮れも押し迫ったころ、某主婦向けの生活雑誌編集部から「アンケートのお願い」が届いた。十五ページにもわたる内容を見て驚いた。家族構成から始まって、食費と献立一週間分、毎日のこまごました家事の事、一日の時間の使い方、子育てについて、家計の現状等々、実に細かな質問が並んでいる。貯蓄の種類・金融機関名・利率・満期日・金額の一覧表を書けというものである。このアンケートを全部記入すると、

もう我が家には、何の秘密もなくなってしまうほどだ。

最初は協力しようかなと思っただけどやめてしまった。まず、

一月六日が締め切りなんて時間的に無理である。暮れは主婦にとって一番忙しい時期だし、お正月は少しはのんびりしたいからだ。また「プライバシーを固く守ります」とは書いてあるけれど、世の中「絶対大丈夫」という事はないので、その点も心配である。そして何と言っても、これだけのプライバシーを書かせておいて、お礼が「千円分の図書券」とは！これが実は一番、頭にきたとは我ながら少し情けない気もするが、それにしてもあまりに図々しい「お願い」だと言えるのではないだろうか。

とは言っても私もその雑誌を買って、他の家の家計簿なんかを参考にしているのだから「今



度は、あなたの番よ。さ、家計簿見せて」と言われただけの事かもしれないし、答えたい人が答えればいいだけの問題かもしれない。

しかし、何か心にひっかかるものがある今回の「アンケートのお願い」ではあった。

口臭

「お母さんのお口、うんちの臭いがある」
匿名

まさか、うんちを食べたわけではなし。どうしてそんな臭いになるのでしょうか？

話を始めたたん、相手が反射的に手で鼻を覆うとか、身のけ反らせるなどの経験はありませんか？

また、そこまでいなくて

も、話し相手が口元に手をあてて話をするなど、一日に何人かにそうされると、今日は口臭がひどいのかと異常に過敏になってしまいます。気にしすぎる私もしけないのですが、口臭は自分自身ではわかりにくいものです。

いったい口臭の原因はなんなのでしょうか。夫は疲れている時、体調の悪い時など臭います。子供は、虫歯のある子は、たとえ治療していても、ない子に比べ口臭があります。そうすると、私の歯はほとんど虫歯だらけ。おまけに、歯科



医に、「前歯二本の歯茎は、腐っている」と言われたこともあります。他に原因として考えられることは内臓。私の場合、胃液の分泌が普通より多いそうです。そして鼻は鼻炎もちです。しかし、これを治療するために小さい子を連れて長期耳鼻科に通う気力はないのです。

私自身、これくらいしか知らないのですが、原因というのはもっと色々あるでしょうね。

私は話好きですし、いずれは再就職も考えています。でも口臭が気になると、どうも引込み思案になってしまいます。無口になるばかりか、性格まで暗くなってしまいそうです。

なにかいい方法、知識があればでしたら教えて下さい。

口臭でお悩みの方、たくさんいらっしゃると思いますがどうでしょうか。

(え・小宅昌枝)

私もひとこと

時事放談で言い忘れたこと

東京都世田谷区 田中優子

今回「時事放談・専業主婦論争」に参加し、大変刺激を受け、楽しんで帰って来た。が、一つ言い忘れて心残りなことがある。それは……私はけっして現在専業主婦をやっている人（その人自身）を責めたり軽蔑したりするつもりは全くない、ということだ。保育所が足りない、思うような仕事に就けない、様々な事情はよくわかっている。どうかその点、誤解のないよう読んでいただきたいと思う。

秋水の名誉回復

滋賀県大津市 緒方洋子

一月二十四日のNHKニュース「幸徳秋水 刑死85周年墓前祭」に関する一連のニュースに、心の底から飲びがこみあげてきました。

朝日新聞高知支局版の幸徳秋水の関連記事の中には「中村市では史跡巡りコースに秋水の墓地を入れる……」「日本のルソー」とも。秋水を描いた名著・瀬戸内晴美の「遠い声」を読み憤りを感じていた私は、今回の名誉回復をおおくの方に知ってもらいたいと思う。

声変わり

千葉県市川市 村上悦子

中二の息子の身長が急に伸びて、声が変わり始めた。話していても別の人の声のような気がして、まだ慣れない。もう前の声を聞くことは絶対に絶対にできないのだ。頭では理解していたつもりだったが、男の子を育てるということとはこういうことなのだ、と強く感じた。私にとっては、私より背が大きくなることよりも、ショッキングなことだった。ほんのこの間までの声を、聞きたい……。

パチンコ依存症

福岡市中央区 加藤君子

まじめで何の趣味もない人が停年退職後、暇つぶしに始めたパチンコがやめられず、とうとう退職金や家までも手離してしまった、という人の話を知人より聞きました。

まさかそこまで、と思いました。最近少しずつそんな人が現われていると知人がいました。私も一度、あのキラキラしたコンピューター付のパチンコをやってみたかと思いましたが、はまりそうでやめました。

先生よく見て

千葉県茂原市 米良恭子

先生と娘の会話。「外人さんに部屋を借してる?」「??借してません」「通ったら男の外人さんが見えたから」「??いませんけど」「でも窓を開けてそうじをしていたようだったよ」「??家を間違えてませんか」「前から知ってるもの。二階の端の部屋だった」「!あ、それお兄ちゃんです」「えーっ!」

茶髪を見なれている娘は先生の勘違いに気付くのに手間どりました。

姑の見事な最期

横浜市磯子区 十文字圭子 (33歳)

二五八号で載せて頂いた、痴呆の症状が出始めた姑が、一月の末に突然亡くなった。特別養護老人ホームへの入所の手続きに、長兄が行っている間に……。大好きだったお風呂の中で、心臓麻痺だった。私たちの心配をよそに、結局、誰かの世話になる前の死だった。いつも誰かの世話をしてきた姑の、見事な最期。暮れに生まれた息子を、一度も抱いて貰えなかったことだけが、心残りだ。

忘我のひととき

埼玉県深谷市 布施孝子

「わいふ」購読開始。活字にあふれた誌面心が躍る。だが育児真っ最中ゆえに、なかなかじっくり座って読めず、オンブしながらの「二宮金次郎」スタイルが多い。子育ては体力、と切実に感じるが体力ばかりでなく気力までも消耗されないようにしなくては! 初誕生を迎えすさまじい成長を遂げ続ける娘に刺激されてか、こま切れ時間をつぎあわせて忘我のひとときを楽しんでいる。

卒園謝恩会

東京都世田谷区 匿名

子どもが幼稚園を卒園(修了が正式な表現)する時、母親が中心になって開く「謝恩会」。母親が歌、劇、ダンスなどの練習をして、園児と先生に披露したり、会食をして、お世話になった先生方に感謝の意を表わすというもの。その準備で三学期は本当に忙しい。ヒマな専業主婦だから協力できるものの、負担が片寄ったり、人間関係への影響が心配だ。不思議な風習だと思う。

五十二歳 今青春

東京都大田区 荒井照子

以前「わいふ」の広告で知った、K式で描く絵の教室に月に一回通って六回が過ぎた。お絵かきといった方がいいかもしれない。小学生から五十代くらいまでの十数人のグループで、その月の課題を二時間で仕上げる。今までの手法と違ってだれでも描け、なによりも楽しいのがいい。花を見ても空を見てもあお描けそうと気持がはずむ。更年期などさようなら。今、私五十二歳。青春しています。

もったいない話

千葉県松戸市 倉持和子

先日、ワープロでプリントアウトしていたら、いい所でインクリボン切れ。悔しくて、強引にA面に引っくり返してセットボタンを押したら、ナ、ナントちゃんとプリントされて出てくるではありませんか??

あの、もしかしたらインクリボンで、表裏何度でも使えるのでしょうか。私、AB一度ずつだと思って……。先日の自費出版で使った十本、とくにゴミに出しませんでした。

Femme

ファミテイク

Politique

編集室より

官僚はどう責任を取るのか？

田中喜美子

●おそろしい、ほんとうにおそろしい。
「オウム真理教」がサリンで殺した人よりも、はるかに大勢（現在四百人余）の人を殺したエイズ薬害。これからも、どれだけの犠牲者が出るか、はかり知れません。

最大の責任者は当時の厚生省研究班の班長のポストにあった人らしい。しかし非加熱製剤の危険性は当時の関係者もある程度知らされていたわけですから、程度の差こそあれ、他の人々も厚生省も同罪です。

この薬品を売り続けられ、エイズにかかる人が出る、とわかっているのに、会社利益をあげさせるためにそれを黙認する人間たちのおぞましさ。

●住専問題にも、同じ構図があります。「ファミ・ポリテイク」の十一号で、住専問題のコラムを書くことになり、背景をいろいろ調べてみると、一般に思われているよりはるかに大蔵省の責任が大きいのです。なのにその大蔵省も、政治家も「母体行」の責任ばかりを追及して、自分たちに責任追及の矛先が向くのを何とかしてかわそうと必死です。

母体行も、住専も、農林系金融機関も、借金を返さない企業も、たしかに悪い。しかし彼らの「悪さ」は、欲に目のくらんだ愚かさです。銀行では当時、不動産関係に融資をしなければ、担当者はバカ扱い。勢いに押されてのめりこんだこと

には、多少、情狀的量の余地はあります。

権力の座にいる人間は、これに反し、もうけのためにバブルに踊らなくとも自分の身があやうくなる必然性はありません。

●そもそも住専問題の不祥事の最初の、そして最大の原因は、バブルの発生にあります。そのタネを蒔いたのが、アメリカのレーガン大統領の円高・ドル安誘導に唯々諾々とのって、金あまりの状況を作った中曽根首相。それに追隨した日銀・大蔵省です。

彼らはまた、バブルが極限状況にくるまで、生ぬるい手しか打たず、ホンネのところでは税金の「自然増収」を喜んでいたので。その彼らが、自分のことは棚にあげて、もっぱら「悪いのは母体行」とぶちあげている。

●驚くことに、「バブルに踊ったのは国民みんな。一億総懺悔が必要」という声がまたしても新聞紙上に現れてきています。モウ、日本人は何というお人よしなのか。この道はいつか来た道。

こんなふうに、何となく範囲をひろげてぼやかし、本来責任を負ってしかるべき人を免罪してしまう。戦争責任につ

ても同じでしたよねえ。この心理からぬけ出ない限り、責任あるポストについている人々の「無責任」はいつまでたっても直らないのではないのでしょうか。

よく言えば寛容、悪く言えば正義感がない。万事まるく治めることが好きなあまり、正義を正義としておこなわず、不正を見てもうやむやにしてしまうというこの姿勢は、日本人の性格の最悪の部分ではないか、と思われてなりません。

●ひとりひとりのいのちの大切さを忘れ、経済優先の姿勢をとり続ける厚生省にも同じ構図がはびこっています。深刻の度を加える高齢社会で、これからも無数の悲劇が発生するでしょう。

厚生省の姿勢に関しては、生井久美子さんの「付き添って」（朝日新聞社）——これはすばらしい本です——をぜひ読んでみてください。現在のようなおかみに私たちの将来を任せておくことが、どれほどおそろしいことかよく分かります。しっかりと目を開いて、官僚行政を見つめましょう。

そのためにもっとも大切なことが、「情報公開」だと思います。

わいふ 投稿規定

●定期購読者はどなたでも(男性でも)投稿できます。原稿には住所(郵便番号、都道府県名から)、氏名、会員番号を明記のこ
と。誌上匿名・ペンネーム可。

次のコラムを設けています。

●エッセイスト・クラブ

(二六〇〇字まで)

びたりとキマった文章、豊かな内容を持った随筆をお寄せください。

●ズバリ一言(二六〇〇字まで)

オピニオン、評論、改善策の提案などの欄。政治、事件、芸術から身近の商品

サービス、その他細かいことまでも何でも遠慮なく言ってください。ただしなるべくあなた独自の考えを。

●マイジョブ・マイホビー

(二六〇〇字まで)

本格的な職業生活から、パート、アルバイト、内職までの仕事について、また楽しみ、生きがいとしての趣味について、いずれにせよあなたの活動報告をお待ちします。

●家族と私(二六〇〇字まで)

一つ屋根の下にいる夫や子供はもとより、別居している親(舅・姑も含み)、成人して離れた子供、他人の始まりといわれる兄弟姉妹など、とにかく「身内」とあなたの関係レポートをどうぞ。

●おさない子を育てる

(二六〇〇字まで)

子育てはやはり、女性にとっての最大の関心事です。おさない子はかわいい、けど子育てはホントにしんどい!現実のなから、あなたと子供のありのままの関係を浮きぼりにしてください。

●大人になりかかった子供たち
(二六〇〇字まで)

反抗期、思春期、青年期の子供と親の関係についてお書きください。大きくなった子供の問題は、これまであまり言い立てられなかったと思いますが、若いお母さんにも将来の参考になるはず。体験談をお待ちします。

●忘れ得ぬ人々(二六〇〇字まで)

印象の深かった人の姿を描写してください。想い出の中にある人、現在関わっている人どちらでもけっこうです。いやな奴、すばらしい人、奇人変人、あなたの詳しい観察を。

●フリースペース(二六〇〇字まで)

どんなテーマでも書けます。思想・信条にかかわらず、一〇〇パーセント言論の自由のある「わいふ」ならではのコラム。

●わいわいがやがや(八〇〇字まで)

誰でも気軽に書けるコラム。

●サーブレシーブ(八〇〇字まで)

本誌の投稿や記事についての反響をお載せします。感想、反論、何でもどうぞ。

●ピンポイントニュース

(四〇〇字まで)

ねえみなさん聞いて聞いてーと言いたいほんのちょっとした話のページ。こうやったら簡単に天井の掃除ができた、でもよし、安い旅館をうまく見付けた、でもよし。安い買い物、すてきな商品、何でもみなさんの役に立つごくごく小さいニュースを集めたいのです。

●おすすめの一冊(八〇〇字まで)

書評のコラム。女性問題にかぎらず、視野の広い読書体験を。

●情報コーナー(四〇〇字まで)

お知らせ、募集、お願い、探しもの、交換、相談、何でも。なるべく短く、要点をまとめてください。

コラム以外の投稿募集

●特集テーマ原稿

毎回テーマを設定して募集しています。

●特別寄稿

ルポルタージュ、自分史、伝記、旅行記、その他の体験記、評論、小説、どんなジャンルのものでもけっこうです。枚数も

自由。本誌に適當と思われるものは掲載します。長編なら連載になります。

本誌には合わないが、価値ありと思われるものは、出版社に紹介、推薦します。

●カット・イラスト・写真・コミックも募集しています。ご自分の投稿にイラストや写真が用意できる方は、あわせてお送りください。

注意

●投稿は一人一篇に限ります。

●ただし次のコラムへのご投稿とは違ってかまいません。サブレシープ・ピンポイントニュース・私もひとこと情報コーナー。●投稿は原稿用紙に。本誌はタテ組みです。ので、ヨコ書きはご遠慮ください(書き直すことになるので)。

●ワープロ打ち原稿は、字詰め二十字、二十行を一枚に、行間をあまり詰めないよう、また禁則処理をしないで打ってください。

●ファックスでの投稿は受け付けません。

●投稿は多少添削することがありますのでご了承ください。

●締め切りは原則として偶数月の二十五日

(当日必着)。それ以後に着いたものは次号まわしとなります。規定枚数はきっちりではなくともよく、長くても内容がよければお載せします。

●他誌との二重投稿はお断わりします。

●原稿はお返しできませんので、必要な方はコピーをとってからお送りください。

●匿名、ペンネームは原稿の最初に。住所本名は、そのすぐあとに併記してください。

また整理の都合上、住所には郵便番号を付記し、本名には会員番号(本誌送付封筒の宛名の下と、振替用紙にあります)を付記してください。

●ペンネームをいくつも使い分けるのは、ご遠慮ください。居住地もとくに理由がなければ記載したいのでよろしく。ただし匿名・ペンネームは原則として自由であり、書くことの自由を守るためであれば、むしろ積極的に評価します。濫用は困る、ということです。

●年齢をお書きそえになりたい方は、名前の下に算用数字で。

●おたよりで掲載ご希望でない場合は、必ず私信とお断わりください。

次号投稿募集

●特集テーマ原稿

次号のテーマは「トラブル旅行記」または「珍談奇談旅行記」です。

旅行は、味気ない日常から脱出できるうれしいイベントですが、どこへ行くかとガイドブックを眺めたり、持ち物をかばんに詰めたりして、いざ出発……ということろまでが一番楽しいのだ、という話があります。行ってみれば期待が大きかっただけに、失望するような事態が起こりがちだからでしょう。

国民宿舎というから、おかみの息の掛かった大きな施設かと思いきや、いにしえの木賃宿とはこんなものか、というような汚い小さい家だったり、ぬるいぬるい露天風呂にびっくりにしたり、冷め切った料理につくりにしたり。

その他さまざまなトラブルに遭った方も多いと思います。ひどい目に遭った旅行体験、または忘れられない珍談・奇談があった旅行について、お書きください。

四千から六千字。締め切り四月二十五日。

●時事放談

今回のテーマは「考えられない？ 夫の過労死」です。

ご存じのように、今回の特集テーマは、「夫の過労死は他人ごとか？」で、四通のご投稿がありました。いずれも深刻な労働状況の現実と、社会の非情さを描きだしていて、読者に強いインパクトを与えるものだったと思います。

しかしこの現実とは、ほんとうに一般的なもののなか？ 特定の企業の、特定の上司の、特定の働き蟻の問題ではあるまいか？ 編集部でも、「まさかこれほどは」という人あり（夫が企業人間ではない人がそういうのです）、いやとんでもない、うちの夫の会社でもそうよ、という人あり。そこでもう一つ突っ込んだかたちでこの問題に迫ろう、ということと同じテーマで座談会をいたします。

日時 四月二十日（土）午後二時より
場所 「わいふ」分室

今回は土曜日にしてみました。参加をお待ちしております。出席ご希望の方は、十日までに編集部へお電話ください。

ご要望がしばしばあるので、原稿の添削をすることになりました。添削して欲しい方は、左記の要領でお送りください。

●添削のみ希望の方は、原稿の最初に「添削のみ希望」と赤字で書くこと。

●「わいふ」に投稿して、さらに添削希望の方は、「投稿、添削も希望」と原稿の最初に赤字で書くこと。

●投稿して、ボツになった場合のみ添削して欲しい方は、「ボツのときは添削希望」と、原稿の最初に赤字で書くこと。

添削料は四百字詰原稿用紙一枚につき（ワープロ原稿は20字×20行で打つこと）二千円いただきます。返送の際振替用紙を入れて、返送料共にご請求します。

誤字、仮名遣い、文法、文脈などの誤りを正したうえ、編集長か副編集長が講評をいたします。

編集長の著書「書きたい女たちへ」も、基礎を勉強したい方にはおすすです。ご注文ください。

父母と子の立場から教育・学校を考える

母と子 4月号

五〇〇円・千七六円
(見本誌(旧号)進呈)

今月の視点

担任と親たちの協同

『母と子』12月号臨時増刊(二〇三〇円・千八四円)

地域がつくるPTA

千葉県松戸市の地域PTA「松P研」／一九七五年創立
毎月続く定例学習会／PTAの課題・情報を市民やPTAに発信／その歩みと存在意義を考える／各地にこんな地域PTAがほしい！

「松P研」に学ぶ

父母と教師の共同学習の可能性…………鈴木喜代春
住民の自主・共同学習と松P研…………高瀬義彰

「座談会」「松P研」の歩み

武市春江／野原佐久良／伊東由紀

機関誌「松P研」が発信したものの
私にとつての「松P研」◆焦燥感からの解放 北川

節子◆市民大学そして駆け込み寺 龍 孝光◆教育

運動の灯台 小倉きよ子◆新設校でのPTAづくり
鹿又克之◆「こだわり続ける」ことに学ぶ 若月雅英

「松P研」アンケート／「松P研」の学習・活動テーマ

お申し込みは書店か母と子社へ

〒203 東久留米市中央町五十四-八
☎〇四二四-七四一九一二五

母と子社

創立50周年記念限定出版

しなやかに女たち

婦人民主クラブ50年の歩み

■定価2000円(税込み) ■発行/婦人民主クラブ
■B5版 250頁(写真50点・年表50頁)

沢村貞子さん(長年の新聞読者)

長く苦しい戦争がやっと終って呆然としている
私たちに、これからの生き方をやさしく教えてく
れてありがとう。

婦人民主クラブ

お申込み方法 住所、氏名、電話を明記の上、
上、はがき、FAX、電話で
お申込みください。代金は後払いです。

〒150 東京都渋谷区神宮前3-31-18 TEL.03(3402)3244/3238 FAX.03(3401)3453

私もひとこと

タイトル・住所・氏名

本文

投稿してみたけれど、長いのはチョツと
という方のために新コーナーができました。
暮らしの中でふと感じたこと、伝えたいで
きごとなど、どんなさやかなことでも結

構です。あなたの声をお待ちしています。

このコーナーの投稿には、右の原稿用紙をご利用ください。

●タイトル、住所、氏名は一行めに。もし、

二十字を超える場合には罫目にこだわらず
小さい字で、住所、氏名は他のコラムを参
照してください。

●二行めかゝ本文、全体で九行一八〇字。

編集室から

●桜の開花とともに入学・進級は我が家にも訪れてくれました。

受験体制は子どもが減少した

今も昔と全く変わらず、知識偏重のままで。成績だけのランクで選ぶのではなく、誰もが進学したい学校や環境で学べることが出来る社会に、早くなって欲しいと思っています。(菊池)

●長らく事務を担当してまいりましたが、このたび六十五歳の節目を機に引退します。十五年間ただもう夢中の充実した日々でした。多くの人との出会いがありつながりを持てたことが何よりの収穫で、これからの私には貴重な財産といえるでしょう。有難うございました。(辻浦)

●透析を受けるようになり、病院と家庭とを往復する単調な生活の中にいて、自分の殻に閉じ籠もりがちだった私を、外の世

界に眼を向けさせてくれたのが「わいふ」でした。週に一度お手伝いに出るだけですが、私にとって「わいふ」は活力のもとになっています。(成井)

●無事「わいふ」がお手元に届いたようですネ。発送が終わり一番ホッとしている私です。そしてポツポツとかかってくる中止の電話を受ける悲しい時でもあります。いろいろな思いが受話器の向こうに感じられ、残念！と思いつつも平平常心、平

心で答える私なのです。(野村) ●今号から編集部にてデビューしました。すると投稿が来ること来ること。「投稿を呼ぶ女」と呼んで下さいといばっています。慣れないのでスリル満点。とてもないことが起こってヒューッとなったら、皆さんごめんなさい。私の呼び名に偽りないよう次号も投稿待ってます。(浅野)

●「夫は過労死した」を読ませ

ていただき、身につまされました。私の夫も働き蜂でしたので、ずいぶん心配したものです。この国の男性の働き方、変わってほしいですね。

次号の編集は連休のころ。新米の私としては、一日も早く原稿が届くことを……。 (間瀬) ●グラビア「ヴァラエティ・ライフ」へもご投稿ください。

原稿用紙二枚ほどの文章と写真十枚ぐらい(説明文をつけて)送っていただけませんか。締め切りはありません。いつでも受け付けます。個人でもサークルでも。このスペースを使ってください。(望月)

●ハイスクールレポート(わいふの出している私立高校のガイドブック)担当になってはや七年、今年も最終段階に入りました。長く寒かった冬も終りもう春、思いきり手足を伸ばして、ゆっくり温泉にでもつかろう、

ウヒヒ……。でも受験生諸君はこれから頑張つてネ。(山本) ●何かやかましい編集部だなあ……と思っているが、自分の声の大きいことはタナに上げている。編集長の田中は時々躁(さく)になる人で、私は鬱(ふさ)だと言いたいしているが、自分のことをタナに上げる者はうつどころでないらしい。

「軽症うつ病」という本を読んだ分かった。(和田) ●「いじめられっ子も親のせい？」という恐るべき題名の単行本を書きました。「いじめ」に関する親の責任について、これまでほとんど誰ひとり言ったことのない視点から論じているつもりです。「いじめ」に負けない子を育てるにはどうしたらよいのか、問題はそこなのです。出版は「主婦の友社」から。読んで下さったら嬉しいですよ。(田中)

編集だより

●目ざしが明るくなり、ときどき風も暖かく、春がついそこまで来ているのが感じられます。「住専」と「薬害エイズ」でもちきりの二月月でした。

●二月一日に「わいふ」二五八号の発送作業中、半分以上袋づめにしてしまってから、背表紙のところに汚れのあるものが混じっていることに気がつきました。

表表紙が汚れていることはときたまあるので注意してはいるのですが、今回は背表紙のところだったので発送作業の途中まで気づかなかったのです。

万一皆様のお手元におなじような汚れのあるものが届いておりましたら申しわけなく、悪しからずお許しください。交換を希望なさる方はご遠慮なくお電話くださいますように。

●この号から、「編集室から」というタイトルで、わいふ編集部全員が一筆ずつ書く欄を設けました。

現在のメンバーをご紹介しますと、田中喜美子編集長、和田好子副編集長、その他

編集では、望月浩子、間瀬中子、浅野厚子、事務は庶務の辻浦知津代、成井登代子、野村康子、会計の菊池裕子です。年齢は六十ウン歳から四十ウン歳まで（誰が一番トシかはヒミツじゃー！）。

以上九人が「わいふ」誌編集に中心的に関わっているスタッフですが、実際はもっと大勢の人が働いています。

●というのは「わいふ」はアルバイトとして他団体の機関誌や単行本の編集・製作なども行っているからです。毎年発行する「ハイスクールレポート」の編集を独力でこなしてくださる山本郁子さん、「わいふ分室」の「老人ホーム情報センター」の水落時子さん、外部で「わいふ」の校正をしてくださる青木千恵さんなど。ときには狭い狭い編集部（約十五坪）に十人くらいがひしめきあい、酸欠気味。ああもっと広い部屋がほしい……。

●今回の投稿数は百通、力作ぞろいで選ぶのに嬉しい悲鳴でした。くればくるで悲鳴、こなければこないで悲鳴、まったくどうかと思えます！ でも皆さん、やっぱりたくさん投稿してくださいね！

購読申込は……

ハガキか電話でどうぞ。すぐ本に振替用紙を添えてお送りしますので、折り返しご送金ください。バックナンバーのご注文も同様に。

WIFE・259

（隔月刊）

1996年5月1日発行

編集・わいふ編集部

定価550円（本体533円）

（年間購読料送料共4500円）

印刷・平河工業社

発行所・（株）グループわいふ

東京都新宿区矢来町115

東海神楽坂マンション406

〒162 TEL (03)3260-4771・4773

郵便振替00150-3-110430

加入者名 わいふ編集部

購読中止は……

必ずお申し出ください。送金をお忘れになる方が多いので、誌代が切れても引き続き送本しています。お申し出がないとお送りしてしまうので、ぜひハガキか電話を。

●生活者の視点から本音を書いたもの●これからの国政、市政、企業に参考になる本●社会を動かしている方々が参考にされた本●

なぜ、日本人は誤解されるか

低い視点から—国際化と日本人

評論家 安田千恵子著

定価1000円(〒240円)

日本人の行動を鋭く追求した本。その筆致は身辺雑記を通じて物事の本質に次々に迫ってゆくのである。(日本工業新聞書評)

現代日本社会のひずみ

低い視点から

評論家 安田千恵子著

定価1700円(〒240円)

通勤地獄が日本人の文化? 屈かぬ消費者の声、巨賈のなくなった百貨店、良書のなくなった本屋、地方の繁栄、確かな目 など。

弱者に優しい世界へ

評論家 安田千恵子著

定価2000円(〒310円)

戦勝国の論理は正しいか、高齢化社会の問題点と具体的な解決策、モノを作りすぎる弊害、豊かさとは、など。

男の世紀は終わった

西洋と日本との差

評論家 安田千恵子著

定価2000円(〒310円)

デンマーク、スウェーデンの高齢者福祉、日本の高齢者福祉の現状、必要なところにお金が回らない仕組み、災害対策、など。

お申し込みは、直接、左記へお願いします。また、5000円以上、お買い上げの方は、送料無料でさせていただきます。

堀内出版

〒101 東京都新宿区中落合5-18-7
03(3200)1506 電話 03(3200)1507

教育史料出版会

〒101 千代田区三崎町1-2-2
☎03(3291)3571

ハイスクールレポート

自分にあつた学校をえらぶ私立高校ガイド

入学してからでは遅すぎる!
服装・頭髮規定は? 生活指導の身中は?
どんな行事があるのか? 力を入れてい
る教育内容は? 進学への取り組みは?
学校生活がこの一冊で見えてくる!

関東版 わいふ編集部編 4月末刊 ★1850円

関西版 公立校も収録 / 5月末刊 ★1750円

子どもはなぜ ★1545円

渡辺 学校に行くのか

自分にあつた ★1650円

早川裕子 高校のえらび方

●生徒・父母・教師が綴る 私の北星余市物語

やりなおさないか
君らしさのままで

北星学園余市高校編
中退生を受け入れる北の学園! ★1545円

農文協

〒107 東京都港区赤坂7-6-1

☎03(3585)1141 [各社込定価]

●内容案内内 /

あっつにバターやジャムを
たっぷりぬって食べましょう!●だれでもできるおいしいパンのつくり方
はじめてのパンづくり奥蘭壽子著 3つの基本生地だけで応用は40以上。道具は
極力少なく細かい計量もなし。ヘルシパンからお菓子パ
ンまでの作り方。イラスト多。カラー口絵付 *1350円

■パンの本

大好評! ■

カンタン流手づくりパン 坂本 眞子 *1400円

天然酵母で国産小麦パン 矢野 さき子 *1200円

天然酵母で国産小麦の和風パン 矢野 さき子 *1300円

●国産小麦のお菓子とパン
林弘子著 ●粉の特徴を生かし手作り酵母で焼く「パン、お菓子」には
グルテン分の多い輸入小麦の常識をくつがえす美味本 *1400円

今夜は台湾料理

酒井美代子著 食の万華鏡。台湾。その家庭で簡単にできる75品を、作
り方、素材等をカラーで紹介。●A4判 80頁 内カラー38頁 *1400円●女性の力をあわせ、やあ始めよう!
はげん女性の「食」業おこし

行衆争当にせい!

女性活用の実例集

樋口恵子・あたけきこ編著

朝市、直売所、高齢者宅配など、女性ならではのアイディアと技
術を生かした「食」の仕事おこしと運営の本。 *1800円

タイ家庭料理入門

うめ子・ヌア・フント他 サラダから酒のつまみまでを詳解。 *1700円

ネパール家庭料理入門

山田英美 足立でできたネパールの家庭の味五〇種紹介。 *1700円

フィリピン家庭料理入門

原田瑞美 スペイン、中国、米国、のハロハロ(ませ)せ料理。 *1700円

最新刊

●素材の持ち味を生かし切る料理集!
簡素な食事の本 ●四季の味、
いつもの味千葉道子著
*1500円シンプル(簡単)でおいしい(素敵)質素とはちがう、洗練
された簡素なおいしい食事の基本と応用百六〇のレシピ /

●農文協の好評クッキングブック

だしの本 千葉道子著 ●毎日のだしから
選りだしも *1300円
●股取りスミーズ、仕上がり
ピタリ *500円
津村麗香 ●読んで楽しい実
用乾物百科 *1600円
藤井平司 ●かたの四季
と野菜の四季 *1240円

●校庭の「自然」を教材化する画期的な絵本!

校庭の自然とあそぼう

全10巻

山田卓三編 / かねもりよしのり他絵 ●A4判 各38頁

意外に多い校庭の「自然」雑草から樹木、
人気の学校農園、そして虫たちと楽しく
あそんでふれあう方法を、絵本にまとめた
待望の新シリーズ。●小学生中級以上向
●全10巻 *揃価16,000円(分売可)生活科に理科に
特別活動に
多様に役立つ!

- 1 木とあそぼう ①
- 2 木とあそぼう ②
- 3 雑草とあそぼう
- 4 花とあそぼう
- 5 野菜とあそぼう
- 6 土や石とあそぼう
- 7 池や水とあそぼう
- 8 虫とあそぼう ①
- 9 虫とあそぼう ②
- 10 空や風とあそぼう

最新刊

●栽培学習のすすめ方がよくわかる、先生のためのノウハウ集
●学校園の栽培便利帳 ●日本農業
●教育学会編学校園をやってみたい、畑がない、どんな作物がいいのかの疑問に
すべて応える先生のためのはじめての栽培教育必携書。 *1900円
●学校園ビジュアル教室 ●全6巻 / 揃価8,800円 / 中学生 /
学校園の栽培便利帳を含む学校園実習のための学校園書館用セット